

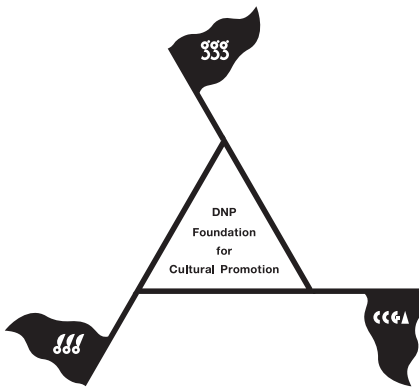
Graphic Art & Design Annual



2022

DNP Foundation for Cultural Promotion

Graphic Art & Design Annual



[表紙デザイン]

自分の中に芽生えた本当に小さい小さい光を見つけて、勇気を出して引っ張り上げてみました。

そうしてモニターから離れ、粘土を捏ねる時間は触覚の世界。

スマホも触れないし手もカサカサになる。

みんなが働いている時間に少し悪いことをしているような妙な感覚も伴って、なんだか生を感じました。

高田 唯

[Cover Design]

I discovered a truly tiny, tiny ray of light burgeoning within me, and with courage I attempted to extract it.

So, moving away from my computer screen, I began kneading clay and entered a tactile world.

I couldn't touch my smartphone, and my hands became rough and dry.

I had a strange feeling that I was doing something slightly bad while everyone else was working – but I somehow felt alive.

Yui Takada

Graphic Art & Design Annual 2022 ggg ddd CCGA

Publication: DNP Foundation for Cultural Promotion

DNP Ginza Building, 7-7-2 Ginza,

Chuo-ku, Tokyo 104-0061

Phone: +81 3 5568 8224

Planning & Editing: DNP Foundation for Cultural Promotion

Art Direction: Shin Matsunaga

Design: Shinjiro Matsunaga, Moemi Kiyokawa

Cover Design: Yui Takada

Photography: Mitsumasa Fujitsuka (ggg), Akihito Yoshida (ddd)

Translation: Rei Muroji

Printing & Binding: Dai Nippon Printing Co., Ltd.

Contents

目次

はじめに ————— 5

北島 義俊 (公益財団法人DNP文化振興財団理事長)

序文:

グラフィックデザイン: 3-in-1 ————— 6

ジャンピン・ヘ (グラフィックデザイナー / 出版者)

1 展示事業 ————— 15

ギンザ・グラフィック・ギャラリー (ggg) 2022-23 ————— 16

京都dddギャラリー (ddd) 2022-23 ————— 32

CCGA 現代グラフィックアートセンター 2022 ————— 42

2 教育・普及事業 ————— 51

ggg, ddd ギャラリートーク ————— 52

ddd 特別対談 2021-23 ————— 56

CCGA 版画工房ワークショップ ————— 60

出版活動 2022-23 ————— 61

3 アーカイブ事業 ————— 63

DNP グラフィックデザイン・アーカイブ ————— 64

4 国際交流事業 ————— 69

動物会議ポスター展 — 日本のグラフィックデザイン (ローマ) ————— 70

巡回: 動物会議 — 日本のグラフィックデザインに見る動物の世界 (パリ) — 71

巡回: スポーツ・ポスター展 — 日本のグラフィックデザイン50年 (パリ) — 72

食のデザイン — DNP文化振興財団所蔵ポスター展 (ケルン) ————— 73

企画展「永井一正: 永遠への軌跡」協力 (香港) ————— 74

AGI総会トリエステ2022 ————— 75

5 研究助成事業 ————— 77

グラフィック文化に関する学術研究助成 ————— 78

2022-23年度 助成実績 ————— 81

展覧会概要 2022-23 ————— 82

展覧会一覧 1986-2023 ————— 86

ギャラリー概要 ————— 96

Foreword ————— 5

Yoshitoshi Kitajima (Chairman of the board of directors, DNP Foundation for Cultural Promotion)

Introduction:

Graphic Design | 3-in-1 ————— 10

Jianping He (Graphic Designer / Publisher)

1 Exhibitions ————— 15

ginza graphic gallery (ggg) 2022-23 ————— 16

kyoto ddd gallery (ddd) 2022-23 ————— 32

Center for Contemporary Graphic Art (CCGA) 2022 ————— 42

2 Education & Enlightenment ————— 51

ggg, ddd Gallery Talk ————— 54

ddd Special Dialogue Program 2021-23 ————— 56

CCGA Print Studio Workshops ————— 60

Publications 2022-23 ————— 61

3 Archiving ————— 63

DNP Graphic Design Archives ————— 64

4 International Exchange ————— 69

The Animals' Conference – Japanese Graphic Design ————— 70

Tour : The Animals' Conference – Animal Worlds in Japanese Graphic Design — 71

Tour : Japanese Sports Posters – 50 Years of Japanese Graphic Design — 72

The Design of Food – Posters from the Collection of

the DNP Foundation for Cultural Promotion ————— 73

Support : Kazumasa Nagai: From Now to Eternity Exhibition ————— 74

AGI Congress Trieste 2022 ————— 75

5 Research Grants ————— 77

Graphic Culture Research Grants ————— 78

2022-23 Financial Support Activities ————— 81

Review of ggg, ddd and CCGA 2022-23 ————— 82

List of Exhibitions 1986-2023 ————— 91

Galleries' General Information ————— 96

Foreword

はじめに

2022年度、京都dddギャラリーは、4回の企画展を開催し、7月には太秦から四条烏丸へ活動拠点を移しました。リニューアルオープンとなった「ddd DATABASE 1991-2022」展では、ddd歴代展覧会の内容をデータベース化してWEBで公開するとともに、ポスターを一挙に展示しました。また、丸山新氏率いる&Formとの共催による「フォーム・スイス」展では、スイスの多様なデザインや教育、ライフスタイルや価値観など、スイスの現在の姿をデザインの視点から多角的に紹介し、好評を博しました。

現代グラフィックアートセンター（CCGA）では、3回の企画展を開催しました。なかでも、「タイラーグラフィックス・アーカイブコレクション 名品展」では、ヘレン・フランケンサラー、デイヴィッド・ホックニー、ロイ・リキテンスタイン他、財団所蔵作品の中から選りすぐった名品を公開し、多くの方の来場がありました。なお、CCGAは、12月をもって一般のご来館者向けの展覧会および教育普及活動を終了しましたが、今後もグラフィックアート作品収蔵施設として、銀座、京都と連携しながらアーカイブ事業を継続してまいります。

ギンザ・グラフィック・ギャラリー（ggg）では、7回の企画展を開催しました。戦後のイラストレーション界を牽引してきた宇野亞喜良氏の展覧会では、DNP出版イノベーション事業部・ブッククリエイティブ推進室と連携し、特殊印刷による新作を制作し、発表しました。

2021年7月より開始したオンライン企画では、グラフィックデザイナーと異分野のエキスパートとによる対談を5回開催し、インターネットによる配信も行いました。

国際交流事業では、国際交流基金ローマ日本文化会館からのご提案により「動物」をテーマとした日本ポスター展を実施しました。本展は、その後、パリ日本文化会館へも巡回されました。その他、「スポーツ」そして「食」という、生活に密接したテーマを題材とした日本のポスター展の海外巡回も継続しています。

ようやくコロナ渦での社会活動の制限が解除され、日常が戻りつつあります。当財団としては、芸術文化の内包する前向きな力を信じて、積極的に文化事業を推進して参ります。今後とも、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

In fiscal 2022, kyoto ddd gallery (ddd) mounted four exhibitions. In July, the gallery relocated from Uzumasa to Shijo-Karasuma. The first show at the new location was *ddd DATABASE 1991-2022*. Here, in tandem with the creation of a database incorporating data on all previous exhibitions held at ddd, a full complement of posters was placed on exhibit. This was followed by *FormSWISS*, a show mounted in collaboration with &Form, a visual design studio led by Arata Maruyama. Visitors were given a multifaceted introduction to contemporary Switzerland from the perspective of design, including the country's diverse design trends, educational framework, lifestyles and values. The exhibition was extremely well received.

Three exhibitions were held at the Center for Contemporary Graphic Art (CCGA) in Sukagawa, Fukushima, during fiscal 2022. Especially popular was the *Masterpieces from the Tyler Graphics Archive Collection* exhibition, which featured a carefully selected array of renowned works in CCGA's collection by designers including Helen Frankenthaler, David Hockney and Roy Lichtenstein. The exhibition drew a large number of visitors. In December 2022, CCGA's exhibitions open to the public and educational activities drew to a close. Going forward, CCGA will continue to function as a graphic art repository undertaking archiving activities in liaison with ggg in Tokyo and ddd in Kyoto.

A total of seven exhibitions were mounted at ggg (ginza graphic gallery) in fiscal 2022. *Kaleidoscope* featured works by Aquirax Uno, one of Japan's leading illustrators of the postwar era. On display was a selection of new works created using a special print technique achieved through collaboration with DNP's Book Creative Promotion Division (Publishing Innovation Operations).

The ddd Special Dialogue Program, which was launched in July 2021, this year hosted five events in which graphic designers spoke with experts from various other fields. These events were posted online to reach a wide audience.

In the area of International Exchanges, during fiscal 2022 an exhibition of Japanese posters on the theme of "animals" was mounted in Italy at the suggestion of The Japan Cultural Institute in Rome. The show was subsequently held in France at The Japan Cultural Institute in Paris. Other traveling shows, these featuring Japanese posters on themes closely entwined with our everyday lives – sports and food, also took place during the year.

Today, restrictions on social activities imposed during the pandemic are finally being removed, and everyday life is gradually returning to normal. At the DNP Foundation for Cultural Promotion, we will continue to proactively promote cultural activities based on our strong belief in the positive power imbued in the arts and culture. We sincerely ask for your sustained understanding and support in the years ahead.

公益財団法人 DNP文化振興財団 理事長
北島義俊

Yoshitoshi Kitajima
Chairman of the board of directors, DNP Foundation for Cultural Promotion

グラフィックデザイン：3-in-1

ジャンピン・ヘ

グラフィックデザイナー／出版者

シャンプー、コンディショナー、フケ予防のトリートメントがひとつになった「3-in-1（スリーインワン）シャンプー」は多くの読者がご存知だろう。この「3-in-1」の考え方は優れたデザインにも通じる。私の好きなデザイナーの一人、石岡瑛子は、デザインに「誰にもまねできない（Original）、革命的（Revolutionary）、時代を超える（Timeless）」という3つの資質を求めている¹。私はこの石岡の定義が最も優れていると長年思ってきた。「誰にもまねできない」とはデザインの背後にある想像力を指し、「革命的」であることは技術革新の境界を押し広げる。そして「時代を超える」にはデザイナーの時間に対する考え方、歴史に対する姿勢が込められている。「誰にもまねできない」「革命的」の2つの要素が揃うことで、デザイナーは時代を超えたデザインを生み出すことができる。これもまた3-in-1の考え方であり、効果的であると同時に有益なものである。

1930年代、中国の随筆家であり哲学者の胡適は「良い文学」に対する自分の考えを幾度となく説いている。良い文学は3つの資質を備えているべきとし、「第一に明快で理解しやすいこと。第二に感動的であること。第三に美しいことである」と記した²。偶然にも、石岡の3-in-1は胡のそれと似ている。グラフィックデザインは情報を伝えなくてはならない。この行為は精巧かつ明確になされる必要がある。情報は正しく伝え、デザインは誤解を招くようなものであってはならない。これが基本である。それが押さえられていなければ、デザインは意味をなさない。では、情報が氾濫している現代において、見る人の心をつかむにはどのような方法でメッセージを伝えればよいのか。

伝達手段は力強いものでなければならない。力といっても手先の問題ではなく、知性の問題である。巧みな表現と力強い想像力によって心の変容は起きるのである。3つめの「美しさ」は先の

2つの考えの上に成り立つものである。この2つの要素を満たしながら美しさを表現することができれば、デザインの高みに到達したことになる。「美しさ」は最も捉えどころのない要素でもある。スタイルや気質と同じように形も実体もないものだが、確かに存在する。

3-in-1はデザイナーの思考を凝縮すると同時に整理する効果もある。3という数字によって決められた境界線は、集中力を維持しつつ面倒を排除することを可能にする。デザイナーはそれぞれに異なる3-in-1を持っている。彼ら自身のデザインに対する理解を構成する3点である。私の場合、その3点とは「考えること」「テクノロジー」「実験」である。

考えること

「デザインとは考えを視覚化することである」ーソール・バス³

私はこの言葉を大理石に彫り、それを街の広場の中心に置きたい。私が思っているほどにグラフィックデザインが社会的に重要視されていないのは残念なことである。バスの言葉を中心に据えたいという私の考えに多くの人が賛同してくれるとも思えない。さらには、情報が洪水のように押し寄せ、画像が砂浜の砂粒のように無数にあるこの時代に、この言葉が忘れ去られてしまうことをいつも危惧している。

生活のスピードが速くなったのか、はたまたデザインサイクルが短くなったのか。デザイナーのビジュアルコミュニケーションに対する理解は、ビジュアルイメージというひとつの指標に集約されるようになった。ビジュアルイメージの創造者であるデザイナーは、もはや情報がどのように伝達されるかを考える時間的余

裕がなくなってしまった。100年前、画像はデジタルカメラやスマートフォンが大量のジャンク画像を量産する現代とは違い、簡単に手に入るものではなかった。

オランダ出身のアーティストでありデザイナーのエリック・ケッセルスは、現代のビジュアルイメージの氾濫が生み出す危機を理解している。彼のプロジェクト「24 Hrs in Photos」⁴では、Flickrなどの画像共有プラットフォームや、FacebookやInstagram、画像検索エンジンが、過剰な量の画像を生み出しているとしている。このプロジェクトのために、ケッセルスは今撮影した写真を送ってほしいと世界中の人々に呼びかけた。ケッセルスは写真が届くそばから何もないギャラリースペースで印刷していき、その数は24時間で35万枚以上になった。9cm×13cmの写真は会場にうす高く積み上げられ、部屋全体を埋め尽くすまでになった。

この情報の洪水の中ではどんな新しいイメージも押し流されてしまう可能性がある。考えが伴わないイメージはどんどん消えていくだろう。伝えたい情報が考えによって補強されることなく、イメージも単に明るい色と太字のテキストの寄せ集めに過ぎなかったら、メッセージは伝わらないだろう。考えるということはデザインに知性を与える。その知性は、デザインを見た瞬間に見る人の心を揺さぶる、そして考えさせる。この考えるという行為が、見る者の中に記憶を——そのデザインを見たときの考えの記録を——刻み込むのである。この記録こそが、グラフィックデザインが創り出すことのできる最大のものである。

テクノロジー

鄧小平はかつて「科学技術は第一の生産力である」と言った⁵。技術の進歩は生産サイクルを短縮し、私たちの価値観を変える。グ

ラフィックデザインの分野でも、技術の進歩は従来の手順を破壊し、業界のカテゴリーを変化させる。アーティスト、デザイナー、テクノロジスト、ニューメディア・アーティストなど、この業界を構成する人々も境界を越える。グラフィックデザインはデザイナーの仕事の幅を広げ、他業種の仕事を支えることが不可欠である。多様な人々と仕事をする中で、デザイナーと呼ばれる人たちの相対的な均一さに変化が生じ、今後は当然、デザイナーにも技術的な専門性が要求されることになるだろう。

現代の技術の発達には諸刃の剣である。伝えるべき情報が増えれば、デザインにもスピードが求められる。時間に追われる中で、人間の脳はアイデアを生み出す力を維持できなくなる。にもかかわらず、デザインの効果はビッグデータによってより一層明確に測定・評価される。デザインに創造性や美意識を求め続けるのはもはや時代遅れで非現実的なのだろうか。この状況が続けば、テクノロジーは最終的にはグラフィックデザインを葬り去ってしまうのだろうか。

2009年、中国小売大手のアリババグループのオンラインショッピングモール「タオバオ」(淘宝)と「Tmall」(天猫)が新たな祝日をネット上に誕生させた。毎年11月11日(「独身の日」)にお祭り騒ぎのようなセールを実施するのである。この休日は「ダブル11」(双十一)と名付けられ、異例の商業的成功を収めている。2016年には9万8,000のブランドがタオバオのダブル11イベントに参加し、1,682億人民元(2.85兆円)の売り上げを記録した。タオバオのトップページにはクリックするたびに新しくなる商品のバナー広告が掲載された。このバナーはアリババのAIデザインプラットフォーム「ルーバン」(鹿班)⁶が作成したもので、24時間で4,000万個のバナーを生成し、同じバナーは2つとなかった。2016年には、ダブル11の商品バナーを1億7,000万枚作成し、商品のクリック

数は倍増した。ルーバンは、これを深層学習アルゴリズムと評価ネットワークの組み合わせによって可能にしている。基本的にルーバンのデザイン能力は、人間が大量のデータをAIアルゴリズムにかけることでプログラムにデザインを学ばせ、実現した。ルーバンが24時間で作ったバナーと同じ数のバナーを人の手で作らなければならないとしたら、100人のデザイナーが20分に1枚のペースで作成しても300年かかることになる。

これほどの規模のセールでは、人間のデザイナーが機械に負けるのは明らかだった。しかし、プログラムの設計原理は既存のデザイン事例に基づいている。事例をビッグデータで収集後、既存のデザインの断片を利用してランダムな組み合わせを作り出す。だが、ルーバンには独創力と美意識への理解が欠けている。おそらくデザインソフトを開発したチームにはグラフィックデザイナーがあまり参加していなかったのだろう。グラフィックデザイナーが技術チームに参加できないのは、プログラミングやAIといった技術的な知識が不足していることが多いからだ。これにはデザイン教育の内容と、伝統的にデザイナーに求められていることが影響している。コーディングや機械学習などの技術的な知識は、ほとんどのグラフィックデザインのカリキュラムには含まれていない。しかし、時代の変化とともに、デザイン業界はグラフィックデザイナーの定義を見直す必要に迫られている。

技術革新が進む中、グラフィックデザイナーはどのように仕事を続けていけばよいのか。現代のテクノロジーの圧力にさらされる中で、グラフィックデザインの意味合いや境界線を変える必要があるのか。グラフィックデザイナーはプロとしての基準を捨てなければならないのか。もっと正確に言えば、デザイナーは自分たちの職業をどのように再定義すべきなのか。グラフィックデザインのカリキュラムに新たに加えるべき内容は何か。グラフィック

デザイナーは、どのようなプロ集団に対応することを学ぶべきなのか——こうした問いが何よりもまずグラフィックデザイン教育において探求されるべきであると考ええる。ここがコンテンツや教育方法の変更を行うべき部分なのである。

現在のグラフィックデザインのカリキュラムは、100年以上前のバウハウスでの構成、つまり芸術・造形理論、工房教育、建築教育という3大分野をベースにしている。技術的な訓練よりも芸術的な訓練に重点が置かれ、学生が学ぶソフトウェアも数種類に限定されている。その一方で、携帯電話やパソコンといった機器の大量生産は、人々に直接情報を発信する手段を与えた。グラフィックデザインという媒体が変わったのである。グラフィックデザインを学ぶ学生を数学や物理などの科目でどう鍛え、強化するかを考える時期に来ているのではないだろうか。芸術の基礎の上に、科学 (Science) ・技術 (Technology) ・工学 (Engineering) ・数学 (Mathematics)、すなわちSTEMの能力を身につけた新たなタイプの学生たちがそれをグラフィックデザインに生かすことができるようになる。バウハウスやパーゼルの特性がグラフィックデザインを芸術から切り離すことになったのだとすれば、現代は数学者やITスペシャリストからグラフィックデザイナーを生み出す必要がある。かつてトマス・マルドナード⁷はこう言った。「デザイナーはエンジニアでもアーティストでもなく、エンジニアとアーティストの間にいる者でもない。むしろ独立した新しい職業である」⁸。私たちは、今また新たな岐路に立たされているのではないだろうか。

実験

かつて私はウォルフガング・ワインガルトの作品をかなりの期間かけて研究したことがある。彼の作品は、師であるエミール・ル

ーダーやアルミン・ホフマンと比べると数では見劣りする。しかも、彼の作品のほとんどはクライアントワークではなく、彼自身の実験的な産物である。当初、私はデザイン史における彼の作品の重要性を理解していなかった。だが後になって、ワインガルトが行った実験が職業としてのグラフィックデザインに貢献したことが分かってきた。1960年代、ワインガルトは活版印刷ではなくフィルム製版という画期的な方法を編み出し、多くのデザイナーがその技法をグラフィックデザインに取り入れるようになった。70年代になると、ドットスクリーンを何層にも重ねる実験を開始したが、偶然にもこの実験がデジタル時代の幕開けと重なり、多くのインスピレーションを与えることになった。ワインガルトのドットスクリーンを用いた作品は非常に先駆的であり、後のコンピュータ画面のピクセルを先取りするようなものであった。実際、80年代に登場したグラフィックデザインソフトウェアの多くの部分は、彼の作品に影響を受けている。

実験は産業の発展を予見するものであり、あらゆる職業に大きな価値を生み出す。前途は不透明で回り道ばかりかもしれないが、イノベーションは職業に新しい命を吹き込み、継続的な成長を可能にするのである。

マリオ・バルガス・リョサはノーベル文学賞の受賞演説の中で、こう言っている。「虚構というものがなければ、私たちは、人の生が生きるに足るのに必要な自由の重要性や、逆にその自由がひとりの暴君や特定のイデオロギーや宗教によって踏みにじられたときに変貌する地獄絵について、今のように意識を向けなくなることだろう」⁹。デザインにとってのグラフィックの実験は、文学にとっての虚構と同じ意味を持つ。現実というのはその成長を阻む障害であるが、実験から実践へと真に展開されるのは、人々がこの職業の存在を認識した瞬間なのである。想像力は、ほぼす

べての進歩の第一歩である。現実への執拗なまでのこだわりは、成長を制限するだけである。芸術もこの奇妙なループと無縁ではない。「芸術は人生の現実を受け入れることができない。そのため、時に私たちは芸術を受け入れることができない。芸術は表面的で、虚しい刺激であり、無益な興奮である」¹⁰。実験と探求は、あらゆる職業のリビドーである。リビドーなくして子孫繁栄はなく、子孫繁栄なくして遺産はない。

2020年8月、ベルリンにて初稿

2023年改定

¹ *Master of Design: Eiko Ishioka*, 2006, Editor Jianping He, Page One Publishing, p 4. (ジャンピン・ヘ編『マスター・オブ・デザイン: 石岡瑛子』ページワン・パブリッシング、2006年、4頁)

² Hu Shih, 'What is Literature?' in: *Collected Essays of Hu Shih*, 1921. (胡適『文学とは何か』『胡適文存』1921年)

³ ソール・バス (1920–1996): 米国のタイポグラファー、グラフィックデザイナー、写真家、映画製作者。

⁴ エリック・ケッセルス (1966–): オランダのアーティスト、デザイナー、キュレーター。「24 Hrs in Photos」の詳細は以下参照<https://www.eriksessels.com/24hrs-in-photos>.

⁵ 鄧小平 (1904–1997): 1970年代後半～80年代後半の中華人民共和国の指導者。70年代末には改革開放政策を推進し、欧米に中国の門戸を開放した。「科学技術は第一の生産力である」は1988年9月、中国共産党第13期中央委員会第3回全体会議の政府報告での発言。

⁶ なぜ「ルーバン (Luban)」という名前なのか。これには2つの意味が込められている。まず「Let there be no 'Ban'-ner too difficult to churn out (lu)」(量産が難しすぎるバナーは置かないようにしましょう)というフレーズの同音異義語。もう1つは中国の春秋時代(紀元前5世紀)の工匠で、中国の職人の守護神として崇められている魯班 (Lu Ban) である。

⁷ トマス・マルドナード (1922–2018): アルゼンチンのアーティスト、デザイナー、デザイン理論家、哲学者、大学教授。

⁸ "The 'Designer' is neither engineer nor artist, nor does he stand between the engineer and the artist: his occupation is rather that of a new and independent profession." Tomás Maldonado, *Wim Crouwel - Modernist*, Lecturis Publishers, 2015, p 333. (「デザイナーはエンジニアでもアーティストでもなく、エンジニアとアーティストの間にいる者でもない。むしろ新しく独立した職業である」: トマス・マルドナード『モダニスト、ウィム・クロウエル』レクタリス・パブリッシャーズ、2015年、333頁)

⁹ From 'In Praise of Reading and Fiction,' Vargas Llosa's Nobel Prize acceptance speech, 2010. (『読書と虚構を褒め称えて』マリオ・バルガス・リョサ2010年ノーベル文学賞受賞演説)

¹⁰ Mu Xin, *Aimosheng jia de e ke* (The Villain of Emerson's House), Guangxi Normal University Press, 2009. (木心『愛默生家的惡客』[エマーソン家の悪役] 広西師範大学出版社、2009年)

Graphic Design | 3-in-1

Jianping He

Graphic Designer / Publisher

Most readers will be familiar with 3-in-1 shampoo, which combines shampoo, conditioner, and anti-dandruff treatment into one hair care product. What constitutes great design can also be based on the idea of 3-in-1. One of my favorite designers, Eiko Ishioka, looks for three qualities when evaluating design; great design should be ‘original, revolutionary, and timeless.’¹ Over the years, I have found Ishioka’s definition to be best. ‘Original’ refers to the imagination behind the design, while ‘revolutionary’ pushes the boundaries of technological innovation. Lastly, ‘timeless’ encapsulates the designer’s contemplation of time, their attitude toward history. Together with the first two elements, the designer is able to create a design that may transcend the boundaries of time—another 3-in-1 concept that is as beneficial as it is effective.

In the 1930s, Chinese essayist and philosopher Hu Shih often expounded upon his understanding of ‘good literature.’ He wrote that good literature should possess three qualities. “First, it should be clear and understandable. Second, it should be moving. Third, it should be beautiful.”² Coincidentally, Ishioka’s 3-in-1 is similar to Hu’s. Graphic design must convey information. This act must be masterful and clear—the information must be correct, and the design must not cause misunderstanding. This is the foundation. Without it, design is pointless. How then, do you ensure that the method used to convey a message stands out enough to snag the viewers’ attention in today’s cacophony of information?

The means of conveyance must be powerful. Such power is not a matter of the wrist, but of the intellect. A transformation of the mind made possible by skillful expression and a powerful imagination. As for the third aspect—beauty,

this builds on the foundation of the two preceding concepts. If a designer can satisfy the previous points while also conveying beauty, then they have reached the heights of design. The third element is also the most elusive. Much like style and temperament, it is formless and shapeless, but it surely exists.

3-in-1 condenses the designer’s thoughts while it also helps organize them. The boundaries set by the number 3 allow us to eliminate the cumbersome while maintaining focus. Every designer has a different 3-in-1, a trinity that comprises their own understanding of design. My trinity is thinking, technology, and experimentation.

Thinking

“Design is thinking made visual.”—Saul Bass³

I want to carve these words into marble, and then place that slab of marble in the middle of a plaza at the city center. It is unfortunate that graphic design is not as important to society as I imagine it to be. I doubt many would support my effort to center this statement. Yet I constantly worry this phrase will be forgotten in this era, when information flows like flood water and images are as countless as the grains of sand on a beach.

Perhaps life is moving faster, or perhaps design cycles have shrunk. A designer’s understanding of visual communication has been reduced to the single metric of the visual image. As a creator of visual images, the designer no longer has time to contemplate how information is conveyed. A century ago, images were not easily accessible, contrary to today’s world, where digital cameras and smartphones churn out

massive amounts of junk images.

Dutch artist and designer Erik Kessels understands the crisis created by the flood of visual images in our era. His project, '24 Hrs in Photos'⁴ posits that image-sharing platforms such as Flickr and the image search engines behind Facebook and Instagram are generating excessive volumes of images. For his project, Kessels invited people from around the world to send him photos taken in real time. As soon as he received the images, he printed them in an empty gallery space. Within twenty-four hours, he had printed over 350,000 photographs. These 9cm x 13cm photos were piled up high throughout the exhibition space, filling the entire room.

The birth of any new image can be drowned out by this frenzy of information. If there is no thought behind the creation of an image, it will disappear all the faster. If the information we attempt to convey is not bolstered by thought, if the image itself is but a mish-mash of bright colors and bold text—it will not convey a message. Thought imbues design with intelligence. That intelligence sparks a connection in the viewer's mind the moment they see the design. It makes them think. This act of thinking creates a memory in the viewer—a record of their thoughts when they perceived the design. This record is the greatest thing that graphic design can create.

Technology

Deng Xiaoping once said: "Science and technology are primary productive forces."⁵ Advancements in technology shorten production cycles and change our values. In the field of graphic design, technological advancements also

disrupt traditional procedures and transform industry categories. The people who make up this industry transcend boundaries—they are artists, designers, technologists, new media artists, and more. It is imperative that graphic design opens up the scope of a designer's work in order to assist in the completion of the work of other industries. Working with diverse groups of people has transformed the relative uniformity of who may be classified as a designer, and in the future, designers will by definition need to possess technical expertise.

The development of contemporary technology is a double-edged sword. With more information to convey, design must be faster. Under such time pressure, the human brain's ability to generate new ideas cannot keep up. Yet the effectiveness of design undergoes more and more specific measuring and evaluation with big data. So, is it outdated and unrealistic to expect design to continue to emphasize creativity and aesthetics? If matters continue along this trajectory, will technology ultimately dig the grave of graphic design?

In 2009, retailer Alibaba's Taobao and Tmall created a new virtual holiday. Each year, November 11 is a bacchanalia of online shopping and sales. The holiday, named Double 11, has achieved unprecedented commercial success. In 2016, a total of 98,000 brands participated in Taobao's Double 11 promotions, racking up sales of 168.2 billion RMB (24 billion USD). Products were advertised on the home page of Taobao in the form of banners—changing with each click and never repeating. These banners were generated by Alibaba's AI design platform Luban,⁶ which generated 40 million banners in twenty-four hours, with no two banners alike. In 2016, it created 170 million product banners for

Double 11 and generated hundred percent more clicks for these products. Luban was able to achieve these results through a combination of deep learning algorithms, and an evaluation network. Basically, Luban's design capabilities were achieved by humans teaching the program to learn design by putting large volumes of data through AI algorithms. If human designers had to design as many banners as Luban made in twenty-four hours, it would have taken a hundred designers 300 years at the rate of one banner every twenty minutes.

For this massive shopping bonanza, human designers were outpaced by machines in an obvious defeat. However, the program's design principles were based on examples of existing design; after these had been compiled by big data, the program created random combinations using fragments of pre-existing design. Luban lacks independent creative ability and an understanding of aesthetics. In other words, there were probably not many graphic designers on the team that developed the design software. Graphic designers are unable to join technical teams because they often lack technical knowledge about programming, AI, and so on. This deficiency comes from how designers are educated, and what they are traditionally expected to do. Coding, machine learning, and other technical knowledge are not part of most graphic design curricula. However, changing times are forcing the industry to redefine what it means to be a graphic designer.

Faced with ongoing technological developments, how should a graphic designer continue to work? Given the pressures of contemporary technology, is it necessary to change the connotations and boundaries of graphic design? Should graphic designers forsake their professional

standards? Or rather, how should designers redefine their profession? What new content should be added to graphic design curricula? Which professional groups should graphic designers learn to accommodate? I believe these questions should be explored first and foremost in the education of graphic designers. This is where changes to content and teaching modes should be made.

The current graphic design curriculum is still based on the century old Bauhaus structure—the three major areas of art and design theory, professional work, and workshopping. There is an emphasis on artistic training over technical training. The software that students learn to use is limited to just a few programs. Meanwhile, mass-produced devices such as mobile phones and computers have given individuals a direct means of transmitting information. The medium of graphic design has changed. It is time to think about how to train and strengthen graphic design students in subjects such as mathematics and physics. After a basic grounding in art, this new group of students will be able to apply their STEM abilities to graphic design. If the characteristics of Bauhaus and Basel once separated graphic design from art, then today we need to create graphic designers out of mathematicians and IT specialists. Tomás Maldonado⁷ once said: "The 'Designer' is neither engineer nor artist, nor does he stand between the engineer and the artist: his occupation is rather that of a new and independent profession."⁸ Today, perhaps we find ourselves at yet another such crossroads.

Experimentation

I once spent a considerable period studying the work of Wolfgang Weingart. In terms of output, his body of work

pales in comparison that of his teachers Emil Ruder and Armin Hoffman. Furthermore, most of his work was not client work, but rather the product of his own experimentation. At first, I did not understand the importance of his work in design history, but later I came to realize that Weingart's self-driven experimentation was his contribution to graphic design as a profession. In the 1960s, Weingart's revolutionary use of photosetting instead of letterpress led many others to incorporate the technique into graphic design. In the '70s, he began a series of experiments with multi-layered dot screens. Coincidentally, the timing of these experiments aligned with the dawning of the digital age, providing much inspiration. Weingart's work with dot screens was so pioneering that it actually anticipated the use of pixels on computer screens. In fact, it was his work that inspired many aspects of the graphic design software that began popping up in the '80s.

Experimentation generates great value for any profession because it foretells the development of an industry. Though the way forward may be murky and full of detours, innovation breathes new life into a profession and allows it to find continued growth.

In his Nobel Prize acceptance speech, Mario Vargas Llosa said: "Without fictions we would be less aware of the importance of freedom for life to be livable, the hell it turns into when it is trampled underfoot by a tyrant, an ideology, or a religion."⁹ What fiction is to literature, experimentation with graphics is to design. Its true application unfolds in the moment people become aware of the profession's existence, while reality is the obstacle that restricts its growth. Imagination is the first step in nearly all forms of progress. An unrelenting devotion to reality will only limit growth. Art is

not exempt from this strange loop. "Art cannot accept the realities of life. Therefore, at certain junctures, we cannot accept art. Art is superficial, it is vain excitement—a futile agitation."¹⁰ Experimentation and exploration are the libido of any profession. Without libido, there is no procreation, without procreation, there is no legacy.

First draft in Berlin, August 2020

Revised in 2023

¹ *Master of Design: Eiko Ishioka*, 2006. Editor Jianping He, Page One Publishing, p 4.

² Hu Shih, 'What is Literature?' in: *Collected Essays of Hu Shih*, 1921.

³ Saul Bass (1920-1996), American typographer, graphic designer, photographer, and filmmaker.

⁴ Erik Kessels (*1966), Dutch artist, designer and curator. For more information on his project *24 Hrs in Photos*, visit <https://www.erikkessels.com/24hrs-in-photos>.

⁵ Deng Xiaoping (1904-1997) was the leader of the People's Republic of China from the late 1970s to the late 1980s. He opened China to the West at the end of the '70s. The quote 'Science and technology are primary productive forces.' was put forward by Deng in the government report of the Third Plenary Session of the Thirteenth Central Committee in September, 1988.

⁶ Why was the program named Luban? The name is a double entendre. Firstly, it is derived from homophones in the phrase, "Let there be no 'Ban'-ner too difficult to churn out (*lu*)."⁷ Secondly, Lu Ban was a famed craftsman from China's Spring and Autumn period (5th century BC) who is revered as the patron of Chinese craftsmen.

⁷ Tomás Maldonado (1922-2018), Argentinian artist, designer, design theorist, philosopher, and university professor.

⁸ "The 'Designer' is neither engineer nor artist, nor does he stand between the engineer and the artist: his occupation is rather that of a new and independent profession." Tomás Maldonado, *Wim Crouwel - Modernist*, Lecturis Publishers, 2015, p 333.

⁹ From 'In Praise of Reading and Fiction,' Vargas Llosa's Nobel Prize acceptance speech, 2010.

¹⁰ Mu Xin, *Aimosheng jia de e ke* ("The Villain of Emerson's House"), 2009.

展示事業

Exhibitions

ginza graphic gallery 2022-23

April 1 – 30, 2022

Tokyo Type Directors Club Exhibition 2022

May 16 – June 30, 2022

Taku Satoh TSDO: in LIFE

July 11 – August 25, 2022

Yui Takada with ori.studio

CHAOTIC ORDER

September 5 – October 24, 2022

Hosoya Gan – Beyond G

November 1 – 30, 2022

Art Direction Japan 2022 Exhibition

December 9, 2022 – January 31, 2023

Aquirax Uno Kaleidoscope

February 9 – March 25, 2023

Urgent!! The Animals' Conference

From the DNP Graphic Design Archives Collection

ggg



Tokyo Type Directors Club Exhibition 2022

April 1 – April 30, 2022

TDC 2022



応募3,644から138作品を選出し、コロナ前と同じ日数で開催された。展覧会グラフィックは審査員、スイスのバルマー・ヘレン。gggのロゴの分析から設計されている。19世紀～20世紀フランスの銅版彫刻師が彫った文字からおこした書体デザインや、日本の公共サインの丸文字にインスパイアされた書体がアニメーションになり見事に動く専用サイトなど、タイプデザインが際立つ年となった。作品集『仲條NAKAJO』と仲條さん最後の応募となったカレンダー（10月26日に灯りを灯した）の横で、カルドーン作曲のレクイエムが悲しく美しく響いた。“合唱曲の図形楽譜”映像版とも言える作品で、圧倒的な評価でグランプリを受賞した。

東京TDC 照沼太佳子

This exhibition, which took place over the same number of days as before the pandemic, featured 138 works selected from a total of 3,644 entries. The promotional graphic was created by Balmer Hählen of Switzerland, which served on this year's selection panel. It was designed based on an analysis of ggg's logo. This year, truly outstanding type design was on display. One typeface, for example, was designed based on lettering by a French copperplate engraver of the 19-20th century. Another was a work in which a typeface inspired by the round lettering common to Japanese public signage was transformed into a brilliant animation. Alongside the collection of Masayoshi Nakajo's works simply titled *NAKAJO* and his final entry,

a calendar (displayed with light shining on October 26, the date of Nakajo's death), Keita Onishi's video featuring a requiem composed by Manuel Cardoso rang out in sad beauty. The video, a visual presentation giving graphic form to a choral piece, was selected to win this year's Grand Prize by a wide margin.

Takako Terunuma, Tokyo TDC



Taku Satoh TSDO: in LIFE

May 16 – June 30, 2022

佐藤卓 TSDO展 <in LIFE>



私が率いるTSDOは、与えられた環境からデザインによって価値を引き出すという手法で、様々な仕事をしてきました。つまり表現におけるスタイルは“つくらない”という姿勢です。しかし一方で個人としての直感に基づく実験的作品は、自発的に発表してきました。この展覧会では地下に仕事を、1階に作品の一部を展示し、まるで表と裏、客観と主観、外と内を対比させるような展示を試みました。自分のことは自分自身ではよくわかりませんが、これは、人の複雑な心理を無理やりシンプルにし、スタイル化する近代デザインの傾向とは異なり、ある意味で単純ではない複雑なものをそのまま素直に受け入れ、時と場合によって使い分けてきたあり様なのかもしれません。

佐藤 卓



Through the years, my design studio TSDO has undertaken a wide variety of jobs in which, based on the environment presented to us, we create value through design. In other words, in our expressive style we adopt a stance of not creating. In contrast, my experimental works intuitively created as an independent designer have been released spontaneously, as I decide. For this exhibition, in the basement gallery I showed my works performed on consignment, and on the ground floor I exhibited some of my independently created works. What I attempted was to show contrasts: front and back, objective and subjective, outside and inside. I myself have little understanding of who I am, but in choosing this contrastive format, unlike the trend in modern design which aims to willfully simplify and stylize our complex psychology as humans, I readily accepted what in a sense is complex rather than simple. It's perhaps evidence of how I have divided myself by time and situation.

Taku Satoh



Yui Takada with ori.studio CHAOTIC ORDER

July 11 – August 25, 2022

Yui Takada with ori.studio CHAOTIC ORDER 高田唯 混沌とした秩序



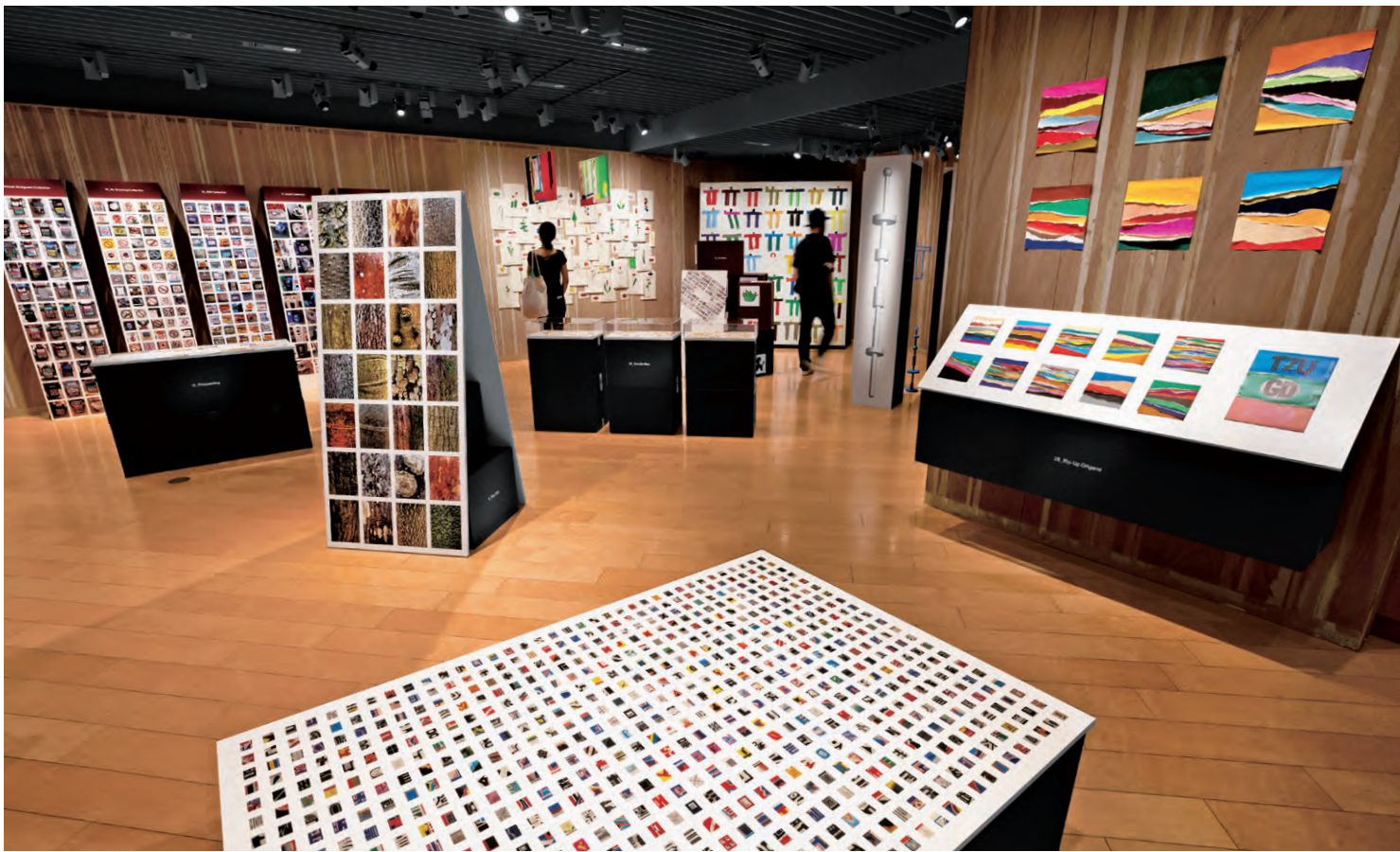
2022年の年明けから制作を始めた風を、会場1階の天井いっぱいに泳がせ、地下階では北京で活動するユニットori.studioと一緒に作った、自身初の作品集を演出させたかのような空間を展開しました。少しでも解放感を味わってもらえたらと準備をしてきましたが、コロナウィルスの感染者数はピーク、ウクライナとロシアの戦争も収まらず、さらに元首相の銃撃事件が発生し、重い重い空気の中、初日を迎えることとなりました。そんな中でも、たくさんの方にお越しいただけたこと、今でも本当に嬉しく思っています。結局、元気をいただいたのは僕でした。感染症が落ち着いてきた今、いよいよ外に飛び出して、この展示をきっかけにまた世界と繋がって行くつもりです。

高田 唯

On the ground floor of the gallery, I "flew" kites I had been making since the start of 2022. In the basement level, in collaboration with the design unit ori.studio of Beijing, I created a space as if to represent the first collection of my own works. I prepared for the show aiming for visitors to enjoy a sense of unbridled freedom, but the opening day was marked by a dark, heavy mood stemming from the raging pandemic, the unending war between Russia and Ukraine, and the assassination of our former prime minister. Even now, though, I am truly happy that, despite the general mood, my exhibition received such a large number of visitors. In the end, I'm the one who took cheer from the event. Now that the pandemic has settled

down, I intend to take flight, starting with this show, and reconnect with the world.

Yui Takada



Hosoya Gan – Beyond G

September 5 – October 24, 2022

細谷巖 突き抜ける気配 Hosoya Gan – Beyond G



ある日、ぼろぼろになった私の自著『イメージの翼・細谷巖アートディレクション』（1974年）を抱えて、建築家/デザイナーの矢萩喜徳さんが突如現れ、「展覧会の全てをまかせて欲しい」（監修）という条件でこの展覧会の企画が始まりました。その日以来、まさに私は、まな板の鯉でした。そして、いよいよオープニングの前夜。それまでの私の不安は吹き飛び、ダイナミックな会場の空間は、透明度と鮮度が増し、半世紀以上前の私の作品は、凛として、完全に息を吹き返しました。なかでも、1960年開催の世界デザイン会議で配布されたパンフレット『び』は、新たに再版され、その全頁が美しく壁面いっぱいに展示され、再び高い評価をいただきました。私のことを知らない若者たちのデザインマインドに、少しでも火をつけることができたとしたならば、デザイン冥利につきます。ブラボーです。 細谷 巖

One day, architect and designer Kijuro Yahagi suddenly came to see me, holding a tattered copy of my *The Wings of Image: Art Direction by Gan Hosoya* (1974). He wanted to hold an exhibition of my works, on condition that he was given a free rein to supervise it. From that moment on, I was completely at his mercy. On the night before the show was to open, though, my concerns up to then were utterly blown away. Here, in a dynamically designed setting, I discovered my works made over a half-century ago had been brought entirely back to life, more striking, more vivid and more transparent than ever. In particular, I received renewed acclaim for *Bi: Nature and Thought in Japanese Design*, the pamphlet I had created for distribution at

the World Design Conference in 1960, which had been reprinted and beautifully displayed, in its entirety, on the gallery walls. My wish is that young designers who are unfamiliar with me and my works will take inspiration, even a little, from this show. That's, Bravo!

Gan Hosoya



Art Direction Japan 2022 Exhibition

November 1 – 30, 2022

日本のアートディレクション展 2022

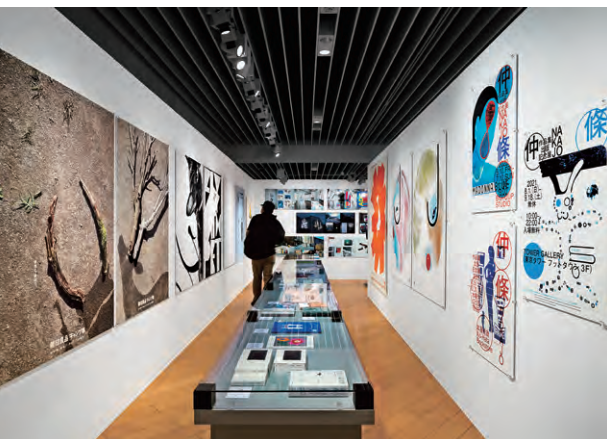


コロナウィルスのせいで、ADCの審査がズレている。審査がズレると、展覧会がズレ、年鑑の出版がズレる。展覧会は11月に行われた。今年のグランプリは、大貫卓也さんの「ヒロシマ・アピールズ2021」。B全1枚のポスターだが、ARで動画となるしかけた。スノードームの中の白い鳩に、黒い雪(?)がふりそそぐインパクトのあるもの。これまでにない表現に、会員たちはみな驚いた。だから、圧勝かとおもいきや。一方で、サントリーの「人生には、飲食店がある」キャンペーンが強い支持をうけ、僅差での勝利だった。グラフィック表現を究極まで追求した「ヒロシマ…」と、人々の共感を与える広告キャンペーン。白熱した審査だった。ADCの審査も、時代とともに変化することを実感した年だった。ADC展委員 副田高行

Owing to the pandemic, this year's Tokyo Art Directors Club (ADC) judging schedule got delayed. And because the judging was delayed, this year's exhibition was delayed, and publication of the ADC yearbook was delayed as well. This year's exhibition ultimately took place in November, with the Grand Prize awarded to Takuya Onuki for his "Hiroshima Appeals 2021" poster (728 x 1030mm). Through use of augmented reality (AR) and a smartphone, the poster transforms into a video in which the white dove inside the snow globe becomes progressively covered in black "snow." The ADC members were all amazed by this powerful, unprecedented presentation. One would thus have expected Onuki's poster to win over

whelmingly, but in fact it won by only a small margin, with Suntory's ad campaign on the integral role played by restaurants in our lives attracting strong support. While Onuki's poster raised graphic expression to a new pinnacle of potential, the premise of Suntory's campaign was something people could easily identify with. The judging brimmed with excitement, making 2022 a year when ADC intensely recognized a change in its judging in step with changing times.

Takayuki Soeda,
Art Direction Japan Exhibition Committee Member



Aquirax Uno Kaleidoscope

December 9, 2022 – January 31, 2023

宇野亞喜良 万華鏡



Photo 1, 2, 3 : photograph by Kijuro Yahagi

地階は過去の実験的な印刷作品。1階は近年の俳句を主題とした作品の実験的な印刷作品。2階ではアニメーションを上映した。地階の作品は刈谷市美術館のコレクションを借りて充足させることができた。1階のフロアは『デザインのひきだし』というマニッシュな情報誌の編集長、津田淳子さんの才能で展開。多様なプリントの実験作品で、それらを矢萩喜從郎さんの拡大された白黒原画の壁面と白いオブジェ空間のなかに点在させた。2階は1960年代に製作した3本のアニメーションを上映した。自分自身の現在形努力ゼロの、それでも上質の展覧会だったと思う。

宇野亞喜良

The basement level was dedicated to my past works; the ground floor, to my experimental printed works of recent vintage focused on haiku; and the second floor, to animated films. The presentation in the basement level was enhanced by the addition of works borrowed from the collection of the Kariya City Art Museum. The works shown on the ground floor gained from the talents of Junko Tsuda, editor-in-chief of the unconventional information magazine *Design No Hikidashi*. Here, using diverse printing methods my experimental works were exhibited as black-and-white enlargements of my original prints, curated by Kijuro Yahagi, and on white objects placed around the exhibition space. The gallery's

upper level was used to show three animated films I had created during the 1960s. Overall I think it was a show of very high caliber, despite my total lack of physical labor exerted to mount it.

Aquirax Uno



Urgent!! The Animals' Conference From the DNP Graphic Design Archives Collection

February 9 – March 25, 2023

動物会議 緊急大集合！ DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵作品より



国際交流基金からのお声がけを機に、エーリッヒ・ケ
ストナー作『動物会議』をコンセプトとした展覧会が
計画され、2022年5月よりローマ日本文化会館での
開催が実現した。この動物をテーマとしたポスター
展を拡大し、待ったなしの状況にある環境問題や戦
争について訴えるべく、多様な動物たちに東京にも
「緊急大集合」してもらった。奔放で色彩豊かな動物
たちが、生き生きとした個性をはなちながら、人間ど
もが見失ってしまった大切なことを知らせにきてくれ
た。古来より、動物を身近な仲間として共生する文
化をもつ、日本人作家たちの作品群によって、明るく
前向きなメッセージを伝えることができたのではない
だろうか。

This exhibition, inspired by Erich Kästner's *The Animals' Conference*, was planned in response to a suggestion from the Japan Foundation and came to fruition at The Japan Cultural Institute in Rome starting in May 2022. Expanded from the original poster exhibition on the theme of animals, an "urgent" conference of the diverse members of the animal kingdom was convened in Tokyo to issue a collective plea for mankind to address the urgent situations surrounding environmental issues and war. The colorful array of uninhibited representatives, each vibrant and unique in its own way, came to inform humans of the importance of what they have lost sight of. We think the works on display, created by designers from Japan, a

country with a culture of close and harmonic co-existence with the animal world since ancient times, succeeded in conveying their message in a bright and positive way.



kyoto ddd gallery 2022-23

July 23 – September 25, 2022

ddd DATABASE 1991-2022

October 5 – November 20, 2022

FormSWISS

November 29, 2022 – January 15, 2023

GRAPHIC CUBE – FILM POSTERS

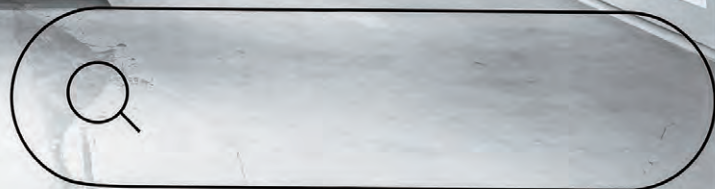
From the DNP Graphic Design Archives Collection

January 24 – March 12, 2023

ppp groovisions



!!! DATABASE



ddd DATABASE 1991-2022

July 23 – September 25, 2022

ddd DATABASE 1991-2022



「ddd DATABASE 1991-2022」はオンラインとオフラインの2つの世界で構成されるデータベース。烏丸でのオフラインデータベースは“身体感覚のデータベース”とも言えるもので、これまでの展覧会のポスターからセレクトされた85点のポスターと、これまでに制作された全チラシを実際のサイズで体感し、直接手で触れられるようにした。オンラインのデータベースは、dddの30年間の歴史を記録するもの。ギャラリーのこれまでのリソースをこれからのグラフィックデザインに活用する目的で制作した。dddに深く関わった関西のデザイナー11名へのヒアリングを行い、ddddbを見るためのヒントとなる11の「キーワード」も掲載。そのキーワードと関連するポスターも展示した。 後藤哲也 (Out Of Office)

This is a database encompassing two realms: offline and online. The offline database in Karasuma, which is “physical” in nature, contains a selection of 85 posters from ddd’s exhibitions to date plus all flyers created for its exhibitions. The flyers are incorporated into the database in their actual size, and I arranged them so visitors can have direct physical access to them. The online database is a complete record of ddd’s 30-year history. Together, the offline and online databases were compiled so that the gallery’s full complement of resources to date can be used as a reference for graphic design going forward. Eleven designers based in Kansai who have close ties with ddd were asked to offer up “keywords” to serve as hints for viewing the

database. Posters are shown together with the keyword that befits their description.

Tetsuya Goto (Out Of Office)



FormSWISS

October 5 – November 20, 2022

FormSWISS (フォーム・スイス)



デザインの本質的な豊かさを伝えるために活動を展開するデザインプラットフォーム、「Form」。その第1回目の展覧会、スイスデザインにフォーカスした「FormSWISS」展は、東京、神戸を巡回し、京都(ddd)の展示を終えた。dddでは、スイスのグリッドデザインを体現するように約4,000個の画鋸を床と壁に敷き詰め、程よい緊張感を伴わせた。展示作品だけではなく、その思想や背景も熱心に見聞きする若者たちの姿が特に印象的で、日本のデザインもスイスのように行政や教育ともしっかり結びつく未来であって欲しいなどの感想も聞けた。展示を通してデザインのこれからを考えるきっかけ作りが、少しでもできたのなら嬉しく思う。

丸山 新 (&Form)

“Form” is a design platform created to convey the intrinsic richness of design. *FormSWISS*, which focused on Swiss design, was the platform’s first exhibition. After shows in Tokyo and Kobe, the exhibition closed at kyoto ddd gallery. At ddd, to embody Switzerland’s grid design I placed close to 4,000 tacks on the floor and walls to inject an appropriate sense of tension. I was especially impressed by the enthusiasm young visitors showed not only toward the works on display but also toward the thoughts and background behind their creation. Some expressed the hope that in the future design in Japan, as in Switzerland, will have closer links to government administration and education. It would make me happy if this

exhibition provides an impetus, even modestly, for considering the future of design.

Arata Maruyama (&Form)



GRAPHIC CUBE – FILM POSTERS

From the DNP Graphic Design Archives Collection

November 29, 2022 – January 15, 2023

GRAPHIC CUBE – フィルムポスター DNPグラフィックデザイン・アーカイブより



「GRAPHIC CUBE」はDNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵ポスターによる展覧会シリーズ企画で、グラフィックデザインが内包するさまざまな関係性を多角的・立体的にとらえる試みである。立方体は角度を変えると別の面が見える所から、グラフィックデザインの多面性をそれになぞらえ、シリーズ名とした。1回目は映画に焦点を当てた。時間芸術・総合芸術である映画を、どのように1枚のポスターの上に表現しているのか、デザイナーが各々咀嚼、分析し生み出した結晶ともいえるポスターにより展観した。またCUBEという主眼となるコンセプトを視覚化、具体化するため展示手法も工夫した。この企画は今後も多彩なテーマで展開していく予定である。

GRAPHIC CUBE is a series of exhibitions featuring posters contained in the DNP Graphic Design Archives Collection. Its intended aim is to convey the various relationships inherent in graphic design from diverse angles and in three dimensions. The name of the series was chosen to demonstrate the multifaceted nature of graphic design by comparing it to a cube, which reveals different aspects when looked at from different angles. For the first exhibition in the series, the focus was set on film posters, examining how designers have expressed a film – a temporal, comprehensive art form – in a single poster, which crystallizes the designer's interpretation and analysis of the film. Special consideration was also paid to the display meth-

od, aiming to give visual and physical form to the central concept of a cube. The series will continue spotlighting a wide variety of themes in the years ahead.



ppp groovisions

January 24 – March 12, 2023

ppp groovisions



タイトルのpppは、会場のギャラリー、dddを180度回転させたものです。展覧会ではいつも、通常と変わったことに挑戦したいと考えているのですが、今回は、方向性のないフレームをテーマにしてみました。ポスターが送られてきたとして、上下左右、どのように掲示したらよいのか困惑するグラフィックのようなものです。そのような方向性を特定しないモノの代表として「石」をベースに設定し、グラフィックを展開してみたのですが、思いの外、石の面白さ、不思議さに自分たちが翻弄される結果になってしまいました。こうした試みを通じて、新たに課題を見つけたような、とても貴重な機会をいただいたように思っております。

グルーヴィジョンズ

The “ppp” in the exhibition title comes from ddd, flipped 180 degrees. At all our exhibitions, we always aim to do something out of the ordinary, and this time we chose directionless frames as our theme. Say a poster is sent to you, and its graphic perplexes you, not knowing how to display it: which is the top, the bottom, the right side, the left? We used a “rock” as our underlying basis – a representative object having no definitive “direction” – and proceeded to develop the idea graphically. Ultimately, we were astonished, to a degree unanticipated, by just how interesting and wondrous a rock is. The exhibition provided us a very cherished opportunity, presenting us with a new challenge to take up in future.

groovisions



Center for Contemporary Graphic Art and Tyler Graphics Archive Collection 2022

March 1 – June 12, 2022

DNP Graphic Design Archives Collection IX
KASAI KAORU POSTERS since 1973

June 18 – September 4, 2022

Physis Intaglio: Depiction and Impression

September 10 – December 18, 2022

Masterpieces from the Tyler Graphics Archive Collection



DNP Graphic Design Archives Collection IX KASAI KAORU POSTERS since 1973

March 1 – June 12, 2022

DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展IX 葛西薫 POSTERS since 1973



広告、パッケージやCI、本の装丁など多岐にわたる活動で知られるアートディレクター、葛西薫の仕事の中から、ポスターに焦点を当てて紹介した。彼の作品は巷にあふれる声高に主張するのみの広告とは一線を画す。それらは一方通行のコミュニケーションではなく、受け手がそれぞれに何かを感じ、想像を膨らませる余地を含んでおり、完成した広告やポスターの向こう側にも、世界や物語が広がる包容力が感じられる。独自の表現でデザイン界にひとつの潮流を形成した、葛西薫の作品の軌跡を辿った。

Art director Kaoru Kasai is known for his creative activities of remarkable breadth, spanning from advertising to package design, corporate identity and book design. This exhibition focused on his output of posters, which are in striking contrast to the myriad ads that fill our everyday lives with messages of strident insistence. Kasai's works do not communicate unidirectionally; rather, they conduce their viewers to sense something in them, and give them room to let their imagination take flight. His ads and posters offer viewers magnanimous access into the expansive worlds and stories behind them. The exhibition traced back over Kasai's works that, with their inimitable means of expression, became a trend within the realm of design.



Physis Intaglio: Depiction and Impression

June 18 – September 4, 2022

ピュシス銅版画展－写すものと映されるもの



30年前に山形県で開学した東北芸術工科大学は多くの版画家を輩出しており、本展ではその中から銅版画家に焦点を当てて紹介した。東日本大震災から10年、なおも続く自然災害や社会問題に加えて歴史的厄災となったウイルス禍により、日本と世界は大きな混沌に見舞われた。銅板に刻んだイメージを紙に「写す」ことで作家の想像力や彼らを取りまく現実を「映す」銅版画を通して、若い作家たちが困難に直面しながら版画制作にどのように向かい合っているのか、そしてその作品にあらわれた「いま」を展覧した。

Tohoku University of Art and Design has produced numerous printmaking artists since its founding in Yamagata Prefecture in 1992, and this exhibition focused in particular on the school's output of intaglio artists. In recent years Japan and the global community have been visited by chaotic events of tremendous scale: the Great East Japan Earthquake of 2011, recurring natural disasters and ongoing social challenges, and the COVID pandemic with its historic consequences. This exhibition demonstrated how young artists have confronted these difficulties as reflected in their printmaking: specifically, in their intaglio prints that transfer to paper the images they etch into copperplates, constituting mirrored reflections

of their imagination and, by extension, of the reality around them. The exhibition thus showed how the present is depicted in the intaglio works of the young artists on display.



Masterpieces from the Tyler Graphics Archive Collection

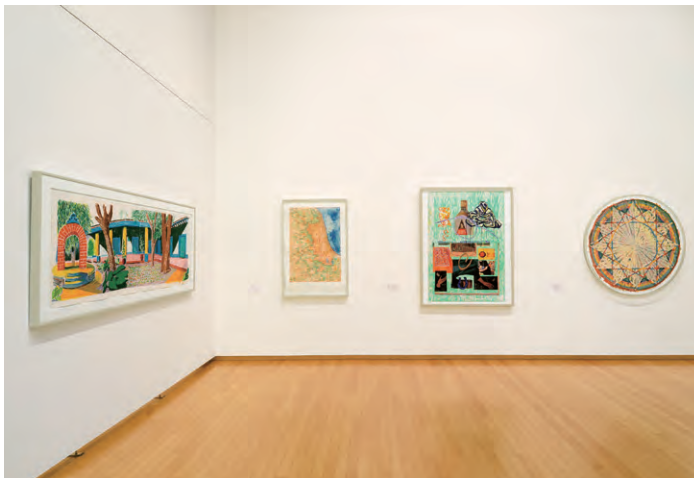
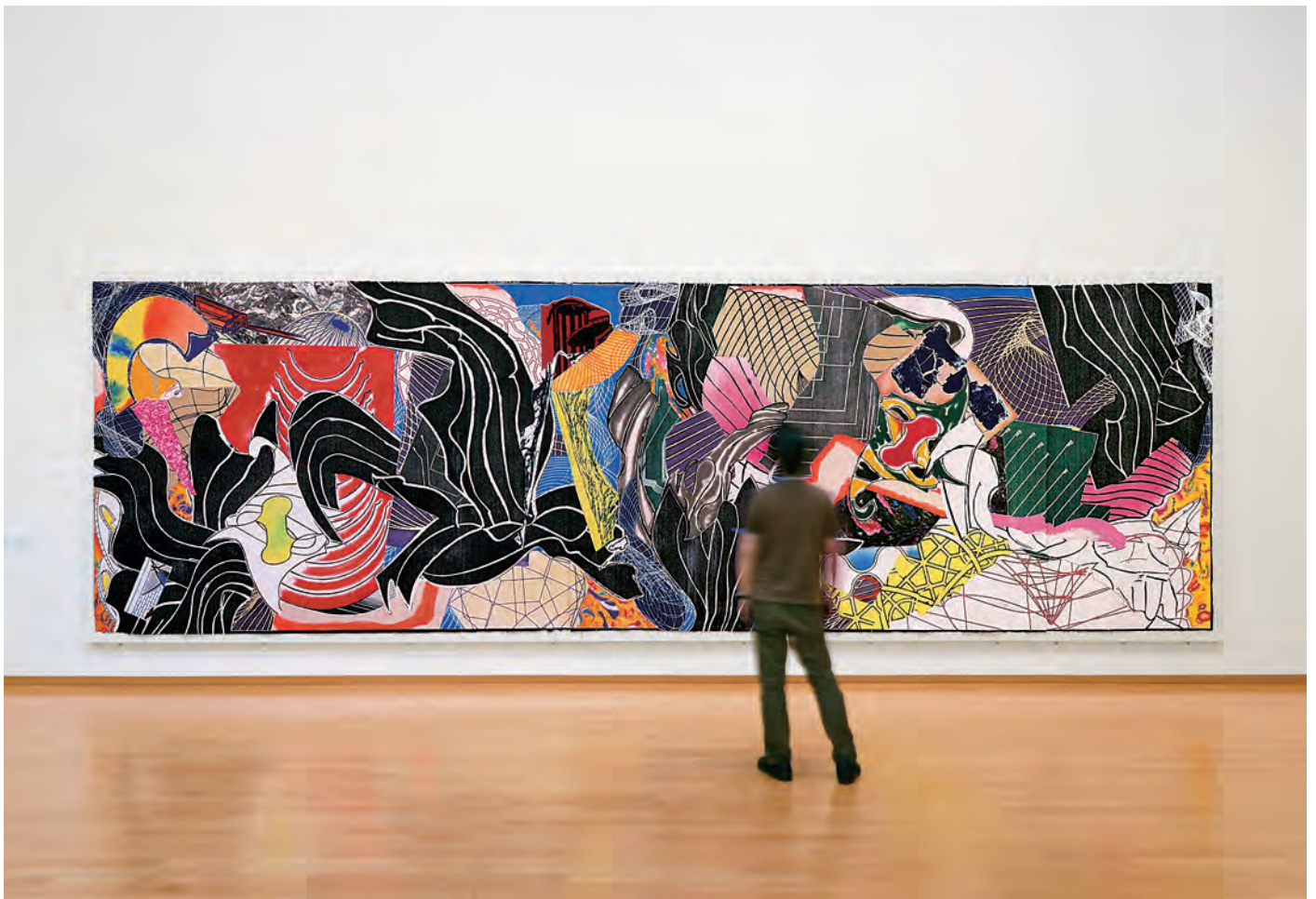
September 10 – December 18, 2022

タイラーグラフィックス・アーカイブコレクション名品展



マスター・プリンター、ケネス・タイラーによって1974年に設立されたタイラーグラフィックス版画工房は、アメリカ現代美術を代表するアーティストたちとのコラボレーションにより、2001年に幕を下ろすまで版画芸術を革新する作品の数々を生み出した。本展はジェームズ・ローゼンクイスト「時の塵」およびフランク・ステラ「泉」という超大作2点をはじめ、CCGA所蔵のタイラーグラフィックス・アーカイブコレクションから選りすぐった名品を展示し、同工房の足跡をご覧いただいた。

From its founding in 1974 by master print artist Kenneth Tyler until its closure in 2001, Tyler Graphics generated a host of innovative print works created in collaboration with leading representatives of the American contemporary art world. This exhibition featured renowned masterpieces gleaned from the Tyler Graphics Archive Collection at CCGA, including James Rosenquist's "Time Dust" and Frank Stella's "The Fountain," two prints of enormous scale. Visitors were thus provided an overview of Tyler Graphics' historic contributions to the art of printmaking.



教育・普及事業

Education & Enlightenment

佐藤卓TSDO展 <in LIFE> 展覧会解説 (YouTube 配信)

出演者：佐藤卓

佐藤氏がパッケージデザインを手がけた「明治 おいしい牛乳」は日本で一番飲まれている牛乳、言い換えれば生活の中に「あたりまえ」にある存在。誰もが知っている「あたりまえ」を解剖し、本当はいかに知らないかに気づいてもらうプロジェクト「デザインの解剖」では、パッケージだけではなく牛の飼育環境についても解剖し、牛乳を生活者に届ける仕事はどういうことなのか、デザインを解剖することで「あたりまえ」の中にある見えない部分が見えてくる。その後、牛乳パッケージを拡大した作品「ミルク」を発表。自らが関わったパッケージを題材にはしているが、あくまで自分の作品（アートワーク）として制作。「明治 おいしい牛乳」に關していえば、デザインの仕事としてパッケージデザインを手がけ、解剖することで社会の見えない部分をみていくプロジェクトへ、最後にアートワークに至る。これらは佐藤氏の中では一つの流れの中にあり、今回の展示にもその流れが組み込まれているという。佐藤氏のデザインの仕事もアートワークも「あたりまえ」の生活の中<in LIFE>にある。



佐藤卓TSDO展 <in LIFE> 関連企画「TSDO WORK WALK in GINZA」(YouTube 配信)

出演者：佐藤卓

「佐藤卓TSDO展 <in LIFE>」の会期中、TSDOがデザインを手がけた銀座のスポットへ実際に足を運んでいただき、現地に設置されたQRコードから解説動画が視聴できるという関連企画「TSDO WORK WALK in GINZA」の動画を公開した。動画では松屋銀座の地下通路、ISSEY MIYAKE GINZA、TORIBA COFFEEについて、それぞれ工夫したところや裏話など、デザインを手がけた佐藤氏自らが解説。松屋銀座の地下通路の空間デザインでは、待ち合わせができる素敵な場所にならないかと考え、美濃焼のオリジナルタイルを使った美しい空間を生み出した。ISSEY MIYAKE GINZAではカラフルな服がより美しく見えるような白を基調とした明るい印象の空間を作ると同時に、予め均等に並べられるよう工夫を施したハンガーラックなどの仕度も一緒に考案。TORIBA COFFEEではロゴマーク、パッケージデザインなどのグラフィックデザインを中心に手がけ、一般的な四角形のショッパー（紙袋）ではなく、遠くからでもTORIBA COFFEEの紙袋だとシルエットだけで分かるようにデザインした。いずれの解説からも、銀座を行き交う人々やそこで働く人々への佐藤氏の配慮や温かい眼差しが感じられる。



ddd DATABASE 1991-2022 展覧会解説 (YouTube 配信)

出演者：後藤哲也＋萩原俊矢＋
西山広志 (NO ARCHITECTS)

はじめに後藤氏が、本展のコンセプトは「dddギャラリーの歴史をこれからのグラフィックデザインのために活用する」ことだと語り、そのためにオンラインとオフラインの2つの世界に相互に関連するデータベースを作ったと言う。世界のどこからでもアクセス可能なウェブ（オンライン）のデータベースについて、萩原氏は主観的な中心をつくることをあえて避け、情報の総量をフラットに見せ、展覧会のポスター、人物、ヒストリー、キーワードといった情報が互いにつながり、結果としてdddのこれまでの取り組みや活動のひろがりが見えやすくなるよう、ページ間の導線の引き方に配慮したと語る。「身体感覚のデータベース」がテーマのオフラインのデータベースについて西山氏は、移転後の初回展なので部屋のかたちが捉えられるシンプルな展示構成を心掛け、共用部廊下からのガラス越しの見え方にも配慮し、全てのポスターの展示間隔を統一し、情報のバランスを均一化した。真ん中の斜めの構造物は、いろいろな角度から見ることで見え方や質感の変化をわかりやすく提示したと解説した。



FormSWISS (フォーム・スイス) 展覧会解説 (YouTube 配信)

出演者：丸山新＋中村竜治

「Form」とは、丸山氏がコロナ前に30日間スイスを旅して、スイスのデザイナーがどのように考えて、デザインや社会に向き合っているかを取材した内容がベースになっていると紹介。今回の床置きやむき出しでの作品展示は、通常の壁への掲示とは視点が変わる点、グラフィックデザインとは本来日常のモノであり、顔装はしなくなってきたからだ話す。また、グラフィックデザイナーの仕事場の日常も伝えたかったと言う。展示空間に画鋏と磁石でグリッドを設えたことについて、中村氏はスイスデザインの基本であるグリッドの中に丸山氏が展示していく事で彼の頭の中が表現されることを目指したと話す。またポスターを会期中容易に展示替えができるよう配慮したとのこと。会場の展示はドイツ語圏、イタリア語圏、フランス語圏に分けて展示されており、スイスを旅する感覚を出したと丸山氏。会場にはインタビュー映像と丸山氏が取材で取ったメモやスナップ写真も展示され、グラフィックデザインに取り組み姿勢を考える参考にしてほしい、と締めくくった。



佐藤卓TSDO展 <in LIFE>
ギャラリートーク (YouTube配信)

出演者：佐藤卓

久しぶりに銀座で行われたギャラリートークは、参加者から事前にいただいた質問を佐藤氏が読み上げて回答していくという、ラジオパーソナリティ形式で進行。デザインをする上で一番大切にしていることは何かという質問には、自分が置かれている環境を把握することと答える。何よりもまず質問責めにしてできるだけ自分の置かれている環境を理解するということを大切にしている。10の話があれば9は聞くに徹する、9を聞けば残りの1は相手の方も聞いてくれますよ、そこで一番重要な事を言う。これはコソかもしいですね。デザイナーとして日頃から心得ていることは何かという質問には、先々のことを想像して、今のうちに何をやっておくべきか考えて実行することと回答。デザインは一言で表すと気遣い、日常生活で周囲に気を遣う、当たり前のことだけど習慣づけるのは大切ですね。時間の許す限り回答を続け、気が付けば30名以上の質問に回答。佐藤氏のデザインに対する考えや視点が徐々に見えてくる充実したトークイベントとなった。



GRAPHIC CUBE—フィルムポスター
DNPグラフィックデザイン・アーカイブより
展覧会紹介 (YouTube配信)

出演者：森崎陵子 (CCGA現代グラフィックアートセンター学芸員)

「GRAPHIC CUBE」とは、DNPグラフィックデザイン・アーカイブ (DGA) 所蔵作品からのシリーズ企画であり、今回は17名の作家の映画にまつわるポスターを展示した旨を紹介。また、グラフィックデザインの持つ多面性を立方体になぞらえ、展示仕置にも立方体を取り入れたことを説明。DGAは240名以上の作家・2万点以上の主にポスター作品からなるコレクション。今後ここからテーマに沿って横断的な作品展示を予定。今回のテーマである映画は19世紀末に新しい娯楽として誕生して以来、その広告媒体として映画ポスターが制作されてきた。絵画・彫刻などの空間芸術に対し、演劇・音楽などと共に時間芸術と呼ばれる映画は、映像や音楽、演技など様々な要素を内包するため総合芸術とも評され、芸術の一分野となっている。こうした映画をグラフィックデザイナーが咀嚼・分析し、いかに1枚のポスターに表現しているか、会場で味わって欲しい、と語った。後半、展示の中から代表的なポスター作品2点についても解説した。



Yui Takada with ori.studio CHAOTIC ORDER
高田唯 混沌とした秩序
展覧会解説 (YouTube配信)

出演者：高田唯

高田唯氏自らが会場を歩き、今回の展示の意図や見どころについて解説した動画を3回に分けて配信した。会場に足を踏み入れると、空間を覆いつくす竹でできた柔らかな曲線の構造体、そこにレイアウトされた色とりどりの無数の風鈴に目を奪われる。時折空調の風に吹かれて気まぐれに揺れている。通常は動かないグラフィックが揺れるのはすごくいいなあと高田氏、風には様々な線、塗り方、方法で人型 (ひとがた) が描かれており、一目で高田氏の作り出す混沌とした秩序の世界に引き込まれる導入。北京のori.studioとの共同制作の作品集『AXIS』について、どう料理するかは信頼しすべてを任せて、楽しみながら素材を送っていたと話す高田氏。地階会場には手がけた仕事や活動からセレクトされた様々なデザインが並び、デザインの崇高な部分もそうではない部分も、身近にデザインはあると様々な世代に感じてもらいたい、それぞれがどう思うかは委ねるし、すべてが正解。自分自身の心と照らし合わせながら楽しんでもらいたい。どう感じたのかを教えて貰えたら力になる、という言葉で解説を締めくくった。



ppp groovisions
展覧会紹介 (YouTube配信)

8K360度カメラやレール移動による動画も交え、様々なアングルから展示会場を撮影。編集により、軽快な音楽に載せて、会場全体の展示作品を目まぐるしく見せる内容。その中で、グルーヴィジョンズについて (京都で結成され、東京へ移り活躍) や、展覧会タイトルである「ppp」の由来 (「ddd」を逆にすることで、どこからでも観覧できる様子を表現)、また、なぜ「石」 (天地無用の展示を象徴) がメインビジュアルとなり、ポスター展示されているのか、彼らの代表的キャラクターである特定の年齢や性別、国籍も設定されていない人型グラフィックデザイン/システムchappieとは何か、といった展覧会のポイントをテロップで簡潔に解説するコンパクトなティザー映像となった。



日本のアートディレクション展2022
ギャラリートーク (YouTube配信)

出演者：大貫卓也 + 中村至男 + 菊地敦己

ゲストはADCグランプリを「ヒロシマ・アビールズ2021」のポスターで受賞した大貫卓也氏と、ADC会員の中村至男氏、菊地敦己氏の3名。「ヒロシマ・アビールズ」は核兵器廃絶や平和の尊さを言葉を超えて広く内外に訴える目的で始まった事業。受賞作では自身を含む戦後世代の人たちにもライブ感をもって伝わる、誰もが一目見ただけで生理的に体が拒否するような、自分事として機能するデザインにトライしたという大貫氏。何にでも「いいね」が求められる時代、誰も「いいね」しないようなものを一生懸命考えるのは特殊な感じでした。と制作当手を振り返る。ポスター1枚の後ろに未来へ続く時間を感じました。と話するのは学生時代からの大貫ファンだという中村氏。トークの後半、ADCの展示を見てどう思うか、と菊地氏が大貫氏に問えば、審査する側はもっと新しい人材・表現・芽をどうやったら拾い上げていけるかを意識していかなければね、と自戒を込めた厳しいご意見。その後も話題は尽きず、充実したトークとなった。



Taku Satoh TSDO: in LIFE Exhibition Commentary (posted on YouTube)

Participants : Taku Satoh

Meiji Oishii Gyunyu, a brand of milk whose package design was created by Taku Satoh, is Japan's best-selling milk: in other words, it's part of the landscape of Japanese life. In his "Design Anatomy" project, Satoh dissects what everyone assumes they know about things but which, in truth, they know surprisingly little about, the aim of the project being to engender realization of this shortcoming. In relation to milk, for example, he not only discusses his milk packaging but also dissects the environment in which cows are raised and describes what labor is involved in getting milk to the consumer. By dissecting design, he reveals the hidden aspects of things we take for granted. After he designed the packaging for Meiji Oishii Gyunyu Satoh released "Milk," an array of enlarged arrangements of the milk package. Here, while using his own package design as his material, ultimately he created "Milk" pieces as artworks. In short, what began as a consignment to design milk packaging evolved into a project whereby, through anatomical dissection, Satoh reveals hidden aspects of society, and from there his project evolved into works of art. To Satoh, these are all part of a single flow, a flow which he says he incorporated into this exhibition. Taku Satoh's designs and his artworks are both integral elements "in LIFE."



Taku Satoh TSDO: in LIFE Related Event: "TSDO WORK WALK in GINZA" (posted on YouTube)

Speaker : Taku Satoh

"TSDO WORK WALK in GINZA" was an event, in which visitors could go to see three projects designed by TSDO in the Ginza area. At each location, by scanning a QR code they could watch a commentary about its design. Taku Satoh offers his commentary on the three projects – the underground passage Matsuya Ginza Department Store, ISSEY MIYAKE GINZA, and TORIBA COFFEE – and relates how he approached each consignment and introduces unknown aspects behind their creation. In working up the spatial design for the Matsuya Ginza project, he wanted to create a pleasant place where people can arrange to meet, and to do so he produced a space decorated with specially crafted Minoyaki ceramic tiles. For ISSEY MIYAKE GINZA, Satoh sought to create a cheerful space in white tones that would make Issey Miyake's colorful clothing creations appear all the more beautiful. He also devised racks on which hangers would hang at evenly spaced distances. In the TORIBA COFFEE project, Satoh focused on graphic design. For example, in lieu of a conventional square paper shopping bag, he designed bags which, by seeing their silhouette alone, one would recognize, even from a distance, that it was a purchase made at TORIBA COFFEE. All three of Satoh's commentaries demonstrated the care and warmth he puts into each project for the benefit of the people who visit or work in Ginza.



ddd DATABASE 1991-2022 Exhibition Commentary (posted on YouTube)

Participants : Tetsuya Goto + Shunya Hagiwara +
Hiroshi Nishiyama (NO ARCHITECTS)

Mr. Goto opened by noting that the concept of this exhibition was to enable use of ddd's history as a reference for graphic design of the future, adding that, for that purpose, the database had been compiled to integrate the online and offline realms. Mr. Hagiwara, speaking in reference to the online database – the website accessible from anywhere in the world – said that pains were taken to avoid establishing any subjective center, preferring instead to show the total volume of information evenly, with the information on exhibition posters, designers, history, keywords, etc., all being interconnected. As a result, he said care was taken in drawing the guidelines between pages, doing so to enable the database user to have visible access to all of ddd's endeavors and activities to date. Mr. Nishiyama, next speaking in reference to the offline database, which targets a "physical sense," stated that a simple display format had been adopted to enable visitors to get a feeling of the gallery's overall form. He added that care had also been taken in designing the view from the external corridor through the glass panels. Space between posters was kept uniform throughout, as was the balance of information. Mr. Nishiyama further noted that the oblique structure at the very center provided for easy understanding of different ways of viewing and changes in texture that are derived by viewing from various angles.



FormSWISS Exhibition Commentary (posted on YouTube)

Participants : Arata Maruyama + Ryuji Nakamura

Mr. Maruyama introduced the exhibition saying it was based on what he had personally learned during a 30-day journey in Switzerland before the pandemic, when he met with Swiss designers to learn how they approach design and society. He said he opted to display the works on the floor and fully exposed in order to offer a perspective different from the normal wall display, adding that graphic design is inherently an everyday undertaking, and he didn't want to display the works in frames. He also said he wanted to convey how graphic designers work in their everyday setting. Mr. Nakamura spoke of how the display area had been arranged into grids making use of thumbtacks and magnets. Mr. Maruyama said he wanted to show the works in grids – which form the basis of Swiss design – in order to express what he had in mind. Plus, he said he took steps so the posters on display could be changed during the course of the exhibition. The displays were arranged by language group: German, Italian and French, to give visitors a sense of traveling around Switzerland. Also on display were filmed interviews, memos and snapshots Mr. Maruyama had taken while in Switzerland. He said he hoped people would use them as a reference when considering one's stance toward graphic design.



Taku Satoh TSDO: in Life Gallery Talk (posted on YouTube)

Speaker : Taku Satoh

In this Gallery Talk, the first held in Ginza in quite some time, Taku Satoh read and responded to questions received in advance from participants, in a format like a radio talk show. When asked what he considers of greatest importance in the act of designing, he responded getting a grasp of the environment in which he is situated. He said that above all he places importance on understanding that environment to the best of his ability by asking the client as many questions as possible. Satoh said that if the client brings up 10 points, he does his best to go along with 9 of them, adding that if he goes along with 9, then the client will listen to his point of view regarding the remaining 1 – and this is when he says what is most important. This is his clever little play. Another question asked what, as a designer, he keeps uppermost in mind in his daily work. Here he responded that he imagines what the future will be like, then decides what he should best do now, and acts upon his conclusion. He said that in a nutshell, design equates to showing consideration for others, taking care toward one's surroundings in everyday life. Though this is only too obvious, he said, it's important to make a habit of it. Satoh continued to respond to questions as long as time permitted, and altogether he responded to more than 30 queries. This was a highly rewarding talk event in which the participants gradually came to understand Taku Satoh's approach and perspectives toward design.



GRAPHIC CUBE – FILM POSTERS From the DNP Graphic Design Archives Collection Exhibition Introduction (posted on YouTube)

Speaker : Takako Morizaki, Curator, CCGA (Center for Contemporary Graphic Art)

GRAPHIC CUBE is a new series of exhibitions featuring works in the DNP Graphic Design Archives (DGA) collection. Ms. Morizaki introduced this first show in the series, which was focused on film posters by 17 designers. By comparing the multifaceted nature of graphic design to a cube, she said the GRAPHIC CUBE exhibitions attempt to portray diverse relationships from multiple angles and in three dimensions. She also explained that even the display fixtures incorporated cubic elements. In contrast with spatial arts such as painting and sculpture, film is one of what are known as "temporal arts," together with theatrical performances and music. Because video, music, theater performance and the like incorporate diverse elements, they are also regarded as "composite arts," constituting a genre of its own within the arts. She voiced the hope that visitors to the exhibition would come away with insight into how graphic designers have understood and analyzed motion pictures and how they have expressed their findings in a single poster. In the second half of her talk event, Ms. Morizaki introduced two representative works from among the posters on display.



Yui Takada with ori.studio: CHAOTIC ORDER Exhibition Commentary (posted on YouTube)

Speaker : Yui Takada

In these videos, presented in three installments, Yui Takada explained his intent behind the various works on display and their major points of interest, as he walked through the gallery. On entering the gallery, the visitor comes upon gently curved bamboo structures filling the entire space, attached to which are a profusion of eye-catching colorful kites. From time to time they sway gently in the breeze generated by the air-conditioning system. Takada says he loves to see graphics, which are normally static, swaying about. His kites are decorated with human forms depicted using many different lines, coloring methods and configurations, and a single look suffices to draw the visitor into the world of his chaotic order. When asked about AXIS is collection created in collaboration with ori.studio of Beijing, he said he left matters regarding his works' treatment in the book entirely up to the studio, and he sent off his materials with eager anticipation of what they would make of them. The lower level of the gallery was dedicated to an array of works and design projects. He expressed the hope that people of various generations would come to realize that design is present all around them – both the sublime and the less than sublime – and he left it to each to reach their own conclusions, there being no wrong answers. Takada also hoped visitors would enjoy seeing his works, each from their own perspective, and in closing he said that learning how others respond to his works gives him strength.



Art Direction Japan 2022 Gallery Talk (posted on YouTube)

Participants : Takuya Onuki + Norio Nakamura + Atsuki Kikuchi

For this Gallery Talk, Takuya Onuki, winner of the 2022 ADC Grand Prize for his "Hiroshima Appeals 2021" poster, was joined by ADC members Norio Nakamura and Atsuki Kikuchi. The "Hiroshima Appeals" campaign was launched to promote, nonverbally, worldwide abolition of nuclear weapons and shared embrace of peace. In his award-winning work, Takuya Onuki said he attempted to create a design that would affect each viewer personally, its "live" presentation immediately triggering a physiological rejection in anyone who sees it, including those who, like himself, are of the postwar generation. In retrospect, he said it was an odd experience striving intently to create a visual that, in these days when the whole world is eager to attract "likes," no one would find likable. Norio Nakamura, who said he has been a fan of Onuki's work since student days, commented that behind this poster he sensed the flow of time into the future. In the second half of the talk, Atsuki Kikuchi asked Onuki his reaction after viewing this year's ADC exhibition. Onuki responded that a conscious effort needs to be made on the part of the jury to spotlight newer talents, newer methods of expression, and budding new designers, thus issuing a harsh message to those on the judging side, including himself. The talk continued to touch on numerous other topics, making for a truly fulfilled occasion.



ppp groovisions Exhibition Introduction (posted on YouTube)

For this Exhibition introduction, we filmed the gallery display area from many different angles using an 8K 360 video camera and slider. The film was then edited, given an upbeat soundtrack, and the works on display were shown in vertiginous succession. It served as a compact teaser concisely explaining, via subtitles, who groovisions is (a design studio founded in Kyoto but subsequently active in Tokyo), where the "ppp" in the exhibition title came from ("ddd" upside down, to express that the exhibits could be viewed from any vantage point), why a "rock" (symbolic of the immutable "proper" display method) was used as the main visual of the exhibition posters, and who "chappie," their representative mascot, a graphic design/system in human form having no age, gender or nationality, is.



ddd Special Dialogue Program: Overviews 2021–23

ddd特別対談概要 2021–23

グラフィック文化領域のエキスパートおよび異分野のエキスパートのゲストが対談、その様子を音声コンテンツとして、2021年7月より財団公式YouTubeチャンネルから継続して配信しています。

The DNP Foundation for Cultural Promotion hosts a series of special dialogues featuring experts in graphic culture paired with experts in other fields. Starting in July 2021, the audio portions of these talk sessions are regularly uploaded to the Foundation's YouTube channel.



特別対談企画 第1弾 (YouTube配信)

出演者：大西隆介（グラフィックデザイナー）＋
近藤聡乃（アーティスト・漫画家）

グラフィックデザイナーの大西隆介氏とニューヨーク在住のアーティスト・漫画家の近藤聡乃氏、異なる分野で活躍する二人は多摩美術大学グラフィックデザイン学科の同級生でもある。今回の対談では、デザインとアートという異分野で活躍する二人が、今に至るまでに積み重ねた行為や思考を振り返りつつ紐解いていく。この対談を収録したのは、コロナ禍によって世界中の人々の往来や活動において待機を強いられた頃、言い換えればコロナ禍によって過去を振り返り未来について考える時間が半ば強制的にもたらされた時期にあたる。視聴者の方々が二人の対談から何かしらのヒントが得られればと考え「今の自分をかたちづくるもの、明日の自分をつくるもの」というテーマで対談いただいた。異なる立場の二人が対談することで、立体的な議論ができるのではないかという狙いもこの対談企画にはあるのだが、この狙いがうまくいったかどうかはご自身で確かめていただきたい。百聞は一見に如かずというが、実はこの企画は音声コンテンツである。百回も聴く必要はないはずなので、ぜひ一度お聴きください。

Special Dialogue #1 (posted on YouTube)

Participants : Takasuke Onishi (graphic designer) +
Akino Kondoh (artist / manga artist)

Graphic designer Takasuke Onishi and artist-cum-manga-artist Akino Kondoh, who is based in New York, were classmates in the Department of Graphic Design at Tama Art University. Although today they are active in different fields – one in design, the other in art – in this special dialogue they looked back over their respective endeavors and the ideas they embraced through the years. Their conversation was recorded during the pandemic, a time when people the world over were forced to halt their movements and activities, a time when, with little choice, people were given time to think back over their past and consider their future. The two participants were asked to talk about what made them who they are today and what will make them who they expect to be in the future. This theme was chosen in the hope that their dialogue might provide hints of some benefit to listeners. Another aim in bringing together these two creatives of different standings was to generate a three-dimensional discussion that will involve the listener. We leave it to viewers to reach their own conclusion as to whether this aim was successfully carried out. It's commonly said that "a picture is worth a thousand words," but here the video contents are limited to audio. In this instance, we eagerly encourage "viewers" to focus on the two participants' words.



特別対談企画 第2弾 (YouTube配信)

出演者：中垣信夫（グラフィックデザイナー）＋
山縣良和（ファッションデザイナー）

グラフィックデザイナーの中垣信夫氏とファッションデザイナーの山縣良和氏、親子以上に年の離れた二人には学校の主宰者という共通点がある。今回、二人には「学びの場をつくる」というテーマで対談いただいた。学校をつくった理由について二人に問うと、僕の役目は古いということ、古いことは新しいことに何か活かせることがあるかなと思ってね。と中垣氏。一方、山縣氏は日本の教育になじめず留学したロンドンで、日本とは全く異なる価値観の教育にカルチャーショックを受け、自らが考えて実行できる自由な学べる場所をつくってみたいという思いで学校を始めた。グラフィックでもファッションでも、豊かな社会にするためにデザインがある。世界中の人がデザインに興味を持ったらもっと無駄のない社会になる可能性もあるかもしれない。あまりにもそういうものに無関心だから今みたいな社会になっている。今日の対談を通じて情熱を感じました。これからも少しでも役に立つようなことをやって欲しいと思います。と対談の最後に中垣氏が山縣氏にエールを送った。

Special Dialogue #2 (posted on YouTube)

Participants : Nobuo Nakagaki (graphic designer) +
Yoshikazu Yamagata (fashion designer)

Graphic designer Nobuo Nakagaki and fashion designer Yoshikazu Yamagata are more than a generation apart in ages, but they have in common their respective positions as head of a school. For this session, they were asked to talk about what is involved in creating a place of learning. To begin, they were asked their reasons for starting a school. Mr. Nakagaki said that although he's been doing what he does for a very long time, he thought that perhaps what he has learned over many years could be of use for creating something new. Mr. Yamagata related how he had been unable to adapt to Japan's way of education and went abroad to study, in London, where he experienced culture shock at the teaching of values completely different from those taught in Japan. The experience aroused his desire to create a place in Japan where students can learn freely, acting on their own ideas. Mr. Nakagaki said that with both graphic art and fashion, the role of design is to enrich the world. If people all over the world were interested in design, he believes the world might be a less wasteful place. It's because the world is so uninterested in design that it's the way it is today. At the close of the session, Mr. Nakagaki said talking with Mr. Yamagata had given him a sense of his passion, and he expressed the hope that Mr. Yamagata will continue to play a useful role, small or large, in promoting design.



特別対談企画 第3弾 (YouTube配信)

出演者：ナカムラクニオ（「6次元」主宰・美術家）＋
佐藤直樹（デザイナー・画家）

ゲストは、デザイナー・画家の佐藤直樹氏と、伝統的な修復技能である「金継ぎ」の普及活動でも知られる美術家のナカムラクニオ氏。グラフィックデザインが今後どうなるかという話題では、その問いには答えようがないが、グラフィックデザインは専門領域と考えるよりは、色々なジャンルの人が入ってきて交通する場所になっていく気がする。そのためにはアートの方法論がデザインの領域にどう接続していくかという時代に今後は入って来ざるをえないと思うと佐藤氏。グラフィックデザイン業界に限らず、業界というフレームやジャンル分けはもう通用しなくなるとも話す。コロナ禍はいろいろな事が変わっていくきっかけとなり、ある人たちにとってはチャンスでもある。と話すのはナカムラ氏。業界やジャンルが壊れてどこからでも始められる雰囲気がある今の時代にはある。僕らみたいな少しアウトサイドな人たちが少しずつ何かを変えられるのではないかなと思う。ウィーン分離派や印象派など中心から外れていた周辺（アウトサイド）の人達が結果的に美術界の中心になっているということもあると話す。どこもなくアウトサイドな二人の対談に、大きな時代の変わり目を感じた。

Special Dialogue #3 (posted on YouTube)

Participants : Kunio Nakamura (manager of Rokujigen / artist) +
Naoki Sato (designer / painter)

The guest participants were designer and painter Naoki Sato and artist Kunio Nakamura, who is also known for his activities promoting *kintsugi*, a traditional method for repairing and restoring ceramics. On the topic of where graphic design is heading, Mr. Sato offered that while there is no clearcut answer to that question, his sense is that rather than thinking of graphic design as a specialized field, he predicts it will become a place where people from various genres will come together and intermingle. Toward that end, he said he thinks there will inevitably be a period when the question must be addressed as to how art methodology should be integrated with the realm of design. Mr. Nakamura opined that not just in the world of graphic design, he foresees that dividing into genres and the like will no longer have meaning. He added that the pandemic created opportunities for many things to change – and for some people, created new opportunities. Today, professional barriers and genres have broken down, and the atmosphere lets one commence from anywhere. Mr. Nakamura further expressed his view that artists like him and Mr. Sato, being slightly outside the mainstream, are in a position to gradually change things; and there are even occasions when those who were on the outside – members of the Vienna Secession, for example, or the Impressionists – ultimately take center stage in the history of art. This dialogue by two artists who are both outsiders in some ways, offered a glimpse at a major change underway.



特別対談企画 第4弾 (YouTube配信)

出演者：西まどか（編集者）＋
加藤賢策（グラフィックデザイナー）

世界のデザイン誌「アイデア」（誠文堂新光社）編集長の西まどか氏と同誌アートディレクターを務めるグラフィックデザイナーの加藤賢策氏。編集長とアートディレクターという立場で協働する二人に、幼少期から選んでこれまでどんな選択を経て現在に至るのか、人と協働する上で大事にしていることは何か、「選択と協働」というテーマで対談いただいた。自分が一番面白いと思う場所にいることが何かの近道、何かをやるためのステップとしてではなく今一番面白いと思うことをやる。と加藤氏はこれまでの選択を振り返る。人と協働する上で大切にしている事は何かと西氏に問えば、挨拶は大事、会って話してみると意外とシンプル、自分の中に留めずにアウトプットすることは次に決断をすることに向けてとても大事な事と答える。自分のこれまでに向き合ってみて自分自身の整理になった、次はどうしようかなと思う。こうやって話をしてアウトプットしたら、次がありますよね。と最後に締めくくった。

Special Dialogue #4 (posted on YouTube)

Participants : Madoka Nishi (editor) +
Kensaku Kato (graphic designer)

This session featured Madoka Nishi, editor-in-chief of *IDEA* (Seibundo Shinkosha Co., Ltd.), an international design magazine, and graphic designer Kensaku Kato, who serves as the publication's art director. As collaborators in the magazine's production, they were asked to speak on the theme of "choices and collaboration," each reviewing the choices they have made since childhood and describing what they consider important when collaborating with others. Looking back on the choices he has made, Mr. Kato said that he does what he thinks is most interesting at a given moment – choosing what he chooses not because it will be a shortcut or a step toward something else, but because it's what interests him most. When asked what she considers important when collaborating with others, Ms. Nishi responded that meeting face to face is important. When you meet and discuss things, it becomes surprisingly simple to say what you have on your mind, which leads to making your next decision. Ms. Nishi closed the session saying that looking back like this over what she has done, brought clarity to her mind, making her ponder where she will head next. Putting thoughts into words this way leads to the next step.



特別対談企画 第5弾 (YouTube配信)

出演者：池田光宏（アーティスト）＋
佐々木俊（グラフィックデザイナー）＋
中西洋子（張子作家）＋落合晴香（イラストレーター）

今回のゲストは、アーティストの池田光宏氏、グラフィックデザイナーの佐々木俊氏、デザイナーとして働きながら、ユーモラスな張子作品を発表する中西洋子氏、植物をモチーフとしたグラフィック作品で知られるイラストレーターの落合晴香氏の4名。デザイナーはクライアントの課題解決だけではなく自分自身の課題も織り交ぜているのでは、という池田氏の仮説のもと、「自主制作」の研究というテーマで対談いただいた。池田氏の軽妙な司会進行のもと、それぞれの「自主制作」について順番に掘り下げていく。仕事では過去の実績などを見て依頼されたりする事が多いけれど、過去の自分は今の自分にとってはもはや他人なので、それを裏切らなければという気持ちの時が多々ある。「自主制作」は、自分から見た自分と社会から見た自分とのギャップを埋めていく作業と、自分が理解していない自分を発掘していく作業の2つがあるんじゃないかな、と佐々木氏が最後に締めくくり対談は終了した。

Special Dialogue #5 (posted on YouTube)

Participants : Mitsuhiro Ikeda (artist) +
Shun Sasaki (graphic designer) +
Yoko Nakanishi (papier-mâché artist) +
Haruka Ochiai (illustrator)

Four participants took part in this special session: artist Mitsuhiro Ikeda; graphic designer Shun Sasaki; Yoko Nakanishi, who, while working as a designer, also creates humorous works in papier-mâché; and illustrator Haruka Ochiai, known for her graphic works on botanical motifs. The theme of the discussion was a consideration of independently created works – a topic chosen on the basis of Mr. Ikeda's hypothesis that designers not only work to meet the parameters posed by the client but also simultaneously address issues of their own. With Mr. Ikeda skillfully serving as moderator, the other three guests took turns exploring their positions vis-à-vis noncommissioned works. Speaking last was Mr. Sasaki. He opined that with commissioned works, in many cases the client selects a designer based on the designer's past achievements. As a designer, however, the person you were in the past is no longer the person you are in the present, so accepting a commission often engenders feelings of betraying what you are. When creating a work independently, he offered, two processes are involved: bridging the gap between how you look at yourself and how others see you, and searching for the part of yourself that you don't understand.



特別対談企画 第6弾 (YouTube配信)

出演者：葛西敏彦（サウンドエンジニア）＋
大原大次郎（グラフィックデザイナー）

今回のゲストは様々なミュージシャンから支持されるサウンドエンジニアの葛西敏彦氏と、グラフィックデザイナーの大原大次郎氏、二人に「みえないもの、みえにくいもの」というテーマで対談いただいた。サウンドエンジニアリングという仕事では、演者のバイオリズムなど、レコーディングの現場に漂う、目にはみえない、みえにくいけれども確かにそこに存在する空気感や、よい流れをうまくキャッチして音に反映させる。大原氏はこれまで葛西氏のレコーディング現場に何度も立ち会い、その仕事に刺激と影響を受けてきた。今回の対談ではサウンドエンジニアリングの世界を紐解きつつ、大原氏がデザインに向き合う上で大切にしていることにもリンクさせて話を展開させていく。両名が参加した文字で音楽を奏でるユニットTypogRAPy（タイポグラッピィ）の未公開音源や葛西氏の新レーベルS.L.L.S Records（シルスレコーズ）の楽曲も特別に公開、音楽を聴きながらの和やかな対談となった。

Special Dialogue #6 (posted on YouTube)

Participants : Toshihiko Kasai (sound engineer) +
Daijiro Ohara (graphic designer)

This session's guests were sound engineer Toshihiko Kasai, who enjoys strong support from musicians of diverse tastes, and graphic designer Daijiro Ohara. Their topic focused on "things you can't see, and things difficult to see." The object of sound engineering is to capture the positive flow of what's invisible or difficult to see but is nonetheless clearly present – the biorhythm of the musicians, the atmosphere in the recording studio – and reflect it in the finished sound. Mr. Ohara has been present at Mr. Kasai's recording sessions on numerous occasions, and he says he has been inspired and influenced by his work. In this conversation, while unraveling the world of sound engineering, the talk also expanded to a consideration of what Mr. Ohara attaches importance to in the performance of his design work. The talk session proceeded in a friendly atmosphere while listening to music. This included a previously unreleased performance by TypogRAPy, a unit in which Mr. Kasai and Mr. Ohara are both involved that creates music from typography, and a release from Mr. Kasai's new music label S.L.L.S Records.



特別対談企画 第7弾 (YouTube配信)

出演者：大塚いちお (イラストレーター・アートディレクター) +
池田光宏 (アーティスト)

NHKの教育番組「みいつけた!」のアートディレクションを手がけ、「いすのまちのキッチン」の生みの親としても知られる大塚いちお氏のアトリエをアーティストの池田光宏氏が訪問、「自主制作」の研究というテーマで対談いただいた。今回は池田氏が聞き手となり、大塚氏の「自主制作」について掘り下げていく。大塚氏がデザインを担当した上越妙高駅のイメージキャラクター「ウェルモ」のエピソードでは、デザインだけではなく「ウェルモ」目線で上越の人や地域を取材する活動や、DIGMOG COFFEE (ディグモグコーヒー) という「ウェルモ」が店主のカフェの開業まで自ら手がけている。大塚氏の名刺には肩書の記載がなく、これは肩書で自分自身を限定しないためだというのが、このエピソードからも活動の幅広さに驚かされる。対談の後半、学生へ出す課題の話題になると、人から与えられた課題にはどこかに答えや近道があるのではないかと感じてしまうけど、答えのない面白さを知って欲しいと話す。完成したと思ったものに線を一本加えたら、完成の一步先のゴールへ行けることもある。そういったことを伝えていきたいと対談を締めくくった。

Special Dialogue #7 (posted on YouTube)

Participants : Ichio Otsuka (illustrator / art director) +
Mitsuihiro Ikeda (artist)

For this talk session, artist Mitsuihiro Ikeda visited the studio of Ichio Otsuka, art director of the NHK educational program *Mitsuketa* ("I found you!"), known for his creation of "Kossy of the Chair Town." Their discussion focused on a consideration of noncommissioned works, with Mr. Ikeda serving in the role of interviewer. Mr. Otsuka was asked about his creating Welmo, the mascot character he designed for the Joetsu Myoko train station. Mr. Otsuka not only performed the mascot's design, but also became active in reporting on the local people and region from Welmo's point of view. He even ended up opening a café (DIGMOG COFFEE) "operated" by Welmo. Mr. Otsuka's business card doesn't indicate what his profession is – a choice he says he made because labeling himself in a particular way would set limits on who he is. This in itself serves as an indication of the surprising breadth of his activities. The second half of the conversation turned to a discussion of tasks assigned to students. Mr. Otsuka said he thinks assigning students a topic makes them think there must be some correct answer or short cut. Instead, he said he hoped that students would come to know how interesting it is when there is no clearcut answer. If you take something you considered completed and add another line to it, sometimes you can get one step beyond your original goal. This, Mr. Otsuka said, was what he wanted to convey to students.



特別対談企画 第8弾 (YouTube配信)

出演者：安田登 (能楽師) +
中川学 (イラストレーター・僧侶)

今回は京都三条大橋のたもとに佇み、関白豊臣秀次公ご家族の菩提を弔ってきたお寺、慈寿山瑞泉寺の住職にして京都を代表するイラストレーターでもある中川学氏と、甲骨文字や中国古代哲学に造詣が深い、能楽師の安田登氏に「文字と、文字を超えて」というテーマで対談いただいた。心という漢字が出来たのが紀元前1000年頃、その300年前には漢字は既に5,000以上あったにも関わらず、その中には心という漢字が無かった。その300年間は心を認識することが無かったのではないかと、という大胆な仮説から対談はスタート。ここでいう心とは、時間を認知する力を指す。文字が生まれ、やがて心を認識するようになった人類は、未来を見るという能力を得た半面、未来への不安や過去への後悔も得ることになったという。「心の次の時代」がテーマの安田氏の著書『魔法のほね』の内容にもふれながら、甲骨文字や楔形文字、ラスコー遺跡の壁画からメタパース、文字の起源からその先まで、縦横無尽にお話しいたしたい。

Special Dialogue #8 (posted on YouTube)

Participants : Noboru Yasuda (Noh actor) +
Gaku Nakagawa (illustrator / Buddhist priest)

This special dialogue brought together Gaku Nakagawa, one of Kyoto's foremost illustrators in addition to serving as head priest of Zuisenji – a Buddhist temple located in the heart of the city where imperial regent Toyotomi Hidetsugu and his family are enshrined – and Noh actor Noboru Yasuda, who has a profound knowledge of China's oracle bone script and ancient Chinese philosophy. Their topic was "characters and beyond." The character 心, meaning "heart" or "mind," came into being approximately 1000 BCE. Although three centuries before that there already existed more than 5,000 characters, up to that time there was no 心. The conversation kicked off with a bold hypothesis: that during those 300 years there had been no awareness of 心, in the sense of the power to recognize time. It was only after humankind eventually became aware of the passage of time after this character's emergence that people acquired the ability to see the future; yet at the same time they also came to feel uncertainty toward the future and regret toward the past. The conversation also turned to Mr. Yasuda's book titled *Maho no hone* ("Magic Bones"), which deals with the "era beyond 心." Here, the discussion covered a full range of topics: everything from oracle bone script, cuneiform and the Lascaux cave paintings to the metaverse and the origins and future of characters.



特別対談企画 第9弾 (YouTube配信)

出演者：守田篤史 (グラフィックデザイナー) +
和田由里子 (書体デザイナー) +
宮後優子 (編集者・発行人)

素材や加工技術を独自に研究しデザインに応用することで、社会に役立てる活動を続けているPaper Paradeの二人をゲストに迎え、個人出版社・ギャラリー Book & Design代表の宮後優子氏の司会進行でお送りした。Paper Paradeはスイスでタイポグラフィを学んだ書体デザイナーの和田由里子氏と、アートディレクターにしてフリーのプリンティグディレクター、コーヒーロースターでもあるという異色の経歴をもつ守田篤史氏の二人が発足したクリエイティブチーム。前半では、和田氏が開発した画期的な活字キット「紙活字® (Paper type)」、印刷加工技術に詳しい守田氏ならではの提案の数々について。後半では、作品を発表することで仕事へとつなげるPaper Paradeならではのスタイルや、印刷技術を応用して屋外広告の再利用する「シークレット地紋」など、グラフィックデザインの領域を拡張するような仕事の数々についても話していただき、充実した対談となった。

Special Dialogue #9 (posted on YouTube)

Participants : Atsushi Morita (graphic designer) +
Yuriko Wada (type designer) +
Yuko Miyago (editor / publisher)

The main guests for this session were Atsushi Morita and Yuriko Wada, members of Paper Parade, a company that undertakes independent research into materials and processing technologies and applies them to design for the benefit of society. Yuko Miyago, principal of Book & Design, an independent publisher and gallery, served as moderator. Paper Parade is a creative team launched by Yuriko Wada and Atsushi Morita. Ms. Wada is a type designer who studied typography in Switzerland. Atsushi Morita variously does duty as an art director and freelance printing director, and also has the unusual distinction of being an expert in coffee roasting. The first half of the session focused on "Papertype®," a revolutionary letterpress printing kit developed by Ms. Wada, and on numerous proposals made by Mr. Morita, who is well-versed in print processing technologies. In the second half, the conversation turned to numerous works that have served to expand the scope of graphic design. These include Paper Parade's unique style, whereby the release of new works leads to acquiring new jobs, and "secret pattern," whereby printing technology is applied to enable recycling of outdoor advertising. The result was a highly rewarding talk session.

CCGA Print Studio Workshops

CCGA 版画工房ワークショップ



CCGAでは版画教育の拠点としての機能を強化し、地域でのグラフィックアートの普及振興にいっそう貢献するために、小規模ながらも本格的な版画制作を行うことのできる工房を2012年に開設、市民向け版画ワークショップの定期開催を開始した。新型コロナウイルス感染拡大による2020年の休止を挟んで2021年に再開、CCGA展示・教育普及活動終了となった2022年まで活動を続けた。

2022年は2つのワークショップを開講した。1回目は6月～9月開催の「ビュシス銅版画展」関連事業として同展の出品作家を講師に迎え、腐蝕銅版画の一種であり明暗の階調表現が可能な技法であるアクアチントの講座を開催した。また2回目は前年度に引き続き句画集制作講座を開催した。これは松尾芭蕉が『おくのほそ道』で知られる旅の途中に福島で詠んだ俳句に合わせた木口木版画を制作し、大日本印刷の前身である秀英舎で100年以上前に使われていたアルピオン・プレス（活版用手動平圧印刷機）を使った活版印刷と組み合わせて外函付きの句画集として仕上げるというもの。いずれの講座も好評をいただいた。

In 2012 CCGA opened a studio, small in scale but enabling full-fledged print production, in a quest to strengthen its function as a base for education about printmaking and to contribute further to the promotion of graphic art locally. Since its opening, print workshops open to local residents have been held here on a regular basis. All activities at the print studio were suspended in 2020 to prevent the spread of COVID-19, but workshops resumed in 2021 after a year hiatus and continued until the exhibition and educational programs at CCGA drew to a close at the end of 2022.

In 2022, two workshops were held. The first took place in conjunction with the exhibition "Physis Intaglio: Depiction and Impression" held at CCGA between June and September. With one of the exhibiting artists serving as instructor, the workshop focused on the intaglio printmaking technique known as "aquatint," in which gradations of light and dark are expressed through use of corrosion. The second workshop was a continuation of the previous year's workshop on the theme of Matsuo Basho's (1644-1694) haiku anthology *Oku no Hosonichi*, "The Narrow Road to the Deep North." Here, participants created wood engravings to accompany poems written by Basho in Fukushima during his journey through northern Honshu. Using the Albion press used more than 100 years ago at Shueisha, the forerunner of Dai Nippon Printing Co., Ltd., the students created a beautiful illustrated haiku collection, complete with a slipcase. Both workshops were well-received.

2022年度 第1回 アクアチント講座

日程：2022年8月20日（土）、8月21日（日）、
8月27日（土）、8月28日（日）全4日間
講師：真栄城理子（銅版画家）
受講者数：6名

2022年度 第2回 木口木版と活版印刷で句画集づくり

日程：2022年10月22日（土）、10月29日（土）、11月12日（土）、
11月19日（土）、11月26日（土）、12月3日（土）全6日間
講師：野口和洋（木口木版画家）、
竹村渉・若林亜美（活版印刷工房まんまる〇）
受講者数：6名

2022 Workshop #1: Aquatint (4 sessions)

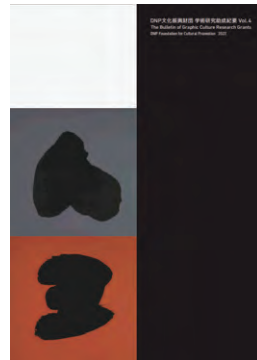
Dates : August 20 (Sat.), August 21 (Sun.),
August 27 (Sat.), August 28 (Sun.), 2022
Instructor : Riko Maeshiro (intaglio artist)
Number of participants : 6

2022 Workshop #2: Creating an Illustrated Haiku Collection by Wood Engraving and Letterpress (6 sessions)

Dates : October 22 (Sat.), October 29 (Sat.),
November 12 (Sat.), November 19 (Sat.),
November 26 (Sat.), December 3 (Sat.), 2022
Instructors : Kazuhiro Noguchi (wood engraving artist);
Wataru Takemura and Ami Wakabayashi
(Letterpress Design Studio Mammaru)
Number of participants : 6

Publications 2022-23

出版活動



■ Graphic Art & Design Annual 2021



■ ggg Books 133 高田 唯

■ DNP文化振興財団 学術研究助成紀要 Vol.4

■ Taku Satoh TSDO: in LIFE

■ Hosoya Gan

■ Aquirax Uno

(高精彩作品集)

■ び (1960年世界デザイン会議日本紹介配布資料) 復刻版

■ ビュシス銅版画展—写すものと映されるもの

■ ggg Books 133 Yui Takada

■ The Bulletin of Graphic Culture Research Grants, Vol.4

■ Taku Satoh TSDO: in LIFE

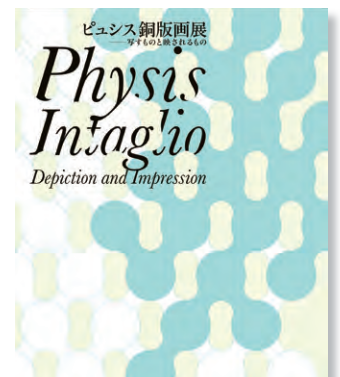
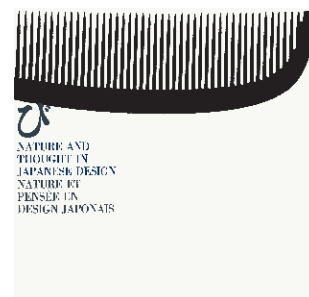
■ Hosoya Gan

■ Aquirax Uno

(High-definition Printing Catalogue)

■ Bi: Nature and Thought in Japanese Design
(1960 World Design Conference in Japan handout) Reproduction

■ Physis Intaglio: Depiction and Impression



アーカイブ事業

Archiving

Poster Archives 2022-23

DNPグラフィックデザイン・アーカイブは本年度も新たに3名の作家から寄贈を受けた。

葛西薫氏からは、CCGA現代グラフィックアートセンターで開催した展覧会出品のため、未収蔵だった作品の寄贈を受けた。葛西氏の思い入れも深い作品が加わり、より充実したコレクションとなった。

横尾忠則氏の作品はすでに700点以上収蔵していたが、2011年以降の近作76点が新たに寄贈され、質量ともにさらに充溢した。1960年代から2022年に至る横尾氏のグラフィックデザインの仕事を概観できる、広範なコレクションといえる。

2018年惜しくも世を去られた若尾真一郎氏のポスターも新たにコレクションに加わることになった。ユーモアとペース、官能的であり内省的でもある複雑な魅力を秘めた若尾氏のイラストレーションの世界に触れられる作品群である。

Again this year, the DNP Graphic Design Archives were expanded with generous donations of works by three designers.

Kaoru Kasai donated previously uncollected works which he had shown at his solo exhibition at the Center for Contemporary Graphic Art (CCGA). With the addition of these works close to Kasai's heart, his archived collection became all the richer.

Tadanori Yokoo donated a total of 76 new works which he created since 2011, augmenting the more than 700 works already included in the Archives. With the enhancement of his collection in both quantity and quality, the DNP Graphic Design Archives now boasts an expansive array enabling a broad overview of Yokoo's graphic design works from the 1960s through 2022.

This past year the Archives also received posters created by Shinichiro Wakao, who passed away in 2018. Wakao's illustrations are imbued with complex appeal marked by their humor, pathos, sensuality and introspective depth.

Tadanori Yokoo Poster Archive

横尾忠則 ポスターアーカイブ



2011



2011



2016



2017



2019



2020



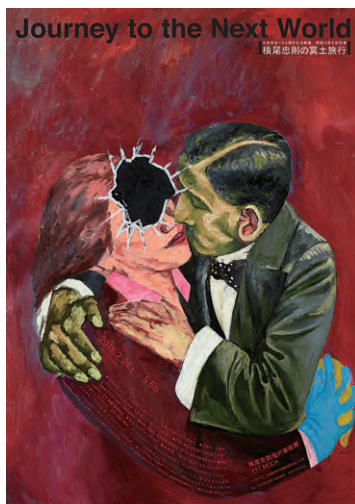
2012



2013



2015



2018



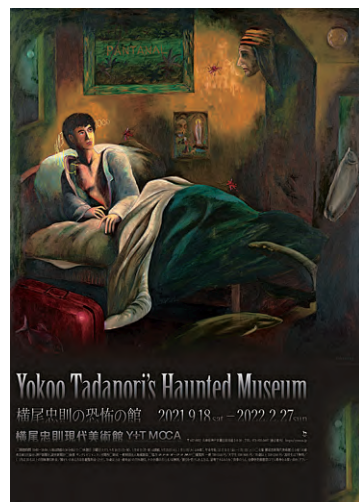
2019



2019



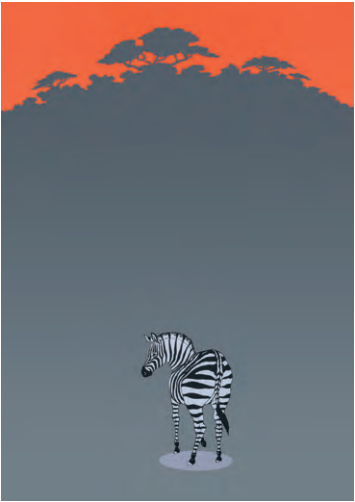
2020



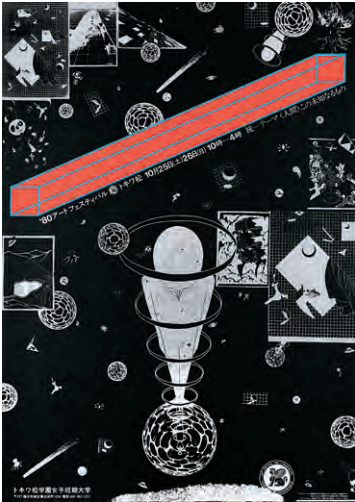
2021



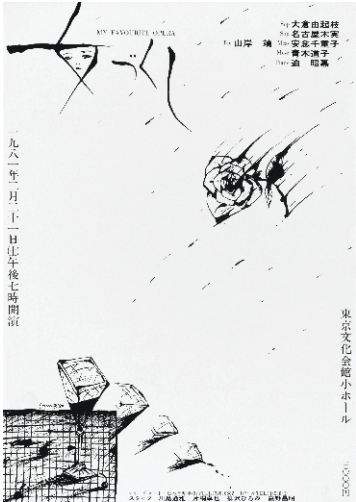
2022



1976



1980



1981



1988



1990



1994



2000



2001



2003

DNP Graphic Design Archives

DNPグラフィックデザイン・アーカイブ

◆ポスターアーカイブ (2023年3月現在)

- ① 収蔵作家：244名 (国内作家124名、海外作家120名)
- ② 総点数：17,660点
- ③ 2022年4月～2023年3月の受入れ状況：

<日本>	
・葛西 薫	19点
・横尾 忠則	76点
・若尾 真一郎	64点
<hr/>	
計	159点

◆アーカイブ作品貸出

- ① 多摩美術大学 アートテーク
永原康史退職展
「よむかたち デジタルとフィジカルをつなぐメディアデザインの実践」
2022年6月10日～6月25日
藤本 由紀夫 + 永原 康史 作品 1点
- ② 喜多方市美術館
「グラフィック・アート&ポスター展
コレクションを中心に」
2022年10月15日～11月13日
ジョセフ・アルバーズ 作品 2点
- ③ サンシャインシティ・ソラリウム、西武池袋本店
街中まるごとデザインミュージアムー池袋
2022年11月1日～11月6日
所蔵作家20名の作品 22点

◆ Poster Archives (as of March 2023)

- ① Artists represented: 244
(124 domestic, 120 from overseas)
- ② Items in collection: 17,660
- ③ Items received between April 2022 and March 2023

< Japan >	
・ Kaoru Kasai	19
・ Tadanori Yokoo	76
・ Shinichiro Wakao	64
<hr/>	
Total	159

◆ Loans of Archived Works

- ① FORM to READ
Media design practice bridging the digital and physical
Exhibition at Tama Art University Art-Theque Gallery
June 10 – 25, 2022
1 Yukio Fujimoto and Yasuhito Nagahara work
- ② Graphic Art & Posters Exhibition – Focus on Collection
Exhibition at Kitakata City Museum of Art
October 15 – November 13, 2022
2 Josef Albers works
- ③ Whole Town – Design Museum – Ikebukuro
Exhibition at Sunshine City Solarium and Seibu Ikebukuro
November 1 – 6, 2022
22 works by 20 designers from the Archives

国際交流事業

International Exchange

The Animals' Conference – Japanese Graphic Design The Japan Cultural Institute in Rome

May 22 – July 29, 2022

動物会議ポスター展 — 日本のグラフィックデザイン 国際交流基金ローマ日本文化会館



photograph by Yuki Seri

国際交流基金ローマ日本文化会館から「動物」をテーマとする企画展のご提案をいただいた。キュレーターのミラノ大学東アジア美術史准教授のロッセッラ・メネガッツォ氏とgggの北沢永志が会話の中で、ドイツの作家エーリッヒ・ケストナーの「動物会議」(1949年)にインスピレーションを受けて「動物会議」展の開催に繋がった。日本のグラフィックデザイナーが「動物」に焦点を当て、生命、環境、戦争、文化、社会に対する問題意識や危機意識を、グラフィックアートを通して表現したメッセージ性のある作品たちを選定。動物の表現方法は、写真、絵画、イラストレーション、グラフィックなどさまざま存在し、日本は古くは花鳥画、琳派、浮世絵などを彩ってきた。ローマ日本文化会館では、未来の人間と動物たちの「平和と共生」を祈願し、グラフィックデザイナーが手が

けたポスター作品を「文化」、「社会」、「環境」、「企業と施設」の4セクションに分類し、全103点を展示。また本展は、企画コンセプトに強く感銘を受けたバリ日本文化会館に於いても2023年1月から3月、グラフィックデザイナー19名の32点の作品を巡回開催した。人間たちが巻き起こす戦争や、気候変動などのさまざまな社会問題に対して、動物たちは、我々人間が見失っている大切なことを知らせてくれる展覧会となった。

* 2023年2月にgggに於いても「動物会議」展開催。

主催：国際交流基金ローマ日本文化会館

共催：公益財団法人DNP文化振興財団

キュレーション：

ロッセッラ・メネガッツォ氏(ミラノ大学准教授)、
北沢永志(DNP文化振興財団)

入場者数：約1,500名

講演会登壇者：

ロッセッラ・メネガッツォ氏(ミラノ大学准教授)、
北沢永志(DNP文化振興財団) *オンライン講演

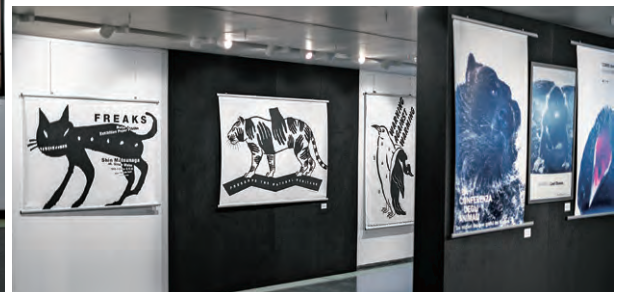
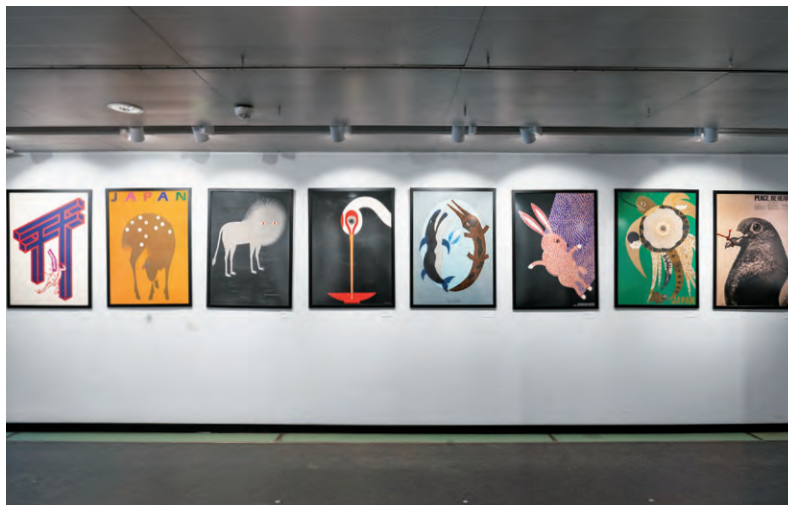
主催：国際交流基金バリ日本文化会館

入場者数：26,751名

Tour: The Animals' Conference – Animal Worlds in Japanese Graphic Design The Japan Cultural Institute in Paris

January 24 – March 25, 2023

巡回：動物会議 — 日本のグラフィックデザインに見る動物の世界 国際交流基金パリ日本文化会館



©Maison de la culture du Japon à Paris

We received a proposal from The Japan Cultural Institute in Rome to hold an exhibition on the theme of "animals." Out of discussions between curator Rossella Menegazzo, Associate Professor of East Asian art history at the University of Milan and ggg's Eishi Kitazawa, the idea emerged to mount an exhibition titled *The Animals' Conference*, inspired by the children's book of that name by the German author Erich Kästner published in 1949. Works for display at the show were selected from among posters by Japanese graphic designers which focus on animals – posters which, through their graphic art, convey strong messages raising awareness of issues and crises impacting life, the environment, war, culture and society. Animals can be portrayed using a variety of methods: photography, painting, illustration, graphics, etc. In Japan, from early times animals featured prominently, for example, in *kacho-*

ga (flower-and-bird paintings), artworks by the Rimpa school, and *ukiyo-e*. The show at The Japan Cultural Institute in Rome was held in a prayer for "peace and coexistence" between humanity of the future and the animal kingdom. A total of 103 posters by graphic designers were displayed, divided into four sections respectively on the themes of culture, society, environment, and the business community and facilities. In January to March 2023, the exhibition traveled to The Japan Cultural Institute in Paris, where the organizer had been deeply impressed by the show's underlying concept. At that venue, 32 posters by 19 graphic designers were displayed. *The Animals' Conference* was an exhibition in which animals teach us things of importance that we humans have lost sight of amid the various social issues we confront, including wars of our own making and climate change.

*Note: *The Animals' Conference* was also mounted at ggg in February-March 2023.

Organizer: The Japan Cultural Institute in Rome
Co-organizer: DNP Foundation for Cultural Promotion
Curation: Rossella Menegazzo (Associate Professor, University of Milan) and Eishi Kitazawa (DNP Foundation for Cultural Promotion)
Number of visitors: approx. 1,500
Speakers: Rossella Menegazzo, Eishi Kitazawa

Organizer: The Japan Cultural Institute in Paris
Number of visitors: 26,751

Tour: Japanese Sports Posters – 50 Years of Japanese Graphic Design

The Japan Cultural Institute in Paris

September 1 – October 8, 2022

巡回：スポーツ・ポスター展 — 日本のグラフィックデザイン50年 国際交流基金パリ日本文化会館

コロナ禍の真ただ中の2020年、gggの北沢永志によるオンライン講演会「動きの感覚を呼び起こす：日本のグラフィックデザイナーとスポーツ・ポスター」が契機となり、2021年シドニー日本文化センターからスタートした「動きの感覚－日本のスポーツ・ポスター」展がパリ日本文化会館にて巡回開催。現役で活躍中の若手からグラフィックデザイン黎明期を牽引した巨匠など、日本を代表するグラフィックデザイナー9名（青葉益輝、浅葉克己、上西祐理、葛西薫、亀倉雄策、佐藤卓、田中一光、福田繁雄、横尾忠則）によるスポーツに関するポスター24点を会場のメインともなるエントランスギャラリーに展示。9月22日には関連イベントとして、gggで2014年に展覧会を開催したミシェル・ブーヴェ氏と、美術史を専門とするフランス・エシロルにあるグラフィックアートセンター創設者のディエゴ・ザカリア氏の講演会「日本のグラフィックデザインとモダニティ」が開催され、戦後から現代に至るまでの日本のグラフィックデザインの歴史とモダニティの追求に焦点を当てながら、現代日本の代表的なデザイナーたちのオリジナリティを多数の作品を紹介しながら読み解いた。

主催：国際交流基金/パリ日本文化会館

共催：公益財団法人DNP文化振興財団

入場者数：15,488名

講演会登壇者：

ミシェル・ブーヴェ氏（グラフィックデザイナー）

ディエゴ・ザカリア氏（美術史家、グラフィックアートセンターの創設者）

*本展は2023年4月に

国際交流基金トロント日本文化センターにて巡回開催。

In 2020, amid the Covid-19 pandemic, ggg's Eishi Kitazawa presented an online lecture titled "Conjuring a Sense of Movement – Japanese Graphic Designers & Sports Posters." His talk became the inspiration behind the exhibition *A Sense of Movement: Japanese Sports Posters* held at The Japan Foundation, Sydney in 2021, which subsequently traveled to France, under a new title, at The Japan Cultural Institute in Paris. Here, the Entrance Gallery served as the venue for a display of 24 posters relating to sports created by nine of Japan's most renowned graphic designers, from young professionals currently active in the field to great masters from the early days of graphic design in Japan: Masuteru Aoba, Katsumi Asaba, Shigeo Fukuda, Yusaku Kamekura, Kaoru Kasai, Taku Satoh, Ikko Tanaka, Yuri Uenishi, and Tadanori Yokoo. In conjunction with the exhibition, on September 22 a talk event titled "Graphisme japonais et modernité" took place featuring Michel Bouvet, who held a solo exhibition at ggg in 2014, and art historian Diego Zaccaria, founder of Centre du Graphisme in Échirolles, France. Focusing on the history of Japanese graphic design from the postwar period up to the present and the concept of "modernity," they introduced and analyzed many examples redolent of the originality of representative contemporary Japanese designers.

Organizer: The Japan Cultural Institute in Paris

Co-organizer: DNP Foundation for Cultural Promotion

Number of visitors: 15,488

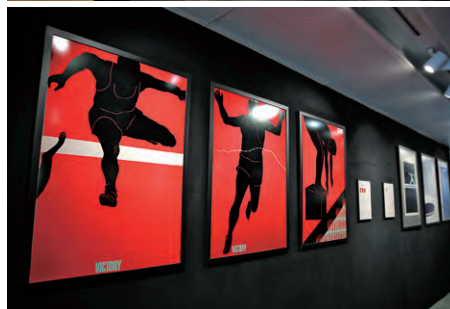
Speakers:

Michel Bouvet (graphic designer),

Diego Zaccaria (art historian, founder of Centre du Graphisme)

*This exhibition also holds at

The Japan Foundation, Toronto starting April 2023.



©Maison de la culture du Japon à Paris / Hiroyuki Sawada

The Design of Food – Posters from the Collection of the DNP Foundation for Cultural Promotion The Japan Cultural Institute in Cologne

January 13 – April 15, 2023

食のデザイン — DNP文化振興財団所蔵ポスター展 国際交流基金ケルン日本文化会館

2020年にCCGA現代アートグラフィックセンター、及び京都dddギャラリーにて開催した「食のグラフィックデザイン」展をベースとした海外巡回展。本展では、20名以上のグラフィックデザイナーによって1957年から2016年にかけて制作されたポスター作品50点を展示した。デザイナー達が「食」をテーマとして、社会問題や生活全体に対するイメージを独創的な手法で表現した作品の数々を「食材のハーモニー」「飲物の図像」「愉しみの食」「食の風景」「モチーフとしての食」の5つのセクションに分けて展示し、現代の人間と食の複雑な相互関係を探った。会期初日にはドイツ・ポスター美術館館長のルネ・グローナート氏を迎え、日本のグラフィックデザインの変遷を辿った上で今回の展示へとつながる内容の講演会を実施。また本展に併せて日本の食文化を紹介する関連イベントも開催し、入館者の興味をさらに沸き立たせる展覧会となった。

主催：国際交流基金ケルン日本文化会館

共催：公益財団法人DNP文化振興財団

イベント：講演会

入場者数：3,553名

講演会登壇者：ルネ・グローナート氏

(Folkwang Museum 内ドイツ・ポスター美術館館長)

This exhibition was based on the *Graphic Design of Food* exhibition held at the Center for Contemporary Graphic Art (CCGA) and Kyoto ddd gallery in 2020. It featured 50 posters created by more than 20 graphic designers between 1957 and 2016 on the theme of "food," each employing an original approach to graphically address food-related social issues or how food impacts our lives as a whole. The display was divided into five sections: "Harmony of Food Ingredients," "Beverage Iconography," "Food for Pleasure," "Food Landscapes" and "Food as Motif." The aim was to probe the complex interdependent relationships between contemporary humanity and food. On the opening day of the exhibition, René Grohnert, director of the German Poster Museum, gave a presentation reviewing the history of graphic design in Japan and then segueing into a discussion of the works on display. In tandem with the exhibition, an event introducing food culture also took place, adding further to the excitement of the visitors.

Organizer: The Japan Cultural Institute in Cologne

Co-organizer: DNP Foundation for Cultural Promotion

Number of visitors: 3,553

Auxiliary event: Lecture by René Grohnert

(German Poster Museum, Museum Folkwang)

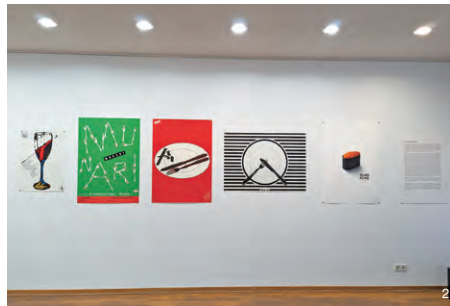


Photo 1, 3, 4, 6: ©june ueno

Support of Kazumasa Nagai: From Now to Eternity Exhibition K11 MUSEA, Hong Kong, China

September 30 – October 12, 2022

企画展「永井一正：永遠への軌跡」協力 K11 MUSEA (香港)

アラン・チャン氏の熱心な働きかけにより、最先端の芸術や文化の発信地として、アート関連の企画展やイベントを開催してきたK11 MUSEAにて、今回、はじめてグラフィックデザイナーの個展を開催する運びとなった。K11主宰側にとってもチャレンジングな試みとなったが、想定以上の反響があり、子供から感度の高い若者たちまで、幅広い層に永井一正作品の魅力を体験してもらうことができた。

4つの章から構成された会場には、代表的なポスター100点、エッチング原画9点、作品集などの関連書籍と合わせて、チャン氏が監修した、いきものたちの立体作品も登場。また、永井作品の線画を用いた塗り絵コンクールや、ギャラリーツアーなどのイベントも積極的に開催され、作品世界への理解を深めるのに一翼を担った。

主催: アラン・チャン デザインカンパニー

協力: 公益財団法人DNP文化振興財団、

K11, the house of D&A

入館者数: 9,220名

イベント:

- ① オープニングセレモニー (来賓180名)
- ② キュレーターによるギャラリーツアー (20回/各回30名)
- ③ 永井一正作品の線画を用いた塗り絵コンクール
- ④ 永井一正作品を用いたスタンプアート制作コーナー

With the eager backing of Alan Chan, the very first solo exhibition of works by graphic designer Kazumasa Nagai took place in Hong Kong at K11 MUSEA, a venue known for hosting art-related exhibitions and events, especially those representing the vanguard in arts and culture. Holding a show on this scale presented a challenge even for K11, but it generated a response well beyond expectation. A broad spectrum of visitors, especially young children and young adults, were able to experience the charming appeal of Kazumasa Nagai's works first-hand.

Presented in four "chapters," the exhibition showcased 100 of Nagai's representative posters, 9 etchings, collections of his works and other related books. In tandem with this event, a series of art figures of some of Nagai's animal creations, supervised by Alan Chan, was also launched, and a coloring contest using line drawings of Nagai's works and gallery tours were also held. Together, these events helped to enhance visitors' understanding of Kazumasa Nagai's unique graphic world.

Organizer: Alan Chan Design Company

Cooperation: DNP Foundation for Cultural Promotion,

K11, the house of D&A

Number of visitors: 9,220

Auxiliary events:

1. Opening ceremony (180 guests)
2. Curator's gallery tours (20 tours, 30 persons per tour)
3. Coloring contest using Kazumasa Nagai's line drawings
4. Stamp art production area using Kazumasa Nagai's works



AGI Congress Trieste 2022

September 18 – 23, 2022 (AGI Open Sep 20 and 22)

AGI総会トリエステ2022

AGI (国際グラフィック連盟) 会員が集結する年に1度の総会が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2年連続中止となった。総会第1回目は、1951年にパリで開催されたが、その後、2年連続総会がなかったのは、AGI設立から70年の歴史上で今回ははじめてのこととなった。

本年も、まだ状況が落ち着いたとは言えないが、執行委員とイタリア会員たちとの間で協議を重ねられ、最終的に開催に踏み切ることとなった。日本は、まだヨーロッパほど規制が緩んでいなかったこともあり、日本会員の参加はかなわなかったが、ヨーロッパ近隣の会員を中心に想定より多くの方が集結し、例年と変わらないほど賑やかな総会となった。

開催地のトリエステは、アドリア海に面した歴史的にも重要な港湾都市で、オーストリアの影響を色濃く残す文化的な街。総会初日は、1930年代に建設されたモダンな入浴施設 the Ausonia bathing establishmentの屋上に集結、海に沈む夕日を眺めながらの幕開けとなった。ブルーノ・ムナリはじめ、歴代イタリア会員の作品を集めた展覧会や、活版印刷博物館 ティポテカへの遠征ツアーなどが催され、イタリアのグラフィックデザインの文化的背景を知る貴重な機会となった。

The annual meeting of members of Alliance Graphique Internationale (AGI) took place in Trieste, Italy, after a hiatus of three years amid the pandemic. Cancellation in two consecutive years (2020 and 2021) was unprecedented in the 70-year history of the AGI Congress, which traces back to the first Congress held in Paris in 1951.

Although the pandemic situation was still unsettled, the decision to hold the 2022 Congress was taken after robust discussions by the AGI Executive Committee and the Italian AGI members. The Japanese members refrained from attending, however, as pandemic-related restrictions had not been eased in Japan to the extent seen in Europe. An unexpectedly large number of participants gathered for the event nonetheless, mainly from nearby countries in Europe, resulting in a congress as lively and bustling as always.

Trieste is a port city on the Adriatic Sea coast of great historic importance, a culturally rich city retaining Austrian influences. On the opening day, the participants gathered at the Ausonia bathing establishment, a modern edifice constructed in the 1930s, and watched the sun set into the sea. The Congress also provided a precious occasion for the participants to get a feel for the cultural background behind Italian graphic design, mainly through an exhibition of works by notable Italian AGI members including Bruno Munari, and an excursion to the Tipoteca type and printing museum.



研究助成事業

Research Grants

Graphic Culture Research Grants

グラフィック文化に関する学術研究助成

2022年度、DNP文化振興財団グラフィック文化に関する学術研究助成は、国内55件、海外4件、計59件の応募があった。

審査は例年どおり、書類審査で行う一次審査と審査委員が一堂に会する二次審査の二段階で行った。討議の結果、グラフィックに関わる幅広いテーマを対象とするA部門で8件、アーカイブをテーマとするB部門で4件、計12件を本年度の新規採択研究に選出した。また、2021年度採択研究のうち継続助成希望のあった11件については、中間報告書にもとづく書類審査の結果、継続助成が承認された。

採択された研究者の皆さまには、研究が充実したものとなり、有意義な成果の発表を聞けることを期待している。

2022年度募集要項

- A部門 グラフィックデザイン、グラフィックアート全般をテーマとする学術研究
- B部門 グラフィック文化に関するアーカイブをテーマとする研究
- 助成対象 大学、美術館等の研究機関に所属する研究者（大学院修士課程在籍者以上、またはそれに準じる研究実績のある者（大学教授または美術館館長の推薦のある者）
- 助成金額 1件につき上限50万円
- 助成期間 2023年1月1日～2023年12月31日まで（1回を限度に次年度に継続研究が可）
- 申請方法 所定様式の申請書を郵送とメール
- 申請期間 2022年4月1日～2022年6月17日まで



In 2022, a total of 59 applications were received for the DNP Foundation for Cultural Promotion's Research Grants: 55 from within Japan and 4 from overseas. As in previous years, the screening took place in two stages: an initial review of the application documents, followed by a session attended by all Screening Committee members. After discussions, a total of 12 new research projects were selected for funding: 8 in Category A (research on graphic design or graphic art in general) and 4 in Category B (research on graphic culture-related archives). In addition, 11 projects selected in 2021 were approved for continued support, based on evaluation of the recipients' interim reports.

We wish the selected grant recipients success in carrying out their projects, and we look forward to hearing their reports on their significant results.

Overview of the 2022 Grant Program

- Category A Research on graphic design or graphic art in general
- Category B Research on graphic culture-related archives
- Eligibility Scholars affiliated with research institutions (universities, art museums, etc.) or individuals having corresponding research credentials
- Grant amount Maximum 500,000 yen
- Grant period January 1, 2023, to December 31, 2023. (Grants are awarded on an annual basis, with extension for a second year possible, but one time only.)
- Application method Designated application form, to be submitted by regular post and e-mail.
- Application period April 1, 2022, to June 17, 2022

応募件数

	国内	海外	計
A部門	43	3	46
B部門	12	1	13
計	55	4	59

Number of Applications

	Japan	Overseas	Total
Category A	43	3	46
Category B	12	1	13
Total	55	4	59

2022年度 採択研究 (12件)

部門	テーマ	代表研究者	所属・職名	助成額
A	記念用プリント・テキスタイルにみる近代：国民国家・伝統・エスニシティの表象	門田 園子	お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所 特別研究員	500,000円
A	戦前期日本のポスター史、デザイン文化史	田島 奈都子	青梅市立美術館 学芸員	499,200円
A	スイスにおけるタイプライター用活字の製造史	ソフィー・ヴィートリスバッハ	ローザンヌ州立美術学校 助手	500,000円
A	ポスタルメディアにみる女子スポーツの身体表象： 戦前期日本の運動会を中心として	崎田 嘉寛	北海道大学 大学院 教育学研究院 准教授	450,000円
A	教育者としての上野リッチー戦後デザインへの影響―	牧田 久美	京都市立芸術大学 芸術資源研究センター 客員研究員	400,000円
A	監視記録社会におけるストリートスナップの現状と表現可能性	遠藤 祐輔	大阪大学 大学院 言語文化研究科 博士前期課程	250,000円
A	工場と芸術――戦後日本社会における絵画と生の近接性	鯖江 秀樹	京都精華大学 准教授	460,000円
A	「原爆の図」をめぐるグラフィック文化／1950年代木版画作品について	後藤 秀聖	公益財団法人 原爆の図丸木美術館 学芸員	400,000円
B	「アノニマスな記録」としての写真： 1960年代後半から70年代前半 日本における写真のリアリズムについて	久後 香純	ニューヨーク州立ビンガムトン大学 博士課程大学院生	400,000円
B	国内の地域映像アーカイブが所蔵するノンフィルム資料の概要調査	石原 香絵	NPO法人 映画保存協会 代表	500,000円
B	デジタル時代におけるキリシタン版： デジタル手法による「キリシタン版」探索の可能性と限界に関する考察	モリス ジェームズ・ハリー	早稲田大学 准教授	481,000円
B	復興する東北沿岸部で行われたリフォトグラフィー・プロジェクトのアーカイブ	マクラウド ギャリー	筑波大学 准教授	400,000円

2022 Selected Research Topics

Cat.	Research Topic	Applicant	Affiliated Institution	Grant Amount (JPY)
A	Modernity in Commemorative Printed Textiles: Representations of Nation-States, Traditions, and Ethnicity	Sonoko MONDEN	Institute for Global Leadership, Ochanomizu University	500,000
A	History of Posters and Cultural History of Design in Prewar Japan	Natsuko TAJIMA	Ome Municipal Museum of Art	499,200
A	The Manufacture of Type for Typewriters in Switzerland	Sophie WIETLISBACH	ECAL/University of Art and Design, Lausanne	500,000
A	Postal Media's Representation of the Sporting Female Body at Athletic Meet in Prewar Japan	Yoshihiro SAKITA	Faculty of Education, Hokkaido University	450,000
A	Felice Rix-Ueno as an educator and her influence on the Japanese postwar design	Hisami MAKITA	Archival Research Center, Kyoto City University of Arts	400,000
A	The Current State and Expressive Potential of Street Photography in a Surveillance-Recording Society	Yuseke ENDO	Graduate School of Language and Culture, Osaka University	250,000
A	Expression in the Plant: Juxtaposition of Art with Life in Postwar Japan	Hideki SABAE	Kyoto Seika University	460,000
A	The Hiroshima Panels: Research on the graphic culture / With Regards the Woodcut Prints from the 1950s	Shusei GOTO	Maruki Gallery for the Hiroshima Panels	400,000
B	Photography as "Anonymous Document": The Formation of a New Realism of Photography in the Late 1960s and early 70s Japan	Kasumi KUGO	Binghamton University	400,000
B	Overview Survey of Non-film Materials Stored at Regional Film Archives in Japan	Kae ISHIHARA	Film Preservation Society, Tokyo	500,000
B	Kirishitan-ban in the Digital Age: A Study of the Opportunities and Limitations of Applying Digital Methods to Kirishitan-ban	James Harry MORRIS	Waseda University, Waseda Institute for Advanced Study	481,000
B	An archive of rephotography projects along Tohoku's recovering coast	Gary McLEOD	University of Tsukuba	400,000

2021年度 採択研究継続助成（11件）

部門	テーマ	代表研究者	所属・職名	助成額
A	日本工場の対外宣伝グラフィック雑誌『CANTON』と1939年広東における日中宣伝戦	陳 鶯	京都工芸繊維大学 研究生	400,000円
A	イタリア未来派における写真受容：写真実験「フォトディナミズム」の総体解明	角田 かるあ	慶応義塾大学大学院 後期博士課程	500,000円
A	版画とグラフィックデザインの交錯と境界：1950-70年代の日本を中心に	中尾 優衣	東京国立近代美術館 主任研究員	400,000円
A	風景論争の研究：原将人の作品と批評を中心に	佐々木 友輔	鳥取大学地域学部 講師	400,000円
A	シビ・ピネルズの編集デザインと教育活動： 20世紀米国における女性デザイナーの葛藤と超克	櫻井 かのこ	岐阜大学 大学院生	160,000円
A	国家表象としてのグラフィック： ナチ期ドイツのベルリンにおける日本の印刷文化展を中心に	江口 みなみ	筑波大学 研究員	500,000円
A	リチャード・ハミルトンのインクジェットデジタルプリントの考察： 美術作品における絵画、写真、印刷の比較検討とともに	吉村 典子	宮城学院女子大学 教授	400,000円
A	ルイス・サリヴァンの装飾における社会思想の表現— 装飾図案集とその草稿の分析を通して	倉田 慧一	東京大学 大学院博士後期課程	500,000円
B	若江漢字撮影によるヨーゼフ・ボイス・ドキュメントのアーカイブ構築と公開促進	三本松 倫代	神奈川県立近代美術館 主任学芸員	500,000円
B	松澤宥作品および所蔵資料のアーカイブ化とデジタルアーカイブ公開に関する研究	木内 真由美	長野県立美術館 主査学芸員	500,000円
B	地域資源としての「染型紙」のアーカイブ化および活用についての実践的研究— 大崎市岩出山および羽後街道沿いに現存する染型紙を対象として—	平岡 善浩	宮城大学 教授	500,000円

2022 Continuation Grants (2021 Selected Research Topics)

Cat.	Research Topic	Applicant	Affiliated Institution	Grant Amount (JPY)
A	Nihon Kobo's External Propaganda Magazine CANTON and the Sino-Japanese Propaganda War in Canton in 1939	Ying CHEN	Kyoto Institute of Technology	400,000
A	On the Reception of Photography During the Italian Futurism: Explaining the Experiment of "Fotodinamismo"	Kahlua TSUNODA	Keio University	500,000
A	Interactions and Boundaries between Prints and Graphic Design in Japan from the 1950s to the 1970s	Yui NAKAO	The National Museum of Modern Art, Tokyo	400,000
A	Landscape theory: with a focus on Hara Masato's works and criticisms	Yusuke SASAKI	Faculty of Regional Sciences, Tottori University	400,000
A	Cipe Pineles's Editorial Design and Educational Activities: Difficulty and Overcome in the Life of A Female Designer in the 20th Century United States	Kanoko SAKURAI	Gifu University	160,000
A	Graphics as a National Representation: Focusing on the Exhibition of Japanese Print Culture Held in Nazi-Era Berlin	Minami EGUCHI	University of Tsukuba	500,000
A	Richard Hamilton's Inkjet Printed Digital Works: Questioning the Distinction between Paintings, Photographs, and Prints	Noriko YOSHIMURA	Miyagigakuin Women's University	400,000
A	Expressions of Louis Sullivan's Thought in Ornament	Keiichi KURATA	The University of Tokyo	500,000
B	The Archiving of Wakae Kanji's Photographic Documentation of Joseph Beuys	Tomoyo SANBONMATSU	The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama	500,000
B	Research on the archiving and digital archiving of MatsuzawaYutaka's works and materials and making them available on the web	Mayumi KINOCHI	Nagano Prefectural Art Museum	500,000
B	Practical research on archiving and utilization of "Dyeing pattern paper" as a local resource—Target at Iwadeyama (Osaki City) and along Hago Kaido—	Yoshihiro HIRAOKA	School of Project Design, Department of Value Creating Design, Miyagi University	500,000

研究成果報告会

2022年11月2日18時～20時、研究成果報告会を開催した。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにオンラインでの開催となった。当日は、2021年末で助成期間を満了した採択研究者から5名が研究成果報告を報告し、計65名が参加した。

DNP文化振興財団学術研究助成紀要

『DNP文化振興財団学術研究助成紀要 Vol.4』はコロナ禍状況のもとで2021／22年を併合する第4集としての刊行となる。2021年末までに助成期間が終了した15名の採択研究者の成果論文を収録。また巻末特集として、DNP文化振興財団の学術研究助成審査委員会第一回から審査委員長を務め、2021年に逝去された柏木博氏と親交の深かった3名の方による追悼文を収録した。紀要は、国立国会図書館、東京文化財研究所をはじめ、全国の研究機関、大学図書館、美術館等へ献本した。

Research Results Presentations

Presentations of research results were held on November 2, 2022 (6:00-8:00 pm). To prevent the spread of COVID-19, the event was held online. Reports were made by five recipients whose grant period ended at the end of 2021. A total of 65 individuals participated.

The Bulletin of Graphic Culture Research Grants

In light of the situation presented by the COVID pandemic, Volume 4 of *The Bulletin of Graphic Culture Research Grants* incorporated data for both 2021 and 2022. It features reports by 15 recipients whose grant period finished at the end of 2021. The *Bulletin* also contains a special feature dedicated to the memory of Hiroshi Kashiwagi, who passed away in 2021 after serving as chair of the DNP Foundation for Cultural Promotion's Screening Committee continuously from the program's inception. Three individuals who had close ties with Mr. Kashiwagi contributed. The new *Bulletin* was donated to the National Diet Library, Tokyo National Research Institute for Cultural Properties, and numerous research institutions, university libraries and art museums throughout Japan.

2022-23 Financial Support Activities

2022 - 23年度助成実績

1	対象	第33回田舎顕彰版画展	Target	The 33rd Denzen Print Award Exhibition
	主催	須賀川商工会議所青年部／ 須賀川市教育委員会後援	Organizers	Sukagawa Chamber of Commerce Youth Division, Sukagawa Board of Education
	年月	2023年2月	Date	February, 2023
	金額	50,000円	Amount	JPY 50,000
	備考	須賀川出身の江戸期の銅版画家、垂欧堂田善（あおうど うでんぜん）顕彰を目的とする市内小中学生対象の版画 コンクール	Remarks	Print contest for Sukagawa elementary and junior high school students aimed at spreading recognition of copper plate print artist and Sukagawa native Aodo Denzen (1748-1822).



Review of ggg 2022-23

ggg 展覧会概要

TDC 2022

会期 = 2022年4月1日 - 30日

受賞作家 = ○グランプリ = 大西景太 ○ブックデザイン賞 = Actual Source, Davis Ngarupe & JP Haynie ○タイプデザイン賞 = Jean François Porchez ○RGB賞 = 北川一成 + Semitransparent Design ○TDC賞 = Grilli Type, Thierry Blancpain & Noël Leu, LOW sek-vai, 佐藤豊, 林規章, COLLINS, Louis Mikolay & Erik Berger Vaage ○特別賞 = 服部一成, 佐藤卓

展示概要 = 文字の視覚表現を軸にしたグラフィックデザインの国際コンペティション「東京TDC賞2022」(東京タイプディレクターズクラブ)の成果を紹介するTDC展。2021年秋の公募に寄せられた3,644点(国内1,788、海外1,856)の中から35名の選考委員による厳正な審査の結果、11の受賞作品、77のノミネート作品を含む514作品が入選。受賞作品・ノミネート作品をはじめ、世界先鋭のグラフィック約130作品を展示した。

Tokyo Type Directors Club Exhibition 2022

Dates = April 1 - 30, 2022

Award Winners = Grand Prize: Kelita Onishi. Book Design Prize: Actual Source, Davis Ngarupe & JP Haynie. Type Design Prize: Jean François Porchez. RGB Prize: Issay Kitagawa + Semitransparent Design. TDC Prize: Grilli Type, Thierry Blancpain & Noël Leu; LOW sek-vai; Yutaka Sato; Noriaki Hayashi; COLLINS, Louis Mikolay & Erik Berger Vaage. Special Prize: Kazunari Hattori; Taku Satoh. Exhibition Overview = The 2022 Tokyo TDC Exhibition introduced the results of an international graphic design competition organized by the Tokyo Type Directors Club (TDC) focused on visual representation of written language through type design and typography. The award winners were selected by a committee of 35 judges from a pool of 3,644 entries submitted starting in autumn 2021: 1,788 from within Japan and 1,856 from overseas. In the initial round of screening, a total of 514 entries were chosen. In the second round, this figure was pared down to 11 award winners and 77 prize nominations. The exhibition displayed approximately 130 works, including not only the nominated and award-winning works but also cutting-edge graphics by entrants worldwide.



Design: balmerhahlen.ch

佐藤卓TSDO展 <in LIFE>

会期 = 2022年5月16日 - 6月30日

作家略歴 = 1984年佐藤卓デザイン事務所設立。2018年TSDOに改名。「ニッカ ビュアモルト」の商品開発から始まり、「ロッテ キシリトールガム」「明治おいしい牛乳」「エスビー食品 スパイス&ハーブ」のパッケージデザイン、「PLEATS PLEASE ISSEY MIYAKE」のグラフィックデザイン、「金沢21世紀美術館」「国立科学博物館」のシンボルマークなどを手がける。そのほか、施設のサインや商品のブランディング、企業のCI、NHK Eテレの子ども向け番組制作に参加するなど、活動は多岐に渡る。「water」「縄文人展」「デザインの解剖展」「デザインあ展」「風景の科学展」など、展覧会も多数企画・開催。

展示概要 = 会場1階には2004年のggg佐藤卓展以降、佐藤氏が自発的に制作してきた作品を中心に展示。地階は佐藤氏が率いるデザイン会社「TSDO」として関わってきたデザインの仕事を展示し、今回初めてその両側面を対比させて展示した。そこに共通するキーワードは、「in LIFE」。全てあたりまえの生活の中にあるという意味を持ち、本展を通して「デザインする」ということを、日々のくらしのなかにある、身近な自分ごととして再発見いただきたいという思いを込めた展覧会となった。

Taku Satoh TSDO: in LIFE

Dates = May 16 - June 30, 2022

Artist Profile = Taku Satoh Design Office was established in 1984 and changed its name to TSDO in 2018. Its activities span a wide range that includes product development (Nikka Pure Malt), packaging design (Lotte Xylitol Gum, Meiji Oishi Gyunyu, S&B Foods Spice & Herb Seasonings), graphic design (PLEATS PLEASE ISSEY MIYAKE), and logo design (21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa; National Museum of Nature and Science, Tokyo), as well as signage, branding and corporate identity. TSDO has also been involved in the production of TV programs for children, and it has curated or organized numerous exhibitions including: *water*, *JOMONESE*, *Design Anatomy and Design Ah!*

Exhibition Overview = The ground floor of the gallery focused primarily on works produced by Taku Satoh independently since his *Plasticity* exhibition at ggg in 2004, while the basement area was dedicated to design projects he carried out through his design office TSDO. This was the first exhibition to present both of these aspects of his works in a format enabling their mutual comparison. A factor common to both is embodied in Satoh's use of the keyword "in LIFE," by which he implies that all design works, and the process of designing itself, are an integral part of our everyday lives. Through this exhibition Satoh hoped that visitors would realize anew how design is something close to us all.



Design: Taku Satoh & TSDO

Yui Takada with ori.studio CHAOTIC ORDER 高田唯 混沌とした秩序

会期 = 2022年7月11日 - 8月25日

展示デザイン = 西尾健史/DAYS.

作家略歴 = 1980年東京生まれ。桑沢デザイン研究所卒業。グラフィックデザイン部門「Allright Graphics」、活版印刷部門「Allright Printing」からなる株式会社Allright取締役。東京造形大学准教授。

展示概要 = 展覧会名 Chaotic Order (混沌とした秩序) とは、高田氏が自身の展覧会タイトルに選んだ言葉。高田氏曰く、自身の中には、混沌と秩序の両方があり、デザインに関してもいつも両極端に揺さぶられながら、その間を往来している、とのこと。従来のデザインの文脈では捉えきれない高田氏の一見無秩序にもみえるデザインは、偶然にできたものではなく、熟考・試行され、意図して作り出されたものである。本展では、高田氏が最近興味を抱いているという【風】が100張ほど夏の会場1階に舞い上がり、地階ではこれまでに手がけた仕事や活動からセレクトした作品を紹介。また北京を拠点に活動するデザインスタジオori.studioと共同制作をした作品集【AXIS】をベースとした展示を行った。一つのスタイルや考え方に捉われずに、常に新しい表現を模索している高田氏の現在点を紹介するような展覧会となった。

Yui Takada with ori.studio CHAOTIC ORDER

Dates = July 11 - August 25, 2022

Exhibition Design = Takeshi Nishio, DAYS.

Artist Profile = Graphic designer Yui Takada was born in Tokyo in 1980. He is a graduate of Kuwasawa Design School. He serves as a Director of Allright Inc., a company encompassing a graphic design section (Allright Graphics) and a letterpress printing section (Allright Printing). Takada is also an Associate Professor at Tokyo Zokei University.

Exhibition Overview = The exhibition title, *Chaotic Order*, was chosen by Takada himself. He says that chaos and order are both aspects found within him, and when designing he says he swings between these two extremes, going back and forth, and back again. Takada's design work at first glance has an air of disorder impossible to reconcile within the context of traditional design, yet what he produces comes not by accident but rather after careful consideration and trials until he arrives at the manifestation of his intent. Takada has taken an interest in kites, and the ground floor of the gallery saw some 100 of his kites floating in the air. The basement level showcased a selection of Takada's works and activities to date. The display here was based around *AXIS*, a collection of his works co-created with ori.studio of Beijing. This exhibition introduced the current point in Yui Takada's artistic journey - the journey of a designer who shuns any one particular style or approach and is always seeking new forms of expression.



Design: Yui Takada

細谷巖 突き抜ける気配

会期＝2022年9月5日－10月24日

監修・展示構成・評論＝矢萩喜徳郎

協力＝株式会社ライトパブリシティ、武蔵野美術大学 美術館・図書館

作家略歴＝1935年神奈川県生まれ。1953年神奈川県立工業高校工芸図案科卒業。同年ライトパブリシティ入社。現在取締役会長。東京アートディレクターズクラブ会長。日本グラフィックデザイン協会会員。
展覧会概要＝本展オープンの日3日前に87歳の誕生日を迎えた細谷氏。1953年にライトパブリシティに入社以降、細谷氏は第一線では日本の広告デザイン界を牽引している。本展では、細谷氏の半世紀以上前の珠玉の「デザインの遺産」、例えば、1955年の日宣美（日本宣伝美術会）展出品の鮮烈なデビュー作「Oscar Peterson Quartet」をはじめ、写真を90度回転しバイクが落下するようなスピード感を表現した「ヤマハオートバイ」ポスター（1961年）、1960年の世界デザイン会議で、国内外の建築家、デザイナーの参加者を唖みさせた、会議配布資料パンフレットの「J」、日本の伝統的な建築や風物にみられる様々な「かたち」を集めた書籍「日本のかたち」（1963年）、日本刀の刃先がアップになった緊張感あふれる「アサヒカメラ」（1962年11月号）の表紙などの代表作を呼び起こす展覧会となった。

Hosoya Gan — Beyond G

Dates = September 5 – October 24, 2022

Supervision, Curation, Critical Commentary = Kijuro Yahagi

Cooperation = Light Publicity Co., Ltd.; Musashino Art University Museum & Library

Artist Profile = Hosoya Gan was born in Kanagawa Prefecture in 1935 and graduated from Kanagawa Technical Senior High School in 1953, where he began his study of design. Upon graduation he joined Light Publicity, and today Hosoya serves as chairman of the company's Board of Directors. He is also president of the Tokyo Art Directors Club (ADC) and a member of the Japan Graphic Design Association Inc.
Exhibition Overview = This exhibition drew renewed attention to some of the many representative works that constitute Hosoya's design legacy spanning more than half a century. Highlights included: his striking debut poster, "Oscar Peterson Quartet," shown at the Japan Advertising Artists Club (JAAC) Exhibition of 1955; his "Yamaha 250" poster of 1961, in which he rotated the photograph by 90 degrees to inject a sense of speed; his editorial work for *Bi: Nature and Thought in Japanese Design*, the pamphlet for the World Design Conference of 1960 that astonished the architects and designers from around the world; *Forms in Japan* (1963), a collection of forms seen in traditional Japanese architecture and other things Japanese; and Hosoya's cover for the *Asahi Camera* (1962.11) magazine, featuring a tension-filled close-up of the tip of a Japanese sword.



Design: Kijuro Yahagi / Photo: Koichi Inakoshi
Collection of original photographs by the Japan Photographic Preservation Center

日本のアートディレクション展2022

会期＝2022年11月1日－30日

受賞作家＝○グランプリ＝大貫卓也 ○ADC会員賞＝葛西薫、三澤遥 ○原弘賞＝富田光浩＋牧野伊三夫 <以下G8にて展示>○ADC賞＝小柳祐介＋原田陽介＋田中直基＋栗田雅俊＋平井利和、関本明子＋国井美果、関本明子＋寺島響水、窪田新＋有元沙矢香、上西祐理＋中原崇志、江波戸李生＋鳥巢智行＋林田光弘、香取有美＋田中嗣久＋瀧本幹也、山本信一、篠原ともえ＋香川真知、今井祐介

展示概要＝1952年の設立以来、展覧会や年鑑の発行などを通じ、日本に「アートディレクション」という考え方を普及させる活動が続けてきた東京アートディレクターズクラブ（ADC）。今年は2021年5月から2022年6月までに発表・使用・掲載された約6,000点の応募作の中から、ADC会員による厳正な審査により、受賞作品と年鑑収録作品が選出された。本展では受賞作品と優秀作品をggg【会員作品】とG8【一般作品】の2つの会場で紹介。今年もグラフィック、広告の最高峰に輝く作品の数々が勢ぞろいした。

Art Direction Japan 2022 Exhibition

Dates = November 1 – 30, 2022

Award Winners = Grand Prize: Takuya Onuki. ADC Members Award: Kaoru Kasai, Haruka Misawa. Hara Hiromu Award: Mitsuhiro Tomita + Isao Makino. ADC Award (shown at Creation Gallery G8): Yusuke Koyanagi + Yosuke Harada + Naoki Tanaka + Masatoshi Kurita + Toshikazu Hirai; Akiko Sekimoto + Mika Kunii; Akiko Sekimoto + Kyosui Terashima; Arata Kubota + Sayaka Arimoto; Yuri Uenishi + Takashi Nakahara; Rio Ebato + Tomoyuki Torisu + Mitsuhiro Hayashida; Yumi Katori + Tsugihisa Tanaka + Mikiya Takimoto; Shinichi Yamamoto; Tomoe Shinohara + Machi Kagawa; Yusuke Imai
Exhibition Overview = Since its establishment in 1952, the Tokyo Art Directors Club (ADC) has continuously undertaken activities to promote the concept of "art direction" in Japan, through exhibitions, publication of a yearbook, etc. The ADC's 2022 exhibition featured award-winning and other outstanding works selected for inclusion in the yearbook after rigorous screening by ADC members from among near 6,000 entries, works that either debuted, were used, or were published between May 2021 and June 2022. There were two venues: ggg showing works by ADC members, and Creation Gallery G8 displaying works by non-members. As every year, the 2022 exhibition brought together a host of the year's supreme creations in graphic design and advertising.



宇野亞喜良 万華鏡

会期＝2022年12月9日－2023年1月31日

協力＝刈谷市美術館、株式会社アートスペース、大日本印刷株式会社

展示構成・評論＝矢萩喜徳郎

特殊印刷設計＝津田淳子

印刷設計＝大日本印刷株式会社 出版イノベーション事業部 ブッククリエイティブ推進室

作家略歴＝1934年名古屋生まれ。名古屋市立工業高校図案科卒業。カルピス食品工業、日本デザインセンター、スタジオ・イルフィルを経てフリー。日宣美特選、日宣美会員賞、講談社出版文化賞さしえ賞、サンリオ美術賞、赤い鳥挿絵賞、日本絵本賞、全広連日本宣伝賞山名賞、読売演劇大賞選考委員特別賞等を受賞。1999年紫綬褒章。2010年旭日小綬章受章。
展示概要＝2022年に米寿を迎えた宇野氏。イラストレーター、グラフィックデザイナーとして1950年代から半世紀以上にわたり、「黄金の左腕」を武器に、常に時代の第一線で活躍してきた。本展1階では俳句と少女をテーマにした作品シリーズ約20点を、津田淳子氏による特殊印刷設計によって、異なる表現方法を試み、新たな作品に蘇らせた。地階では刈谷市美術館のご協力の下、今回の新作の原点となる1960年代のポスター約50点を一堂に展示。最新作と初期作品とのシンクロニシティの場と化した展覧会となった。

Aquirax Uno Kaleidoscope

Dates = December 9, 2022 – January 31, 2023

Cooperation = Kariya City Art Museum; Art Space Co., Ltd.; Dai Nippon Printing Co., Ltd.
Curation, Critical Commentary = Kijuro Yahagi
Special Printing Design = Junko Tsuda
Printing Design = Dai Nippon Printing Co., Ltd.
Publishing Innovation Operations, Book Creative Promotion Division

Artist Profile = Aquirax Uno was born in Nagoya in 1934. He graduated from Nagoya City Industrial Arts High School, where he studied design. After working for Calpis Co., Ltd., Nippon Design Center, and Studio Ilfil, Uno went freelance. Among the many accolades he has received are the JAAC Members Award, Sanrio Art Award, and Akai Tori Illustration Award. In 1999, Uno received a Medal of Honor with Purple Ribbon, and in 2010 he was awarded the Order of the Rising Sun, Gold Rays with Rosette.
Exhibition Overview = In this exhibition, the gallery's ground floor showcased some 20 of Uno's original works thematically dealing with young girls and haiku. These works were given new life through application of a special printing technique to achieve a mode of expression different from Uno's original approach. The lower level of the gallery featured an impressive collection of roughly 50 posters from the 1960s which were the starting point for Uno's new works. This part of the exhibition was made possible with cooperation from the Kariya City Art Museum.



Design: Idea Oshima / Illustration: Aquirax Uno

動物会議 緊急大集合！ DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵作品より

会期＝2023年2月9日－3月25日

監修＝永井一正

展示作家＝青葉益輝、浅葉克己、粟津潔、井上嗣也、奥村頼正、葛西薫、亀倉雄策、河口洋一郎、木村恒久、K2（長友啓典＋黒田征太郎）、河野鷹思、小島良平、佐藤晃一、佐藤卓、U.G.サトー、佐野研二郎、新村則人、田名網敬一、田中一光、戸田正寿、永井一史、永井一正、永井裕明、中村至男、野田田、服部一成、早川良雄、原研哉、福島治、福田繁雄、細谷巖、松井桂三、松永真、矢萩喜徳郎、横尾忠則、和田誠

展示概要＝本展は、人間たちが世界平和について話し合う国際会議がまったく進まず、争いをやめぬことに業を煮やした動物たちが、子どもたちのために「動物会議」を開くドイツの作家エーリッヒ・ケストナーの『動物会議』（1949年）にインスピレーションを受けて企画された。DNPグラフィックデザイン・アーカイブから、「人間と動物との共存と平和」というケストナーの熱い想いを体現しているポスター約120点が銀座に緊急大集合、日本のグラフィックデザイナーたちが「動物」に焦点を当て、生命、環境、戦争、文化、社会に対する問題・危機意識を、グラフィックアートを通して表現したメッセージ性のある展覧会となった。

Urgent!! The Animals' Conference From the DNP Graphic Design Archives Collection

Dates = February 9 – March 25, 2023

Adviser = Kazumasa Nagai

Exhibitors = Masuteru Aoba, Katsumi Asaba, Kiyoshi Awazu, Shigeo Fukuda, Osamu Fukushima, Kenya Hara, Kazunari Hattori, Yoshio Hayakawa, Gan Hosoya, Tsuguyuki Inoue, K2 (Keisuke Nagatomo + Seitaro Kuroda), Yusaku Kamekura, Kaoru Kasai, Yoichiro Kawaguchi, Tsunehisa Kimura, Ryohei Kojima, Takashi Kono, Keizo Matsui, Shin Matsunaga, Hiroaki Nagai, Kazufumi Nagai, Kazumasa Nagai, Norio Nakamura, Nagi Noda, Yukimasa Okumura, Kenjiro Sano, Koichi Sato, U.G. Sato, Taku Satoh, Norito Shinmura, Keiichi Tanaami, Ikko Tanaka, Seiji Toda, Makoto Wada, Kijuro Yahagi, Tadanori Yokoo

Exhibition Overview = This exhibition was inspired by *The Animals' Conference*, a children's story originally published in German in 1949, by the German writer Erich Kästner. In it the animals of the world hold a conference to express their frustration at human beings' unending pursuit of war and the complete lack of progress of international gatherings to discuss world peace. Over 120 posters that embody Kästner's passion were selected from the DNP Graphic Design Archives. In these works, Japan's graphic designers placed animals in the leading role to heighten awareness toward problems and crises relating to life, the environment, war, culture and society. Through graphic art, the exhibition thus conveyed vital messages of critical urgency.



Design: Kazumasa Nagai

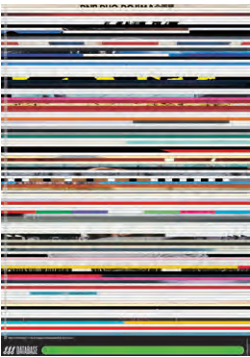
ddd 展覧会概要

ddd DATABASE 1991-2022

会期＝2022年7月23日－9月25日
キュレーション＝後藤哲也
展示デザイン＝NO ARCHITECTS
ウェブサイト＝萩原俊矢（デザイン）、
野見山桜（編集）
協力＝近藤聡、後藤哲也、ニコール・シュミット、
杉崎真之助、高橋善丸、堤拓也、服部滋樹、原田
祐馬、廣田碧、松井桂三、三重野龍、三木健
展示概要＝1991年に大阪・堂島でその活動をス
タートさせたdddギャラリーは、その後なんば、
京都・太秦で関西唯一のグラフィックデザイン・
ギャラリーとして30年間活動。そして2022年7
月、京都・烏丸にあるCOCON烏丸に拠点を移し
た。移転後初の展覧会は、これまでの展覧会をデ
ータベースとして活用する「ddd DATABASE」。
過去の全231回の展覧会を網羅するウェブサイ
ト＝オンラインと、広報物（ポスター、チラシ）
によってそれを立体化した展示空間＝オフライン
に、dddの展覧会に関係した関西のデザイナ
ーたちによるキーワードを補助線にして、過去の
リソースをこれからのグラフィックデザインに活
用するための場をつくり展覧した。

ddd DATABASE 1991-2022

Dates = July 23 – September 25, 2022
Curator = Tetsuya Goto
Exhibition Design = NO ARCHITECTS
Website = Shunya Hagiwara (Design), Sakura
Nomiya (Editor)
Support = Tetsuya Goto, Yuma Harada, Shigeki
Hattori, Midori Hirota, Satoshi Kondo, Keizo
Matsui, Ryo Mieno, Ken Miki, Nicole Schmid,
Shinnosuke Sugisaki, Yoshimaru Takahashi,
Takuya Tsutsumi
Exhibition Overview = Since its establishment in
Dojima, Osaka in 1991, ddd gallery has served for
more than 30 years as the Kansai region's only
graphic design gallery. Following relocations first to
Namba, Osaka and then to Uzumasa, Kyoto, in July
2022 the gallery moved to a new location within
Kyoto, the COCON KARASUMA commercial com-
plex. This first exhibition following that move, titled
ddd DATABASE 1991-2022, drew upon all 231 of
the gallery's previous exhibitions. Centering on a web-
site incorporating information on those exhibitions (=
online) and augmented by an exhibition space that
featured publicity materials (posters, leaflets) in a
three-dimensional way (= offline), ddd DATABASE
1991-2022 further highlighted Kansai-based design-
ers who have been involved with the gallery's past
exhibitions. The exhibition thus offered visitors a look
at this new location where past resources can be
used to influence graphic design of the future.



Design: Tetsuya Goto & Shunya Hagiwara

FormSWISS (フォーム・スイス)

会期＝2022年10月5日－11月20日
共催＝& Form LLC
展示設計＝中村竜治建築設計事務所
展示グラフィック／レイアウト＝& Form
出展作家＝アルフィオ・マッツェイ、バルマー・ヘ
レン、CCRZ、ローザンヌ州立美術大学 (ECAL)、
フートゥル・ノイエ、ギャヴィエ&シ、フーベルト
ス・デザイン、ヤヌッチ・スミス、キャスパー・フ
ロリオ、ノッテル&ヴィーニユ、シモーネ、カヴ
ァディーニ、スタジオ・フェイクセン、スーペロ、
スイス・タイプフェイスズ、チューリッヒ芸術大
学 (ZHdK)
展示概要＝スイスは、戦後の世界のグラフィック
デザインに大きな影響を及ぼしたスイススタイル
をはじめ、ファッションやプロダクトでも数々の
有名ブランドを擁するデザイン大国の1つ。多様
なスイスデザインがどのような教育やライフス
タイル、価値観から生み出されたのか、そしてど
こに向かおうとしているのか。デザインスタジオ&
Form主宰の丸山新氏が実際にスイスのデザイナ
ーや大学、美術館を訪問してリサーチした成果を
展覧。また、会期中にddd近隣のGallery SUGATA
でも展覧会やトークイベントが開催された。

FormSWISS

Dates = October 5 – November 20, 2022
Co-organizer = &Form LLC
Exhibition Design = Ryuji Nakamura and Associ-
ates
Exhibition Graphics / Layout = &Form
Featured Artists = Alfio Mazzei, Balmer Hählen,
CCRZ, ECAL, Futur Neue, Gavillet & Cie, Hubertus
Design, Jannuzzi Smith, Kasper-Florio, Notter+
Vigne, Simone Cavadini, Studio Feixen, SUPERO,
Swiss Typefaces, Zurich University of the Arts
(ZHdK)
Exhibition Overview = Switzerland is one of the
world's foremost countries in the realm of design.
"Swiss Style" had a significant influence on graphic
design worldwide in the postwar era, and numer-
ous well-known fashion and product brands
emerged from Switzerland. To learn how the coun-
try's diverse designs emanated from Swiss educa-
tion, lifestyles and values, and to probe where
Swiss design is heading today, Arata Maruyama,
founder and principal of the design studio &Form,
visited designers, universities and art museums in
Switzerland. This exhibition displayed the results of
his research. Simultaneously, a parallel exhibition
and talk event were held at Gallery SUGATA,
located near ddd.



Design: &Form

GRAPHIC CUBE — フィルムポスター
DNPグラフィックデザイン・アーカイブより

会期＝2022年11月29日－2023年1月15日
出展作家＝青木克憲、浅葉克己、粟津潔、飯島
啓司、石岡瑛子、榎本了亮、奥村毅正、葛西薫、
木村恒久、K2（長友啓典＋黒田征太郎）、サイト
ウマコト、佐藤晃一、タイクーングラフィックス、
仲條正義、日比野克彦、横尾忠則、和田誠
展示概要＝「GRAPHIC CUBE」は、DNPグラフ
ィックデザイン・アーカイブ (DGA) 収蔵のポス
ター作品をもとにしたシリーズ企画。グラフィッ
クデザインのもつ多面性を立体的になぞらせ、
グラフィックデザインと表現する対象との関係、
また対象同士の関係、見る人との関係など、さ
まざまな関係性を多角的・立体的にとらえる試
み。その初回となる本展では、DGAから、映画
のポスターを選び展示。19世紀末に映画という
新しい娯楽が誕生してから現代にいたるまで、数
えきれないほどの映画ポスターが生み出されて
きた。映画には社会や思想、嗜好など、その時
代ごとの潮流が投影されている。時間芸術・総
合芸術である映画を、どのように1枚のポスター
の上に表現しているのか、グラフィックデザイナ
ーがそれぞれに映画を咀嚼、分析し、生み出した
結晶ともいえるポスターの数々を展覧した。

GRAPHIC CUBE – FILM POSTERS
From the DNP Graphic Design Archives Collection

Dates = November 29, 2022 – January 15, 2023
Featured Artists = Katsunori Aoki, Katsumi Asaba,
Kiyoshi Awazu, Ryoichi Enomoto, Katsuhiko Hibino, Keiji
Iijima, Eiko Ishioka, K2 (Keisuke Nagatomo + Seitaro
Kuroda), Kaoru Kasai, Tsunehisa Kimura, Masayoshi
Nakajo, Yukimasa Okumura, Makoto Saito, Koichi Sato,
Tycoon Graphics, Makoto Wada, Tadanori Yokoo
Exhibition Overview = GRAPHIC CUBE is a newly
launched series of exhibitions featuring posters from the
DNP Graphic Design Archives (DGA) collection. By com-
paring the multifaceted nature of graphic design to a
cube, the GRAPHIC CUBE exhibitions will attempt to
portray diverse relationships from multiple angles and
in three dimensions: the relationship between graphic
design and its depicted objects, for example; the rela-
tionship between the objects portrayed; or the rela-
tionship between poster and viewer. For this inaugural ex-
hibition in the series, the focus was placed on film posters
in the DGA collection. In the years since the film
emerged as a new form of entertainment in the late 19th
century, countless film posters have been created. Mo-
tion pictures reflect the social, philosophical and
popular trends of each era. How have graphic designers
expressed this cinematic art, which is both temporal and
composite in nature, within the scope of a single poster?
This exhibition featured numerous examples represent-
ing crystallizations of their creator's understanding and
analysis of films.



Design: Kenta Shibano

Review of CCGA 2022

CCGA 展覧会概要

ppp groovisions

会期 = 2023年1月24日 - 3月12日

作家略歴 = 1993年京都で設立。音楽関係のステージビジュアルなどを中心に活動。1997年に拠点を東京に移動。以来、デザインスタジオとしてグラフィックとモーション・グラフィックを中心に、様々な領域、クライアントのデザインを手がけている。1994年に開発したオリジナル・キャラクター chappieは、有名企業のブランドイメージキャラクターとして活動する。

展示概要 = 活動開始から30年の節目に京都で開催する初めての展覧会「ppp」は、会場である「ddd」を逆から見た様子。彼らの多岐にわたるデザインワークを会場のどの方向、角度からでも観覧できるように配置するなど、展示自体が実験的インスタレーションとなった。彼らの方法論と独自性を体感できるユニークな本展は、デザインとアートの境界を軽々と行き来する彼らの創造スタイルを体感させるものとなった。会期中、dddとグルーヴィジョンズが選んだ商品を扱うセレクトショップ三三屋を訪れた方へオリジナルデザインカードの進呈も実施した。

ppp groovisions

Dates = January 24 - March 12, 2023

Artist Profile = Established in Kyoto in 1993, groovisions was originally active mainly in the design of stage visuals for music performances. Since relocating to Tokyo in 1997, as a design studio groovisions has expanded into diverse fields, especially graphics and motion graphics, creating designs for myriad clients. "chappie," an original character developed by groovisions in 1994, today serves as the brand mascot of various well-known companies.

Exhibition Overview = ppp groovisions, held on the 30th anniversary of the studio's founding, was groovisions' first exhibition in Kyoto. The title "ppp" represents the venue name, ddd, viewed upside down. The exhibits themselves constituted an experimental installation, with groovisions' wide-ranging design works placed to enable their viewing from any direction or angle within the gallery. As a unique exhibition where visitors could experience groovisions' methodology and originality firsthand, the show gave visitors a visceral sense of their creative style that blurs the lines between design and art. Throughout the exhibition, visitors to MIMIYA, a shop in Kyoto that carries diverse items selected by ddd and groovisions, were gifted cards of original design.



Design: groovisions

DNPグラフィックデザイン・アーカイブ 収蔵品展IX

葛西薫 POSTERS since 1973

DNP Graphic Design Archives Collection IX
KASAI KAORU POSTERS since 1973

会期 = 2022年3月1日 - 6月12日
Dates = March 1 - June 12, 2022



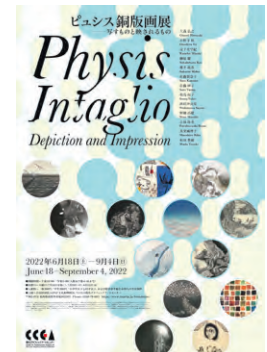
Design: Kaoru Kasai

ビュシス銅版画展

—写すものと映されるもの—

Physis Intaglio: Depiction and Impression

会期 = 2022年6月18日 - 9月4日
Dates = June 18 - September 4, 2022



タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション名品展

Masterpieces from
the Tyler Graphics Archive Collection

会期 = 2022年9月10日 - 12月18日
Dates = September 10 - December 18, 2022



1986

- 3月 1回 大橋正展 野菜のイラストレーション
4月 2回 福田繁雄展 Illustic412
5月 3回 奥村毅正展 燦々彩譜
6月 4回 秋山育展 ピクチャーレリーフ
7月 5回 1986 ADC展
8月 6回 アートワークス展Ⅰ The World is Art.
9月 7回 佐藤晃一展 箱についてー2
10月 8回 栗津潔展 エノタメノジブンカクメイ
11月 9回 追悼・ハーバート・バイヤー展
ヴィジュアル・コミュニケーションのバイオニア
12月 10回 K2 Live!展 ケイを知らずにツーといふな。

1987

- 1月 11回 いろはの絵展 辻修平と
The CA WorkshopによるCGカリグラフィ
2月 12回 花の万博十博覧会のシンボルマーク展
3月 13回 藤幡正樹展 geometric love
4月 14回 松永真 毎日デザイン賞受賞記念展
5月 15回 安西水丸 二色
6月 16回 ルウ・ドーフスマンとCBSの
クリエイティブワークス展
7月 17回 1987 ADC展
8月 18回 アートワークス展Ⅱ Rest in Peace
9月 19回 五十嵐威輔の立体数字展
10月 20回 青葉益輝プリンティングアート展 Graphically
11月 21回 オルガー・マチスのポスター展 意外性の真実
12月 22回 ミルトン・グレイザー展 イメージの魔術師

1988

- 1月 23回 木村勝パッケージングディレクション展
リングになった箱と動詞になった箱
2月 24回 谷口広樹展 猿の記憶
3月 25回 銀座百点 表紙原画展：創刊400号記念
4月 26回 吉田カツ・描き下し刷り下し展
5月 27回 AGI 88 Tokyo展
世界のグラフィックデザイン
6月 28回 イッセイ・ミヤケのポスター展 I.I.I. at GGG
7月 29回 1988 ADC展
8月 30回 アートワークス展Ⅲ Peace by Piece
9月 31回 情報ポスター・リクルート展
10月 32回 早川良雄「女」原画展
11月 33回 仲條正義展 NAKAJOISH
12月 34回 スタシスのポスターとイラストレーション展
存在の深淵に迫る東欧からのメッセージ

1989

- 1月 35回 ショッピング・バッグ・デザイン
2月 36回 矢萩喜從郎展
3月 37回 Texture 皆川魔鬼子＋田原桂一＋山岡茂
4月 38回 タナカノリユキ展 Gokan-都市の表層
5月 39回 オトル・アイヒャー展
現代哲学の先駆者 W.フォン・オッカム
6月 40回 操上和美展 Photographis
7月 41回 若尾真一郎展 Wakao Collection
8月 42回 アートワークス展Ⅳ 百花繚乱
9月 43回 永井一正展
10月 44回 Europalia '89 Japan
新作ポスター 12人展
11月 45回 チャールズ S. アンダーソン最新作品展覧会
12月 46回 清原悦志の仕事 オーマージュ

1990

- 1月 47回 秋月繁展 遊びの箱
2月 48回 菊地信義 装幀の本「棚」
3月 49回 原田維夫木版画展 馬
4月 50回 田中一光グラフィックアート植物園

- 5月 51回 山城隆一 猫のいないイラスト展
6月 52回 松井桂三3D展
7月 53回 寺門孝之展 遺伝子導入天使
8月 54回 アートワークス展Ⅴ 東京標本箱1990
9月 55回 田原桂一展 光の香り
10月 56回 浅葉克己の新作展 アジアの文字
11月 57回 伊勢亮也展 イメージのマカロニ
12月 58回 蓮田やすひろ展 ビープル

1991

- 1月 59回 舟橋全二展
2月 60回 太田徹也のダイアグラム
3月 61回 ペア・アーノルディ展
Posters, Prints and Painting
4月 62回 澤田泰廣展 P2 [Painting × Printing]
5月 63回 新井苑子展 インスピレーションを描く
6月 64回 Communication & Print
新作ポスター 10人展
7月 65回 オブジェ・ブック展
中垣信夫＋中垣デザイン事務所
8月 66回 アートワークス展Ⅵ
“Bacteriat” Messages from Dream Island
10-11月 67回 Trans-Art 91
12月 68回 1991 ADC展

1992

- 1月 69回 アイヴァン・チャマイエフ展 コラージュ
2月 70回 立花ハジメ初の個展 ape-MAN
3月 71回 第4回東京TDC展
4月 72回 ヘンリク・トマシェフスキ展
5月 73回 シーモア・クワスト展 メタル彫刻
6月 74回 鹿目尚志展 BOX・XX
7月 75回 中村誠 個展
8月 76回 リック・バリセンティ展
9月 77回 葛西薫展 ‘AERO’
10月 78回 薙本唯人、宇野亜喜良、和田誠、
山口はるみ展
11月 79回 ボール・ランド展
12月 80回 フロシキ展

1993

- 1月 81回 小島良平展 Tropica Grafica
2月 82回 稲越功一展 アウト・オブ・シーズン
3月 83回 1992 ADC展
4月 84回 第5回東京TDC展
5月 85回 U.G.サトーのポスター展 “Freedom”
6月 86回 オーマージュ 向秀男展
7月 87回 文字からのイマジネーション
8月 88回 現代香港のデザイン8人展
9月 89回 勝井三雄展 光の国：夜と昼の挟間に
10月 90回 1993 Illustration 4
安西水丸・河村要助・矢吹申彦・湯村輝彦
11月 91回 ソール・バス展
12月 92回 グリーティング・ポップアップ13人展

1994

- 1月 93回 栗津潔展 H²O Earthman
2月 94回 第6回東京TDC展
3月 95回 上條喬久展 Windscape Mindscape
4月 96回 片山利弘展
5月 97回 永井一正展
6月 98回 オランダのグラフィックデザイン100年
7月 99回 1994 ADC展
8-9月 100回 グラフィック・グッス展
デザインからの贈りもの
10月 101回 平野甲賀展 文字の力
10月 特別展 九州の九人の九つの個性展

- 11月 102回 亀倉雄策ポスター新作展
12月 103回 原研哉展
12月 特別展「私の好きなもの」
土橋とし子、中村幸子、メグ・ホソキ3人展

1995

- 1月 104回 ブルーノ・ムナーリ展
2月 105回 日本のブックデザイン展1946-95
3月 106回 第7回東京TDC展
4月 107回 ビーター・ブラッティンガ展
5月 108回 田中一光展 人間と文字
6月 109回 ニクラウス・トロックスラーポスター展
7月 110回 1995 ADC展
8月 111回 リズム&ヒューズの
コンピュータグラフィックス展
9月 112回 八木保展 自然観
9月 特別展 世界のグラフィック20人 ギンザ・グラフィック・
ギャラリー 10周年／ggg Books 20冊記念
10月 113回 モダン・タイポグラフィの流れ展ー1
11月 114回 戸田正寿 イヤイヤランド展
12月 115回 日本のイラストレーション50年展

1996

- 1月 116回 蓮田やすひろ展 お江戸で、ゆらゆら
2月 117回 モダン・タイポグラフィの流れ展ー2
3月 118回 NIPPONJIN ポスター 23人展イン・サンバロウ
4月 119回 第8回東京TDC展
5月 120回 現代ハンガリーのグラフィック4人展
6月 121回 勝岡重夫タイポグラフィックアート展
Departure
7月 122回 1996 ADC展
8月 123回 前田ジョン かみとコンピュータ展
9月 124回 K2-黒田征太郎／長友啓典
二脚の椅子展
10月 125回 チェコ・アヴァンギャルド・ブックデザイン
1920s・30s
11月 126回 Graphic Wave 1996
青木克憲／佐藤卓／山形季央
12月 127回 アラン・ル・ケルネ展

1997

- 1月 128回 下谷二助展 人じん
1月 特別展 CCGA特別展：
ジョセフ・アルバース展
2月 129回 大橋正展 体温をもつ野菜たち
3月 130回 創立10周年記念 東京TDC展
4月 131回 仲條正義〇〇〇展
5月 132回 今日の雑誌8誌による・特集エコロジー展
6月 133回 横尾忠則ポスター展
吉祥招福繁昌描き下ろし!!
7月 134回 1997 ADC展
8月 135回 河原敏文とボリゴン・ピクチャス展
ロッキー・ホラ商會
9月 136回 メキシコ10人展
10月 137回 Graphic Wave 1997
秋田寛／井上里枝／福島治
10月 特別展 勝見勝寛 10周年記念展
11月 138回 福田繁雄のポスター 〈Supporter〉
12月 139回 GLOBAL展 世界33人の
デザイナーによるデュオポスター

1998

- 1月 140回 鈴木八朗展 8RO ART & AD
2月 141回 オーデルマット＋ティッシ
グラフィックデザイン展
3月 142回 スタシス・エイドリグヴィチウス展
4月 143回 1998 TDC展

- 5月 144回 スタジオ・ドゥンパー展
6月 145回 山本容子展 オペラレッスン
7月 146回 1998 ADC展
8月 147回 河口洋一郎展 電脳宇宙への旅
9月 148回 Graphic Wave 1998
蝦名龍郎／平野敬子／三木健
10月 149回 グンター・ランボー展
11月 150回 フィリップ・アペロウ展
フランス文化におけるポスター
12月 151回 ヘルベルト・ロイピン展

1999

- 1月 152回 海外作家によるFuroshiki Graphics展
2月 153回 日本のタイポグラフィック1946-95
3月 154回 木村恒久構成フォト・グラフィックス展 What?
3月 特別展 堀内誠一の仕事展 雑誌づくりの決定的瞬間
4月 155回 1999 TDC展
5月 156回 現代ブルガリアのグラフィックデザイン展
6月 157回 日比野克彦展 誘拐したい
7月 158回 1999 ADC展
7月 特別展 前田ジョン One-line.com
8月 159回 矢萩喜從郎展
9月 160回 Graphic Wave 1999
鈴木守／松下計／米村浩
10月 161回 FUSE展
11月 162回 松井桂三展
12月 163回 ボール・デイヴィスのポスター展
12月 特別展 アーヴィング・ベン
三宅一生の仕事への視点

2000

- 1月 164回 Graphic Message for Ecology
1月 特別展 篠山紀信&マニエール・ルグリ展
フォトセッションinパリ・オハラ座1998-1999夏
2月 165回 ブルーノ・モングッツィ展 形と機能の詩人
3月 166回 伊藤憲治展 医学誌「ステスコープ」の
表紙デザイン半世紀
4月 167回 2000 TDC展
5月 168回 Poster Works Nagoya 12
岡本滋夫＋11人のデザイナーたち
6月 169回 なにわの、こてこてグラフィック展
7月 170回 2000 ADC展
8月 171回 日宣美の時代
日本のグラフィックデザイン1951-70展
9月 172回 Graphic Wave 2000
秋山具義／Tycoon Graphics／中島英樹
10月 173回 D-ZONE／戸田ツトム展
11月 174回 ビエール・ベルナール展
現実的であれ、不可能を試みろ!
12月 175回 本とコンピュータ展 書物変容-アジアの時空

2001

- 1月 176回 二〇〇一年木田安彦展
2月 177回 イタロ・ルビ展 Not Just Graphics
3月 178回 “Spring has come”
松永真、ディテールの競演。
4月 179回 2001 TDC展
5月 180回 コントラプункト展
デンマーク国家のデザインプログラム
6月 181回 原弘のタイポグラフィ
7月 182回 2001 ADC展
8月 183回 薙本唯人 にんげんもよう
9月 184回 Graphic Wave 2001
澁谷克彦／永井一史／ひびのこづえ
10月 185回 ハングルポスター展
11月 186回 サイトウマコト展
12月 187回 チップ・キッド展

2002

- 1月188回 ウーヴェ・レシュ展
- 2月189回 宇野亜喜良展
- 3月190回 デザイン教育の現場から
セント・ジュースト大学院の手法
- 4月191回 2002 TDC展
- 5月192回 DRAFT 展
- 6月193回 アラン・チャン展 東情西韻
- 6月 特別展 花森安治と暮らしの手帖展
- 7月194回 2002 ADC展
- 8月195回 タナカノリユキ展 OUT OF DESIGN
- 9月196回 Graphic Wave 2002
左合ひとみ／澤田泰廣／新村則人
- 10月197回 SUN-AD 人
- 11月198回 ブラジルのグラフィックデザイン展
ブックデザインにみる今日のブラジル
- 12月199回 ハーブ・ルバリン展

2003

- 1月200回 田中一光 ポスターとグラフィックアート展
- 2月201回 サディク・カラムスターファ展
旅と儀式、言葉と形象
- 3月202回 現代中国平面設計展
- 4月203回 2003 TDC展
- 5月204回 ファブリカ展 1994 / 03 混沌から秩序へ
- 6月205回 空山基展
- 7月206回 2003 ADC展
- 8月207回 新島夷展 色彩とフォントの相互作用
- 9月208回 Graphic Wave 2003
佐野研二郎／野田風／服部一成
- 10月209回 副田高行「広告の告白」展
- 11月210回 ステファン・サグマイスター展
- 12月211回 河野鷹患展
昭和を駆け抜けたモダニスト 1906-99

2004

- 1月212回 永井一正ポスター展
- 2月213回 伊藤桂司・谷口広樹・ヒロ杉山展
- 3月214回 雑誌をデザインする集団キャップ展
- 4月215回 2004 TDC展
- 5月216回 佐藤卓展 Plasticity
- 6月217回 現代デンマークポスターの10年
デンマーク・デザイン・センターによるセクション
- 7月218回 2004 ADC展
- 8月219回 バーンブルック・デザイン展
Friendly Fire
- 9月220回 Graphic Wave 2004
工藤青石／GRAPH／生息気
- 10月221回 疾風迅雷 杉浦康平雑誌デザインの半世紀展
- 11月222回 佐藤可士和 Beyond
- 12月223回 もう一人の山名文夫 1920-70年代

2005

- 1月224回 七つの顔のアサバ展
- 2月225回 バラリンジ・デザイン展
古代の文化と現代のデザイン
- 3月226回 青木克憲XX展
- 4月227回 2005 TDC展
- 5月228回 和田誠のグラフィックデザイン
- 6月229回 チャマイエフ&ガイスマー展
40年間にわたるデザイン活動
- 7月230回 2005 ADC展
- 8月231回 佐藤雅彦研究室展 課題とその解答
- 9月232回 Graphic Wave 2005
谷田一郎／東泉一郎／森本千絵
- 10月233回 CCCP研究所＝ドクター・ベッシー &
マドモアゼル・ローズ展

- 11月234回 祖父江慎＋cozfish展
- 12月235回 スイスポスター 100年展

2006

- 1月236回 亀倉雄策 1915-1997
日本デザイン界を牽引したパイオニア
- 2月237回 野田風展
Hanpanda コンテンポラリーアート
- 3月238回 シアン展
- 4月239回 2006 TDC展
- 5月240回 永井一史
HAKUHODO DESIGN「ブランドとデザイン」
- 6月241回 田名網敬一主義展
- 7月242回 2006 ADC展
- 8月243回 アレクサンダー・ゲルマン展
ニューヨーク・コネクション
- 9月244回 Graphic Wave 2006 School of Design
古平正義／平林奈緒美／水野学／山田英二
- 9月 特別展 AGI日本デザイン総会開催記念：掛け軸展
- 10月245回 勝手に広告展
〔中村至男＋佐藤雅彦〕の活動No.6
- 11月246回 中島英樹展 Clear in the Fog
- 12月247回 早川良雄 日本のデザイン黎明期の証人

2007

- 1月248回 Exhibitions Graphic Messages from
ggg & ddd 1986-2006 [Part I]
- 2月 Exhibitions Graphic Messages from
ggg & ddd 1986-2006 [Part II]
- 3月249回 キムラカツ展 問いボックス店
- 4月250回 2007 TDC展
- 5月251回 ヘルムート・シュミット
デザイン イズ アディテュード
- 6月252回 廣村正彰 2D ⇄ 3D
- 7月253回 2007 ADC展
- 8月254回 ワルシャワの風 1966-2006
ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ金賞受賞作品展
- 9月255回 佐野研二郎 ギンザ・サローネ
- 10月256回 中島信也CM展
中島信也と29人のアートディレクター
- 11月257回 Welcome to Magazine Pool
雑誌デザイン10人の越境者たち
- 12月258回 Aoba Show 青葉益輝ワン・マン・ショー

2008

- 1月259回 アーツダ！戸田正寿ポスターアート展
- 2月260回 グラフィックデザインの時代を築いた
20人の証言 Interviews by 柏木博
- 3月261回 Textasy
プロディ・ノイエシシュヴァンダー展
- 4月262回 2008 TDC展
- 5月263回 アラン・フレッチャー
英国グラフィックデザインの父
- 6月264回 がんばれニッポン、を広告してきたんだ
そういえば、俺。応援団長佐々木●宏
- 7月265回 2008 ADC展
- 8月266回 Now Updating... THA／
中村勇吾のインタラクティブデザイン
- 9月267回 平野敬子 デザインの起点と終点と起点
- 10月268回 白 原研哉展
- 11月269回 M/M [Paris] The Theatre Posters
- 12月270回 OYKOT Wieden+Kennedy Tokyo:
10 Years of Fusion

2009

- 1月271回 きらめくデザイナーたちの競演
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展

- 2月272回 Helvetica forever: Story of a Typeface
ヘルベチカ展
- 3月273回 DRAFT Branding & Art Directors
- 4月274回 2009 TDC展
- 5月275回 矢萩喜徳郎展
[Magnetic Vision／新作100点]
- 6月276回 グラフィックデザイナー マックス・フーパー展
- 7月277回 2009 ADC展
- 8月278回 [ラストショー]細谷巖アートディレクション展
- 9月279回 銀座界限隈ガヤガヤ青春ショー
～言い出しっぺ横尾忠則～
瀬本唯人・宇野亜喜良・和田誠・横尾忠則4人展
- 10月280回 山形季央展
- 11月281回 北川一成
- 12月282回 広告批評展
ひとつの時代の終わりと始まり

2010

- 1-2月283回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅰ
田中一光ポスター 1953-1979
- 3月284回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅱ
福田繁雄のヴィジュアル・ジャンピング
- 4月285回 TDC展 2010
- 5月286回 Talking the Dragon 井上嗣也展
- 6月287回 NB@ggg ネヴィル・プロディ 2010
- 7月288回 2010 ADC展
- 8月289回 ララル・シュライフォークル展
- 9月290回 ブッシュビーン・パラダイム
シーモア・クワスト | ボール・デヴィス |
ミルトン・グレイザー | ジェームズ・マクミラン
- 10月291回 海と山と新村則人
- 11月292回 服部一成二十年十一月
- 12月293回 EUPHRATES ユーフラテス展
～研究から表現へ～

2011

- 1月294回 秀英体 100
- 2月295回 イアン・アンダーソン／
ザ・デザイナーズ・リパブリックが
トーキョーに帰ってきた。
- 3月296回 デザイン 立花文徳
- 4月297回 TDC展 2011
- 5月298回 佐藤晃一ポスター
- 6月299回 レイモン・サヴィニャック展：
41歳、「牛乳石鹸モンサヴォン」の
ポスターで生まれた巨匠
- 7月300回 2011 ADC展
- 8月301回 [ジー ジー ジー] グルーヴィジョンズ展
- 9月302回 工藤青石展 形と色と構造の感情
- 10月303回 100 ggg Books 100 Graphic Designers
- 11月304回 イデオポリス東京：
スクール・オブ・ヴィジュアルアーツ
美術学修士課程卒業制作展
- 12月305回 杉浦康平・マンガラ発光

2012

- 1-2月306回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ
没後10周年記念企画
田中一光ポスター 1980-2002
- 3月307回 ロトチェンコ
ー慧星のごとく、ロシア・アヴァンギャルドの麗児ー
- 4月308回 TDC展 2012
- 5月309回 キギ展 植原亮輔と渡邊良重
- 6月310回 ジャンピン・ヘ フラッシュバック
- 7月311回 2012 ADC展
- 8月312回 The Posters 1983-2012
世界ポスタートリエンナーレトヤマ受賞作品展

- 9月313回 寄藤文平の夏の研究
- 10月314回 AGI展
- 11月315回 横尾忠則 初のブックデザイン展
- 12月316回 テセウス・チャン ヴェルクNo.20：銀座
The Extremities of the Printed Matter

2013

- 1月317回 松永真ポスター 100展
- 2月318回 カリ・ビッポ ポスターとドローイング
シンブル・ストロング・シャープ
- 3月319回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ
LIFE 永井一正ポスター展
- 4月320回 TDC展 2013
- 5月321回 KM [ケーエム] カレル・マルテンス
- 6月322回 ホワイ・ノット・アンシエイツ
予定は失敗のもと。未定は成功のもと。
- 7月323回 2013 ADC展
- 8月324回 大宮エリー展
- 9月325回 PARTY そこにいない。展
- 10月326回 長崎りこ展
[Between Human and Nature]
- 11月327回 ヤン・チヒョルト展
- 12月328回 トマシェフスキ展 世界を震わす詩学

2014

- 1月329回 勝井三雄展 兆しのデザイン
- 2月330回 「指を置く」展 佐藤雅彦＋齋藤達也
- 3月331回 明日のデザインと福島治
[Social Design & Poster]
- 4月332回 TDC展 2014
- 5月333回 phono / graph sound, letters, graphics
- 6月334回 永井裕明展 Graphic Jam Zukō
- 7月335回 2014 ADC展
- 8月336回 ひのこづさいぼー：
ひびのこづえ＋「にほんごであそぼ」のしごと
- 9月337回 So French ミシェル・ブーヴェ・ポスターズ
- 10月338回 セミトランスベアレント・デザイン 退屈
- 11月339回 Persona 1965
グラフィックデザイン展(ペルソナ) 50年記念
- 12月340回 荒井良二だもん

2015

- 1月341回 浅葉克己のタイポグラフィ展
Asaba's Typography.
- 2月342回 Line in the sand ボール・デヴィス
- 3月343回 APPLE+ 三木健 学び方のデザイン
「りんご」と日常の仕事
- 4月344回 TDC展2015
- 5月345回 2 Men Show
スタンリー・ウォン【黄炳培】×
アナザーマウンテンマン【又一山人】
- 6月346回 ライゾマティクス グラフィックデザインの死角
- 7月347回 2015 ADC展
- 8月348回 ラース・ミューラー 本 アナログリアリティー
- 9月349回 色部義昭 Wall
- 10月350回 21世紀琳派ポスターズ
10人のグラフィックデザイナーによる競演
- 11月351回 字字字 大日本タイポ組合
- 12月 特別展 〔千代田区立日比谷図書文化館にて開催〕
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展
THE NIPPON POSTERS

2016

- 1-3月 特別展 〔千代田区立日比谷図書文化館にて開催〕
千代田区立日比谷図書文化館主催／
DNP文化振興財団共催
祖父江慎＋コズフィッシュ展 ブックデザイ



1992-2023

4-5月352回 ggg30周年記念 明日に架ける橋
ggg 展覧会ポスター 1986-2016

6月353回 TDC 2016
7-9月354回 2016 ADC 展
9-10月355回 ノザイナー かたちと理由
11-12月356回 榎本了杏コーカイ記

2017

1-3月357回 仲條正義 IN & OUT, あるいは飲&嘔吐
4月358回 TDC 2017
5-6月359回 ロマン・チェシルヴィチ 鏡像への狂気
7月360回 2017 ADC 展
7月 特別展 追悼!『長友啓典』特別展
8-9月361回 Apeloiggg Tokyo フィリップ・アペロワ展
9-11月362回 組版造形 白井敬尚
11-1月363回 マリメッコ・スピリッツー パーヴォ・ハロネン/
マイヤ・ロウエカリ/アイノミヤ・メッツォラ

2018

1-3月364回 平野甲賀と晶文社展
4月365回 TDC 2018
5-6月366回 ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて
7-8月367回 Harumi Yamaguchi × Yoshirotten
Harumi's Summer
9-10月368回 横尾忠則 幻花幻想幻画譚 1974-1975
10-11月369回 日本のアートディレクション展 2018
12-1月370回 続々 三澤遼

2019

2-3月371回 ボーラ・シェア: Serious Play
4月372回 TDC 2019
5-6月373回 Beginnings 井上嗣也展
7-8月374回 田名網敬一の観光展
8-10月375回 Sculptural Type コントラプンクト
10-11月376回 日本のアートディレクション展 2019
11-1月377回 カール・グルストナー 動きの中の思索

2020

1-3月378回 河口洋一郎 生命のインテリジェンス
6-8月379回 TDC 2020
10-11月380回 いきることば つむぐいのち
永井一正の絵と言葉の世界
12-3月381回 石岡瑛子
グラフィックデザインはサバイブできるか

2021

4-5月382回 TDC 2021
6-7月383回 Sports Graphic スポーツ・グラフィック
7-8月 特別展 オリンピック・ランゲージ:
デザインでみるオリンピック
9-10月384回 葛西薫展 NOSTALGIA
11月385回 日本のアートディレクション展 2020-2021
12-3月386回 ソール・スタインバーグ
シニカルな現実世界の変換の試み

2022

4月387回 TDC 2022
5-6月388回 佐藤卓 TSDO 展 <in LIFE>
7-8月389回 Yui Takada with ori.studio CHAOTIC ORDER
高田唯 混沌とした秩序
9-10月390回 細谷巖 突き抜ける気配
Hosoya Gan - Beyond G
11月391回 日本のアートディレクション展 2022
12-1月392回 宇野亜喜良 万華鏡

2023

2-3月393回 動物会議 緊急大集合!

1992

1-2月 1回 Trans-Art '91展
3月 2回 アイヴァン・チャマイエフ展 コラージュ
4-5月 3回 第4回東京TDC展
5-6月 4回 リック・バリセンティ展
6-7月 5回 シーモア・クワスト展 メタル彫刻
7-8月 6回 デザイン・プリント・ペーパー展
8-9月 7回 ヴァン・オリバー展
10月 8回 中村誠 個展
10-11月 9回 マイケル・メイヴリー展
11-12月 10回 灘本唯人、宇野亜喜良、和田誠、
山口はるみ展

1993

1-2月 11回 フロシキ展
2-3月 12回 ホワイノット・アソシエイツ展
3-4月 13回 アレン・ホリ+ロバート・ナカタ展
解き放たれた声

4-5月 14回 1992 ADC 展
5-6月 15回 ラッセル・W・フィッシャー展
6-7月 16回 第5回東京TDC展
7-8月 17回 文字からのイマジネーション
8-9月 18回 デザイン・プリント・ペーパー展 Part II
9-10月 19回 ビル・ソーバーン展
10-11月 20回 U.G. サトーのポスター展 Treedom
11-12月 21回 勝井三雄展 光の国:夜と昼の狭間に
12-1月 22回 現代香港のデザイン8人展

1994

1-2月 23回 ソール・バス展
2-3月 24回 グリーディング・ポップアップ13人展
3-4月 25回 リュディ・パウア/
インテグラルコンセプト展
4-5月 26回 Illustration4 安西水丸・河村要助・
矢吹申彦・湯村輝彦
5-6月 27回 ジェニファ・モラー展
6-7月 28回 永井一正展
7-8月 29回 ウーヴェ・レシュ展
8-9月 30回 1994 ADC 展
9-10月 31回 デザイン・プリント・ペーパー展 Part III
10-11月 32回 アメリカのAD2人展
デビッド・カーソン+ゲラリー・ケブキ
エディトリアルデザインの新潮流
12月 33回 亀倉雄策ポスター新作展

1995

1-2月 34回 ヘルマン・モンタルボ ポスター展
2-3月 35回 ブルーノ・ムナーリ展
3-4月 36回 グラッパ・デザイン展
4-5月 37回 第7回東京TDC展
5-6月 38回 ミシェル・ブーヴェ展 ポスター、路傍の美
6-7月 39回 田中一光展 人間と文字
7-8月 40回 テレロング展
8-9月 41回 1995 ADC 展
9-10月 42回 デザイン・プリント・ペーパー展 IV
10-11月 43回 ベレ・トレント展
11-12月 44回 アジアのデザイナー 6人展

1996

1-2月 45回 日本のイラストレーション50年展
2-3月 46回 マーゴ・チェイス展
3-4月 47回 ヴェルネル・イエカー展
4-5月 48回 グンター・ランボー展
5-6月 49回 第8回東京TDC展
6-7月 50回 カリ・ビッポ展
7-8月 51回 現代ハンガリーのグラフィック4人展
8-9月 52回 1996 ADC 展

9-10月 53回 前田ジョン かみとコンピュータ展
10-11月 54回 アラン・ル・ケルネ展
11-12月 55回 ウッディ・バートル展

1997

1-2月 56回 ジョアン・マシャド展
2-3月 57回 K2オオサカ展 黒田征太郎+長友啓典
3-4月 58回 グラフィックデザイン・イン・チャイナ展
4-5月 59回 創立10周年記念 東京TDC展
5-6月 60回 メキシコ10人展
7月 61回 カトー・デザイン 思考するデザイン展
8-9月 62回 1997 ADC 展
9-10月 63回 ラルフ・シュライフォーグル展
10-11月 64回 ジェームズ・ビクトル展 貼紙禁止
11-12月 65回 GLOBAL 展 世界33人の
デザイナーによるデュオポスター

1998

1-2月 66回 ファイトヘルベ/デ・ヴリンゲル展
未来を振り返る
2-3月 67回 ジャン・ベノア・レヴィ展 その視覚的活動
3-4月 68回 《トロイカ》ロシア 3人展
4-5月 69回 フィリップ・アペロウ展
フランス文化におけるポスター
6月 70回 1998 TDC 展
7月 71回 スタジオ・ダウンバー展
8-9月 72回 1998 ADC 展
9-10月 73回 ザフリキ展
10-11月 74回 現代イスラエルのビジュアルコミュニケーター
デビッド・タルタコーバ展
11-12月 75回 台湾四人展

1999

1-2月 76回 海外作家による Furoshiki Graphics 展
2-3月 77回 ビエール・ニューマン展
3-4月 78回 ボーラ・シェア展
5-6月 79回 ハンブルクのグラフィックデザイン展
オルガー・マチス+クリスティアーネ・フラインンガー
6-7月 80回 1999 TDC 展
7-8月 81回 ヤン・ライリッヒ Jr. 展 時代のミルハウス
8-9月 82回 1999 ADC 展
9-10月 83回 スコット・マケラ [WIDE OPEN] 展
10-11月 84回 尊厳
チャズ・マヴィヤネー・デイヴィースの世界展
11-12月 85回 マカオ2人展
ウン・ヴァイメン/ビクトル・ヒューゴ・マレイロス

2000

1-2月 86回 Graphic Message for Ecology
2-3月 87回 松井桂三展
3-4月 88回 ポール・デイヴィスのポスター展
4-5月 89回 なにわの、こてこてグラフィック展
5-6月 90回 2000 TDC 展
6-7月 91回 アントン・ベイク展 ボディ・アンド・ソウル
7-9月 92回 ビエール・ベルナル展
現実的であれ、不可能を試みよう!
9-10月 93回 2000 ADC 展
10-11月 94回 イタロ・ルビ展 Not Just Graphics
11-12月 95回 デザイン教育の現場から
ベルリン芸術大学
オルガー・マチス教室によるアプローチ

2001

1-2月 96回 二〇〇一年木田安彦展
2-3月 97回 コントラプンクト展
THE CROWNING TOUCH
3-4月 98回 ギルツブルク音楽祭ポスター展

5-6月 99回 2001 TDC展
6-7月 100回 チップ・キッド展
7-8月 101回 ハングルポスター展
8-9月 102回 2001 ADC展
9-10月 103回 ウォルフガング・ワインガルト展
タイボグラフィへのわが道
10-11月 104回 “Spring has come”
松永真、ディテールの競演。
11-12月 105回 デザイン教育の現場からⅡ
セント・ジュースト大学院の新技术

2002

1-2月 106回 瀬本唯人 にんげんもよう
2-3月 107回 サイトウマコト展
3-4月 108回 オットナシュタイン展
4-5月 109回 タピロ展 ヴェニス・ビエンナーレのポスター
5-6月 110回 2002 TDC展
7月 111回 ウィーンのパスター展
ウィーン市立図書館アーカイブ1883-2002
7-9月 112回 三木健展
9-10月 113回 2002 ADC展
10-11月 114回 サディク・カラムスターファ展
旅と儀式
11-12月 115回 中国グラフィックデザイン展

2003

1-2月 116回 SUN-AD 人
2-3月 117回 田中一光 ポスターとグラフィックアート展
3-4月 118回 ファブリカ展 1994 / 03 混沌から秩序へ
4-6月 119回 墨と椅子について
カン・タイキユン+フリーマン・ラウ
アート&デザイン展
6-7月 120回 2003 TDC展
7-8月 121回 ルーバル・コーバ展
8-9月 122回 2003 ADC展
9-10月 123回 ステファン・サグマイスター展
10-11月 124回 ヨーロッパの文化ポスター展
ノイエ・ザムルング・ミュンヘンの
所蔵作品より
11-12月 125回 空山基展

2004

1-2月 126回 副田高行「広告の告白」展
2-3月 127回 永井一正ポスター展
3-4月 128回 現代デンマークポスターの10年
デンマーク・デザイン・センターによるセレクション
4-5月 129回 雑誌をデザインする集団キャップ展
5-6月 130回 2004 TDC展
6-7月 131回 ビエール・メンデル展
8-9月 132回 2004 ADC展
9-10月 133回 バーンブルック・デザイン展
Friendly Fire
10-11月 134回 チェコのポスター展
ブラハ美術工芸博物館
コレクション1960-2003
11-12月 135回 バラリンジ・デザイン展
古代の文化と現代のデザイン

2005

1-2月 136回 疾風迅雷 杉浦康平雑誌デザインの半世紀展
2-3月 137回 シアン展 ベルリンでの13年
3-4月 138回 佐藤可士和 Beyond
4-5月 139回 メーフィス&ファン・デュールセン展
5-6月 140回 2005 TDC展
7月 141回 CCCP研究所=ドクター・ベッシェ &
マドモアゼル・ローズ展
8-9月 142回 2005 ADC展

9-10月 143回 青木克憲XX展
10-11月 144回 ドイツAGIグラフィックデザイン展
パーフェクトフォルム
11-12月 145回 和田誠のグラフィックデザイン

2006

1-2月 146回 スイスポスター 100年展
2-3月 147回 グラフィック・ソート・ファシリティ展
GTF / 50プロジェクト
3-4月 148回 野田弘展
Hanpanda コンテンポラリーアート
4-5月 149回 ブルーノ・オルダーニ展
5-6月 150回 2006 TDC展
6-7月 151回 ブラック&ホワイトポスター展
8月 152回 2006 ADC展

2007

5-6月 153回 Exhibitions Graphic Messages from
ggg & ddd 1986-2006
7-8月 154回 2007 TDC展
8-9月 155回 ヘルムート・シュミット
デザイン イズ アティテュード
10-11月 156回 2007 ADC展
11-12月 157回 キムラカツ展 問いボックス店

2008

1-2月 158回 Welcome to Magazine Pool
雑誌デザイン10人の越境者たち
2-4月 159回 佐野研二郎 ギンザ・サローネ・オサカ
4-6月 160回 中島信也CM展
中島信也と29人のアートディレクター
6-7月 161回 2008 TDC展
8月 162回 Now Updating... THA /
中村勇吾のインタラクティブデザイン
9-10月 163回 2008 ADC展
10-11月 164回 Aoba Show 青葉益輝ワン・マン・ショー
11-12月 165回 Graphic West 真 和 / or 善
杉崎真之助と高橋善丸のグラフィックデザイン

2009

1-2月 166回 Helvetica forever: Story of a Typeface
ヘルベチカ展
3-4月 167回 きらめくデザイナーたちの競演
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展
4-6月 168回 DRAFT Branding & Art Directors
6-7月 169回 2009 TDC展
8-10月 170回 2009 ADC展
10-12月 171回 矢萩喜徳展
[Magnetic Vision / 新作100点]

2010

1-3月 172回 Graphic West 2 感じる箱展
grafの考えるグラフィックデザインの実験と検証
3-5月 173回 北川一成
5-7月 174回 TDC展 2010
7-9月 175回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅲ
福田繁雄のヴィジュアル・ジャンピング
9-10月 176回 2010 ADC展
11-12月 177回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅱ
田中一光ポスター 1953-1979

2011

1-3月 178回 Graphic West 3 phono / graph
一音・文字・グラフィック
3-5月 179回 秀英体100
5-7月 180回 TDC展 2011
7-9月 181回 服部一成二千年一夏大阪

9-10月 182回 2011 ADC展
11-12月 183回 100 ggg Books 100 Graphic Designers

2012

1-3月 184回 Graphic West 4 「奥村昭夫と仕事」展
3-5月 185回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ
没後10周年記念企画
田中一光ポスター 1980-2002
5-7月 186回 TDC展 2012
7-9月 187回 立花文穂展
9-10月 188回 2012 ADC展
11-12月 189回 The Posters 1983-2012
世界ポスタートリエンナーレトヤマ受賞作品展

2013

1-3月 190回 Graphic West 5
type trip to Osaka typographics ti: 270
3-4月 191回 [デー デー デー ジー] グルーヴィジョンズ展
5-6月 192回 TDC展 2013
7-8月 193回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ
LIFE 永井一正ポスター展
9-10月 194回 2013 ADC展
11-12月 195回 大宮エリー展

2014

1-3月 196回 Graphic West 6
大阪新美術館建設準備室デザインコレクション
熱情と冷静のアヴァンギャルド
3-4月 197回 「指を置く」展 佐藤雅彦+齋藤達也
5-6月 198回 TDC展 2014
6-7月 199回 明日のデザインと福島治
[Social Design & Poster]
10-12月 200回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅵ
THE NIPPON POSTERS

2015

1-3月 201回 永井裕明展
Graphic Jam Zukō in Kyoto
4-5月 202回 ラース・ミュラー 本 アナログリアディエー
6-7月 203回 TDC展 2015
8-10月 204回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品Ⅶ
20世紀琳派 田中一光
11-12月 205回 ニッポンのニッポン ヘルムート シュミット

2016

1-3月 206回 浅葉亮己個展 「アサバの血肉化」
4-5月 207回 21世紀琳派ポスターズ
10人のグラフィックデザイナーによる競演
5-7月 208回 ライゾマティクス グラフィックデザインの死角
7-8月 209回 TDC 2016
9-10月 210回 物質性→非物質性 デザイン&イノベーション
11-12月 特別展 京都dddギャラリー・京都工芸繊維大学
アートマネージャー養成講座連携企画展
なにで行く どこへ行く 旅っていいね
12月 特別展 京都造形芸術大学プロジェクトセンター×
京都dddギャラリー連携企画展
experimental studies | post past

2017

1-3月 211回 グラフィックとミュージック
5-6月 212回 仲條正義 IN & OUT, あるいは飲&嘔吐
7-8月 213回 TDC 2017
9-10月 214回 平野甲賀と晶文社展
11月 特別展 京都dddギャラリー・成安造形大学連携展
.communication
12-3月 215回 ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて

2018

4-6月 216回 Graphic West 7: YELLOW PAGES
7-8月 217回 TDC 2018
8-10月 218回 田名網敬一の現在展
11-12月 特別展 京都dddギャラリー・京都市立芸術大学
ビジュアル・デザイン研究室共催展
グラフィックで科学を学ぼう 進化のものがたり展

2019

1-3月 219回 組版造形 白井敬尚
3-6月 220回 本の縁側 矢萩多聞と本づくり展
6-8月 221回 ヘイセイ・グラフィックス
8-10月 222回 ドヴァランスーシステムを遊び場に
11-12月 223回 Graphic West 8:
三重野龍大全2011ー2019「屁理屈」

2020

1-3月 224回 Design ZOO:いのち・ときめき・デザイン展
6-10月 225回 コントラクトンブト タイプ
10-12月 226回 食のグラフィックデザイン

2021

1-3月 227回 Graphic West 9: Sulki & Min
4-7月 228回 ヘルムート シュミット タイボグラフィ:
トライ トライ トライ
7-9月 229回 小島武展 夢ひとつ
10-12月 230回 石岡瑛子 デザインはサバイブできるか

2022

1-3月 231回 鳥海修
「もじのうみ:水のような、空気のような活字」
7-9月 232回 ddd DATABASE 1991-2022
10-11月 233回 FormSWISS (フォーム・スイス)
11-1月 234回 GRAPHIC CUBE – フィルムポスター
DNPグラフィックデザイン・アーカイブより

2023

1-3月 235回 ppp groovisions

1995		
4-7月	1回	グラフィック・ビジョン： ケネス・タイラーとアメリカ現代版画の30年
8-10月	2回	ロイ・リキテンスタイン： エンタブラチュア→ヌード
11-1月	3回	一瞬の刻印：ロバート・マザウェル展

1996		
3-4月	4回	アメリカ版画の現在地点： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.1
4-7月	5回	デイヴィッド・ホックニー展
7-10月	6回	自律する色彩：ジョセフ・アルパース展
10-1月	7回	スタイルを越えて： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.2

1997		
3-6月	8回	ジェームズ・ローゼンクvist展
6-9月	9回	版画における抽象： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.3
10-11月	10回	大竹伸朗：Printing / Painting展
12-1月	11回	線／色彩／イメージ： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.4

1998		
3-5月	12回	フランク・ステラ／ケネス・タイラー： 構築する版画 アーティストとプリンター、30年の軌跡
5-9月	13回	主張する黒： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.5
9-12月	14回	形象としての紙：アラン・シールズ展

1999		
3-5月	15回	福田美蘭展 New Works: Prints
6-9月	16回	かたる かたち： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.6
9-12月	17回	版画の話展

2000		
3-6月	18回	New Works 1998-1999： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.7
6-9月	19回	太田三郎：存在と日常
9-12月	20回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ設立展： ポスターグラフィックス 1950-2000

2001		
3-5月	21回	版画集への招待： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.8
5-7月	22回	折元立身：1972-2000
8-10月	23回	藤本由紀夫：四次元の読書
10-12月	24回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ展 Vol.2： グラフィックデザインの時代

2002		
3-6月	25回	空間に躍りでた版画たち： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.9
6-9月	26回	矢萩喜徳郎：視触、視弾、そして眼差しの記憶
9-12月	27回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ展 Vol.3： 個性の時代

2003		
3-4月	28回	絵画―永遠の現在を求めて： リチャード・ゴーマン展
4-6月	29回	色彩としての紙： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.10
6-9月	30回	ヘレン・フランケンサラー木版画展
9-12月	31回	タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション 新収蔵作品展： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.11

2004		
3-6月	32回	イラストレーションの黄金時代
6-9月	33回	パスワード：日本とデンマークの アーティストによる対話
9-12月	34回	版で発信する作家たち2004福島

2005		
3-6月	35回	アメリカ現代木版画の世界： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.12
6-9月	36回	Breathing Light：吉田重信
10-12月	37回	decade ― CCGAと6人の作家たち

2006		
3-6月	38回	版に描く： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.13
6-9月	39回	藤幡正樹：不完全さの克服 イメージとメディアによって創り出される、 新たな現実感。
9-12月	40回	野田哲也：日記

2007		
3-6月	41回	凹版表現の魅力： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.14
6-9月	42回	再生する版画： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.15
9-12月	43回	ユニーク・インプレッション： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.16

2008		
3-6月	44回	厚い色： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.17
6-9月	45回	大きな版画、小さな版画： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.18
9-11月	46回	黒のモノローグ： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.19

2009		
2-6月	47回	作品と題名： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.20
6-9月	48回	きらめくデザイナーたちの競演 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展
9-12月	49回	赤のちから： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.21

2010		
3-6月	50回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅱ 田中一光ポスター 1953-1979
6-9月	51回	ロイ・リキテンスタイン展： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.22
9-12月	52回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅲ 福田繁雄のヴィジュアル・ジャンピング

2011		
3月	53回	幾何学的抽象の世界： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.23 (東日本大震災のため中断)
6-9月	54回	秀英体 100
9-12月	55回	幾何学的抽象の世界： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.23

2012		
3-6月	56回	日本ポルトガル交流 版で発信する作家たち：after 3.11
6-9月	57回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ 没後10周年記念企画 田中一光ポスター 1980-2002
9-12月	58回	銅版の表現力： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.24

2013		
2月	特別展	第24回田善顕彰版画展
3-6月	59回	THE POSTERS 1983-2012 世界ポスタートリエンナーレヤマ受賞作品展
6-9月	60回	現代版画とリトグラフ： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.25
9-12月	61回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ LIFE 永井一正ポスター展

2014		
2月	特別展	第25回田善顕彰版画展
3-6月	62回	プリント・イン・ブルー： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.26
7-9月	63回	20世紀モダンデザインの誕生― 大阪新美術館建設準備室デザインコレクション
9-12月	64回	レリーフ・プリントの世界： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.27

2015		
2月	特別展	第26回田善顕彰版画展
3-6月	65回	開館20周年記念 21世紀のグラフィック・ビジョン
6-9月	66回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅵ 浅葉克己ポスターアーカイブ展
9-12月	67回	ロバート・マザウェルのリトグラフ： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.28

2016		
2月	特別展	第27回田善顕彰版画展
3-6月	68回	グラフィックとミュージック
6-9月	69回	中林忠良展：未知なる航海―腐食の海へ
9-12月	70回	フランク・ステラ<イマジナリー・プレシズ>： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.29

2017		
2月	特別展	第28回田善顕彰版画展
3-6月	71回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅶ 松永真ポスター展
6-9月	72回	加納光於―揺らめく色の穂先に
9-12月	73回	ジョセフ&アニ・アルパース、二つの抽象： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.30

2018		
2月	特別展	第29回田善顕彰版画展
3-6月	74回	少数精鋭の色たち―DNPグラフィック デザイン・アーカイブより
6-9月	75回	北川健次：黒の装置―記憶のディスタンス
9-12月	76回	ヘレン・フランケンサラー [エクスペリメンタル・インプレッション]： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.31

2019		
3-6月	77回	ヘイセイ・グラフィックス
6-9月	78回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅷ 蔵出し 仲條正義
9-12月	79回	柔らかな版： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.32

2020		
3-6月	80回	食のグラフィックデザイン
7-9月	81回	共鳴する刻[しるし]―木口木版画の現在地
9-12月	82回	ことばと版画： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.33

2021		
3-6月	83回	つながりのデザイン： DNPグラフィックデザイン・アーカイブコレクション
6-9月	84回	どこか遠くへ、グラフィックにみる旅のかたち
9-12月	85回	線を引く： タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション展 Vol.34

2022		
3-6月	86回	DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅸ 葛西薫 POSTERS since 1973
6-9月	87回	ビュシス銅版画展―写すものと映されるもの
9-12月	88回	タイラーグラフィックス・ アーカイブコレクション名品展

1986

- Mar. 1 Tadashi Ohashi:
Vegetable Illustration
- Apr. 2 Shigeo Fukuda: Illustration 412
- May 3 Yukimasa Okumura: Sunsun Saifu
- Jun. 4 Iku Akiyama: Picture Relief
- Jul. 5 1986 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 6 Art Works I The World is Art.
- Sep. 7 Koichi Sato: About Boxes 2
- Oct. 8 Kiyoshi Awazu:
Self Revolution for Painting
- Nov. 9 Herbert Bayer:
Pioneer of Visual Communication
- Dec. 10 K2 Live!
Don't Say "2" Without Knowing the "K"

1987

- Jan. 11 Iroha: CG Calligraphy of Shuhei Tsuji
and CA Workshop
- Feb. 12 Flower Expo + Expo Logo Exhibition
- Mar. 13 Masaki Fujihata: Geometric Love
- Apr. 14 The Works of Shin Matsunaga:
The Mainichi Design Prize
Commemorative Exhibition
- May 15 Mizumaru Anzai "2C"
- Jun. 16 Lou Dorfsman and
The Creative Works of CBS
- Jul. 17 1987 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 18 Art Works II Rest in Peace
- Sep. 19 Takenobu Igarashi: Igarashi Numbers
- Oct. 20 Masuteru Aoba: Graphically
- Nov. 21 Holger Matthies:
Unpredictable Reality
- Dec. 22 Milton Glaser: Conjurer of Image

1988

- Jan. 23 Katsu Kimura:
Works from Packaging Direction
- Feb. 24 Hiroki Taniguchi:
Homosapiens' Memory
- Mar. 25 Ginza Hyakuten Covers, Original Works
- Apr. 26 Katsu Exhibition, Spring: Original-
Lithography-Silk Screen-Offset Print
- May 27 AGI '88 Tokyo: World Graphic Design
- Jun. 28 Issey Miyake Poster Exhibition:
I.I.I. at GGG
- Jul. 29 1988 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 30 Art Works III Peace by Piece
- Sep. 31 Recruit / Information Posters
- Oct. 32 Yoshio Hayakawa:
Original Drawings "Woman"
- Nov. 33 Masayoshi Nakajo: NAKAJOISH
- Dec. 34 Posters and Illustrations of
Stasys Eidrigevicius

1989

- Jan. 35 Shopping Bag Design Exhibition
- Feb. 36 Kijuro Yahagi Exhibition
- Mar. 37 Texture: Makiko Minagawa +
Keiichi Tahara + Shigeru Yamaoka
- Apr. 38 Noriyuki Tanaka:
Gokan – The Urban Surface
- May 39 Ott Aicher: W.Von Ockham,
a Pioneer in Modern Philosophy
- Jun. 40 Kazumi Kurigami: Photographs
- Jul. 41 Shinichiro Wakao: Wakao Collection
- Aug. 42 Art Works IV
All The Flowers Have Come Here.
- Sep. 43 Kazumasa Nagai Exhibition

- Oct. 44 Posters by 12 Artists
for Europalia '89 Japan
- Nov. 45 The Current Works of Charles Anderson
- Dec. 46 Works of Etsushi Kiyohara: Hommage

1990

- Jan. 47 Shigeru Akizuki: Boxes for Fun
- Feb. 48 Nobuyoshi Kikuchi:
"Shelf" Bound Books
- Mar. 49 Tsunao Harada:
"Horse" Wood-block Print
- Apr. 50 Ikko Tanaka Exhibition:
Graphic Art Botanical Garden
- May 51 Ryuichi Yamashiro:
Illustration without Cats
- Jun. 52 Keizo Matsui:
Three Dimensional Graphics
- Jul. 53 Takayuki Terakado Exhibition
- Aug. 54 Art Works V Tokyo Specimen Boxes 1990
- Sep. 55 Keiichi Tahara: The Fragrance of Light
- Oct. 56 Katsumi Asaba's New Works:
Terrible Typography in Asia.
- Nov. 57 Macaroni: Katsuya Ise
- Dec. 58 Yasuhiro Yomogida: People

1991

- Jan. 59 Zenji Funabashi Exhibition
- Feb. 60 Tetsuya Ohta: Diagrams
- Mar. 61 Per Arnoldi:
Posters, Prints and Painting
- Apr. 62 Yasuhiro Sawada:
P2 [Painting × Printing]
- May 63 Sonoko Arai: Drawing Inspiration
- Jun. 64 Communication & Print:
Newly Created Posters by 10 Artists
- Jul. 65 Nobuo Nakagaki +
Nakagaki Design Office: Object Books
- Aug. 66 Art Works VI "Bacteriart" Messages
from Dream Island
- Oct.-Nov. 67 Trans-Art '91
- Dec. 68 1991 Tokyo ADC Exhibition

1992

- Jan. 69 Ivan Chermayeff: Collages
- Feb. 70 The First Solo Exhibition of
Hajime Tachibana: ape-MAN
- Mar. 71 The 4th Tokyo TDC Exhibition
- Apr. 72 Henryk Tomaszewski Exhibition
- May 73 Seymour Chwast: Painted Metal Sculpture
- Jun. 74 Takashi Kanome: BOX-XX
- Jul. 75 Makoto Nakamura Solo Exhibition
- Aug. 76 Rick Valicenti Exhibition
- Sep. 77 Kaoru Kasai: AERO
- Oct. 78 Tadahito Nadamoto / Akira Uno /
Makoto Wada / Harumi Yamaguchi
Exhibition
- Nov. 79 Paul Rand
- Dec. 80 Furoshiki by 18 Artists

1993

- Jan. 81 Ryohei Kojima: Tropica Grafica
- Feb. 82 Koichi Inakoshi: Out of Season
- Mar. 83 1992 Tokyo ADC Exhibition
- Apr. 84 The 5th Tokyo TDC Exhibition
- May 85 U.G. Sato's Poster Exhibition: Freedom
- Jun. 86 Hideo Mukai: Hommage
- Jul. 87 Imagination of Letters
- Aug. 88 8 Designers in Today's Hong Kong
- Sep. 89 Mitsuo Katsui: The Blessing of Light

- Oct. 90 1993 Illustration 4:
Mizumaru Anzai / Yosuke Kawamura /
Nobuhiko Yabuki / Teruhiko Yumura
- Nov. 91 Saul Bass Exhibition
- Dec. 92 13 Pop-up Greeting

1994

- Jan. 93 Kiyoshi Awazu: H²O Earthman
- Feb. 94 The 6th Tokyo TDC Exhibition
- Mar. 95 Takahisa Kamijyo: Windscape Mindscape
- Apr. 96 Toshihiro Katayama Exhibition
- May 97 Kazumasa Nagai Exhibition
- Jun. 98 Dutch Graphic Design A Century
- Jul. 99 1994 Tokyo ADC Exhibition
- Aug.-Sep. 100 Graphic Goods: Gifts from Design
- Sep. 101 Koga Hirano: The Power of Letters
- Oct. Kyushu Nine Designers Nine Personalities
- Nov. 102 Yusaku Kamekura New Posters
- Dec. 103 Kenya Hara Exhibition
Toshiko Tsuchihashi, Sachiko Nakamura,
Meg Hosoki: Favorites

1995

- Jan. 104 Bruno Munari Exhibition
- Feb. 105 Book Design in Japan 1946-95
- Mar. 106 The 7th Tokyo TDC Exhibition
- Apr. 107 Pieter Brattinga: Designs for People
- May 108 Ikko Tanaka: Man and Writing
- Jun. 109 Niklaus Troxler Posters
- Jul. 110 1995 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 111 Rhythm & Hues Computer Graphics:
A Postcard from Hollywood
- Sep. 112 Tamotsu Yagi: A View of Nature
- Sep. 20 Graphic Designers of the World:
ggg 10th Anniversary and 20 ggg Books
- Oct. 113 Transition of Modern Typography-1
- Nov. 114 Masatoshi Toda: Ear Ear Land
- Dec. 115 50 Years in Japanese Illustrations

1996

- Jan. 116 Yasuhiro Yomogida:
"yurayura" Swaying in Edo
- Feb. 117 Transition of Modern Typography-2
- Mar. 118 NIPPONJIN:
Posters by 23 Artists in Sao Paulo
- Apr. 119 The 8th Tokyo TDC Exhibition
- May 120 Contemporary Graphics in Hungary:
DOPP at GGG
- Jun. 121 Shigeo Katsukawa's Typographic Art:
Departure
- Jul. 122 1996 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 123 John Maeda Paper and Computers
- Sep. 124 K2 – Seitaro Kuroda /
Keisuke Nagatomo: Two Chairs
- Oct. 125 Czech Avant-Garde Book Design
1920s-'30s
- Nov. 126 Graphic Wave 1996: Katsunori Aoki /
Taku Satoh / Toshio Yamagata
- Dec. 127 Alain Le Querrec Exhibition

1997

- Jan. 128 Nisuke Shimotani: Man
Collection of CCGA:
The Prints of Josef Albers
- Feb. 129 Tadashi Ohashi: Warm Veggies
- Mar. 130 The 10th Anniversary of Tokyo TDC
- Apr. 131 Masayoshi Nakajo: ○○○
- May 132 Special Issue "Ecology"
by 8 Magazines in Japan

- Jun. 133 Tadanori Yokoo's Poster Exhibition:
Lucky God Yokoo
- Jul. 134 1997 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 135 Toshifumi Kawahara and
Polygon Pictures: Rocky Hola Shop
- Sep. 136 10 Mexican Graphic Designers
- Oct. 137 Graphic Wave 1997: Kan Akita /
Satoe Inoue / Osamu Fukushima
- Oct. The 10th Anniversary of
Masaru Katsumi Award
- Nov. 138 Shigeo Fukuda's Poster Exhibition:
Supporter
- Dec. 139 Global Exhibition: Duo Posters by
33 Designers from around the World

1998

- Jan. 140 Hachiro Suzuki: Bro Art & AD
- Feb. 141 Odermatt + Tissot Graphic Design
- Mar. 142 Stasys Eidrigevicius Exhibition
- Apr. 143 Tokyo TDC 1998 Exhibition
- May 144 Studio Dumber Exhibition
- Jun. 145 Opera Lesson by Yoko Yamamoto
- Jul. 146 1998 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 147 Yoichiro Kawaguchi:
Voyage through a Cyber Universe
- Sep. 148 Graphic Wave 1998: Tatsuo Ebina /
Keiko Hirano / Ken Miki
- Oct. 149 Gunter Rambow in Tokyo
- Nov. 150 Philippe Apeloig:
Posters in the Context of French Culture
- Dec. 151 Herbert Leupin Exhibition

1999

- Jan. 152 Furoshiki Graphics by 18 Designers
from around the World
- Feb. 153 Transition of Modern Typography in
Japan 1946-95
- Mar. 154 Tsunehisa Kimura Photo Graphics: What?
- Mar. The Works of Seichi Horiuchi
- Apr. 155 Tokyo TDC 1999 Exhibition
- May 156 Contemporary Bulgarian Graphic
Design Exhibition
- Jun. 157 Katsuhiko Hibino: Abduction
- Jul. 158 1999 Tokyo ADC Exhibition
Jul. John Maeda: One-line.com
- Aug. 159 Kijuro Yahagi Exhibition
- Sep. 160 Graphic Wave 1999: Mamoru Suzuki /
Kei Matsushita / Hiroshi Yonemura
- Oct. 161 An Exhibition of FUSE Posters and Fonts
- Nov. 162 Keizo Matsui Exhibition
- Dec. 163 Paul Davis Posters
- Dec. Irving Penn Regards
the Works of Issey Miyake

2000

- Jan. 164 Graphic Message for Ecology
Kishin Shinoyama & Manuel Legris:
A L'Opera de Paris
- Feb. 165 Bruno Monguzzi:
A Poet of Form and Function
- Mar. 166 Kenji Itoh: The Medical Journal
STETHOSCOPE – A Half Century of
Journal Cover Designs –
- Apr. 167 Tokyo TDC 2000 Exhibition
- May 168 Poster Works Nagoya 12:
Shigeo Okamoto + 11 Designers
- Jun. 169 Osaka Pop Exhibition:
"kotekote" Graphics
- Jul. 170 2000 Tokyo ADC Exhibition

Aug. 171 The Epoch of the Japan Advertising Artists Club [JAAC]
 Sep. 172 Graphic Wave 2000:Gugi Akiyama / Tycoon Graphics / Hideki Nakajima
 Oct. 173 Tztom Toda: D-ZONE
 Nov. 174 Pierre Bernard: Be Realistic, Demand the Impossible!
 Dec. 175 The Book & The Computer: New Parameters across Time and Space

2001

Jan. 176 2001 Yasuhiko Kida
 Feb. 177 Italo Lupi: Not Just Graphics
 Mar. 178 "Spring has come" Shin Matsunaga, Play Together with Details
 Apr. 179 Tokyo TDC 2001 Exhibition
 May 180 Visual Identity for Danish State Institutions by Kontrapunkt, Copenhagen
 Jun. 181 Typography of Hiromu Hara
 Jul. 182 2001 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 183 Tadahito Nadamoto: Patterns from Everyday Life
 Sep. 184 Graphic Wave 2001: Katsuhiko Shibuya / Kazufumi Nagai / Kodue Hibino
 Oct. 185 Hangul Poster Exhibition
 Nov. 186 Makoto Saito Exhibition
 Dec. 187 Chip Kidd Exhibition

2002

Jan. 188 Uwe Loesch Exhibition
 Feb. 189 Akira Uno Exhibition
 Mar. 190 Design Education: I, We, They.The Post -St Joost Method of Design Education
 Apr. 191 Tokyo TDC 2002 Exhibition
 May 192 Draft Exhibition
 Jun. 193 Alan Chan: Oriental Passion Western Harmony
 Jun. Yasuji Hanamori and "Kurashi no Techo"
 Jul. 194 2002 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 195 Noriyuki Tanaka: Out of Design
 Sep. 196 Graphic Wave 2002: Hitomi Sago / Yasuhiro Sawada / Norito Shinmura
 Oct. 197 Sun-ad: The People
 Nov. 198 Graphic Shows Brazil: Today's Brazilian Book Design
 Dec. 199 Herb Lubalin Exhibition

2003

Jan. 200 Ikko Tanaka: Poster and Graphic Art
 Feb. 201 Sadik Karamustafa Graphic Design: Journeys and Rituals, Words and Images
 Mar. 202 Contemporary Chinese Graphic Design Exhibition
 Apr. 203 Tokyo TDC 2003 Exhibition
 May 204 Fabrica 1994 / 03: From Chaos to Order and Back
 Jun. 205 Hajime Sorayama The Exhibition
 Jul. 206 2003 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 207 Minoru Niijima: Interaction of Colors and Fonts
 Sep. 208 Graphic Wave 2003: Kenjiro Sano / Nagi Noda / Kazunari Hattori
 Oct. 209 Advertising Returns! Art Direction by Soeda Takayuki
 Nov. 210 Stefan Sagmeister Exhibition
 Dec. 211 Takashi Kono: Modernist of the Showa Era 1906-99

2004

Jan. 212 Kazumasa Nagai Poster Exhibition
 Feb. 213 Keiji Ito / Hiroki Taniguchi / Hiro Sugiyama Exhibition
 Mar. 214 The Magazine Design Studio Cap Exhibition
 Apr. 215 Tokyo TDC 2004 Exhibition
 May 216 Taku Satoh: Plasticity
 Jun. 217 Danish Posters: Over the Past 10 Years, Selected by Danish Design Centre
 Jul. 218 2004 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 219 The Work of Barnbrook Design: Friendly Fire
 Sep. 220 Graphic Wave 2004: Aoshi Kudo / Graph / Namaiki
 Oct. 221 Wind and Lighting: A Half-Century of Magazine Design by Kohei Sugiura
 Nov. 222 Kashiwa Sato: Beyond
 Dec. 223 Another Side of Ayao Yamana 1920s-70s

2005

Jan. 224 The Seven Faces of Asaba
 Feb. 225 Balarinji: Ancient Culture – Contemporary Design
 Mar. 226 Katsunori Aoki XX
 Apr. 227 Tokyo TDC 2005 Exhibition
 May 228 The Graphic Design of Makoto Wada
 Jun. 229 Chermayeff & Geismar Inc: Designing over Four Decades
 Jul. 230 2005 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 231 Masahiko Sato Laboratory: Problems and Their Solutions
 Sep. 232 Graphic Wave 2005: Ichiro Tanida / Ichiro Higashizumi / Chie Morimoto
 Oct. 233 Laboratoires CCCP = Dr. Peche + Melle. Rose
 Nov. 234 Shin Sobue + cozfish Exhibition
 Dec. 235 Swiss Poster Art: 100 Years of Creation

2006

Jan. 236 Yusaku Kamekura 1915-1997: A Leading Pioneer in the World of Japanese Design
 Feb. 237 Nagi Noda: Hanpanda Contemporary Art
 Mar. 238 Cyan Exhibition
 Apr. 239 Tokyo TDC 2006 Exhibition
 May 240 Kazufumi Nagai: Hakuodo Design "Brands and Designs"
 Jun. 241 Keiichi Tanaami-ism
 Jul. 242 2006 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 243 Alexander Gelman: New York Connection
 Sep. 244 Graphic Wave 2006 School of Design: Masayoshi Kodaira / Naomi Hirabayashi / Manabu Mizuno / Eiji Yamada
 Sep. AGI Congress 2006 in Japan: Kakejiku Exhibition
 Oct. 245 Radical Advertisement [Norio Nakamura + Masahiko Sato] Activities No.6
 Nov. 246 Hideki Nakajima: Clear in the Fog
 Dec. 247 Yoshio Hayakawa: Witness to the Dawn of Japanese Design

2007

Jan. 248 Exhibitions: Graphic Messages from ggg & ddd 1986-2006 [Part I]

Feb. Exhibitions: Graphic Messages from ggg & ddd 1986-2006 [Part II]
 Mar. 249 Kimura Katsu Ten: Toy Box Ten
 Apr. 250 Tokyo TDC 2007 Exhibition
 May 251 helmut schmid: design is attitude
 Jun. 252 Masaaki Hiromura: 2D ↔ 3D
 Jul. 253 2007 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 254 The Warsaw Wind 1966-2006: Gold Prize Winning Entries from the Warsaw International Poster Biennale
 Sep. 255 Ginza Salone: Kenjiro Sano
 Oct. 256 Shinya Nakajima TV Commercial: Shinya Nakajima with 29 Art Directors
 Nov. 257 Welcome to Magazine Pool: Ten Creators Crossing Boundaries for Magazine Design
 Dec. 258 Aoba Show: Masuteru Aoba One-Man Show

2008

Jan. 259 Toda Today: Poster Art by Seiju Toda
 Feb. 260 Testimonies from Twenty Pioneers of the Graphic Design Era: Interviews by Hiroshi Kashiwagi
 Mar. 261 Textasy: Brody Neuenschwander
 Apr. 262 Tokyo TDC 2008 Exhibition
 May 263 Alan Fletcher: The Father of British Graphic Design
 Jun. 264 Hiroshi Sasaki, Leader of a Cheering Squad for the Japanese Advertising World
 Jul. 265 2008 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 266 Now Updating--- Interactive Design Works by THA Ltd. / Yugo Nakamura
 Sep. 267 The Design Cycle of Keiko Hirano: Origin, Terminus, Origin
 Oct. 268 White: Kenya Hara Exhibition
 Nov. 269 M/M (Paris) The Theatre Posters
 Dec. 270 OYKOT Wieden + Kennedy Tokyo: 10 Years of Fusion

2009

Jan. 271 Brilliant Rivalry: Works by Outstanding Designers in the DNP Archives of Graphic Design
 Feb. 272 Helvetica forever: Story of a Typeface
 Mar. 273 Draft: Branding and Art Directors
 Apr. 274 Tokyo TDC 2009 Exhibition
 May 275 Kijuro Yahagi: Magnetic Vision / 100 New Works
 Jun. 276 Max Huber – a Graphic Designer
 Jul. 277 2009 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 278 Hosoya Gan Last Show: Exhibition of an Art Director & Graphic Designer
 Sep. 279 Tadahito Nadamoto, Akira Uno, Makoto Wada and Tadanori Yokoo Show
 Oct. 280 Toshio Yamagata Exhibition
 Nov. 281 Issay Kitagawa
 Dec. 282 Kokoku Hihyo: End of One Era, Start of Another

2010

Jan.-Feb. 283 DNP Graphic Design Archives Collection II Ikko Tanaka Posters 1953-1979
 Mar. 284 DNP Graphic Design Archives Collection III Shigeo Fukuda's Visual Jumping
 Apr. 285 Tokyo TDC 2010 Exhibition
 May 286 Talking the Dragon: Tsuguya Inoue

Jun. 287 NB@ggg: Neville Brody 2010
 Jul. 288 2010 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 289 Ralph Schraivogel Exhibition
 Sep. 290 The Push Pin Paradigm: Seymour Chwast | Paul Davis | Milton Glaser | James McMullan
 Oct. 291 Seas and Mountains and Norito Shinmura
 Nov. 292 Kazunari Hattori: November 2010
 Dec. 293 Euphrates: From Research to Expression

2011

Jan. 294 Shueitai 100
 Feb. 295 Ian Anderson / The Designers Republic C(H-)ōme (+81/3)
 Mar. 296 Design Fumio Tachibana
 Apr. 297 Tokyo TDC 2011 Exhibition
 May 298 Sato Koichi Poster Exhibition
 Jun. 299 Raymond Savignac: at the Age of 41, Maestro Born from Poster [Monsavon au lait]
 Jul. 300 2011 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 301 [gggg] Groovisions Exhibition
 Sep. 302 Form, Color and Structure: The Sensual World of Aoshi Kudo
 Oct. 303 100 ggg Books 100 Graphic Designers
 Nov. 304 SVA MFA Design Ideapolis-Tokyo
 Dec. 305 Luminous Mandala: Book Designs of Kohei Sugiura

2012

Jan.-Feb. 306 DNP Graphic Design Archives Collection IV The 10th Memorial to Ikko Tanaka: Ikko Tanaka Posters 1980-2002
 Mar. 307 Rodchenko – Innovator of Russian Avant-Garde –
 Apr. 308 Tokyo TDC 2012 Exhibition
 May 309 KIGI: Ryosuke Uehara and Yoshie Watanabe
 Jun. 310 Jianping He Flashback
 Jul. 311 2012 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 312 The Posters 1983-2012: The Prize – Winning Works from The International Poster Triennial in Toyama –
 Sep. 313 Bunpei Yorifuji's Summer Homework Project
 Oct. 314 AGI (Alliance Graphique Internationale) Exhibition
 Nov. 315 Tadanori Yokoo: The First Book Design Exhibition
 Dec. 316 Theseus Chan: WERK No. 20: Ginza The Extremities of the Printed Matter

2013

Jan. 317 Shin Matsunaga Poster 100
 Feb. 318 Kari Piippo Posters & Drawings – Simple, Strong and Sharp –
 Mar. 319 DNP Graphic Design Archives Collection V LIFE – Kazumasa Nagai Poster Exhibition
 Apr. 320 Tokyo TDC 2013 Exhibition
 May 321 KM Karel Martens
 Jun. 322 Why Not Associates – We Never Had a Plan So Nothing Could Go Wrong
 Jul. 323 2013 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 324 Ellie Omiya Exhibition
 Sep. 325 PARTY Not There.



1992-2023

Oct.	326	Rikako Nagashima: "Between Human and Nature"	Sep.-Nov.	362	Typographic Composition, Yoshihisa Shirai	1992	Jul.-Aug.	51	Contemporary Graphics in Hungary: DOPP at DDD		
Nov.	327	Jan Tschichold Exhibition	Nov.-Jan.	363	Marimekko Spirit – Paavo Halonen / Maija Louekari / Aino-Maija Metsola	Jan.-Feb.	1	Trans-Art '91			
Dec.	328	Tomaszewski, The Poetic Spirit				Mar.	2	Ivan Chermayeff: Collages	Aug.-Sep.	52	1996 Tokyo ADC Exhibition
						Apr.-May	3	The 4th Tokyo TDC Exhibition	Sep.-Oct.	53	John Maeda Paper and Computers
						May-Jun.	4	Rick Valicenti Exhibition	Oct.-Nov.	54	Alain Le Quernec Exhibition
2014			2018			Jun.-Jul.	5	Seymour Chwast: Painted Metal Sculpture	Nov.-Dec.	55	Woody Pirtle: Maximum Message Minimum Means
Jan.	329	Mitsuo Katsui: Design of Symptom	Jan.-Mar.	364	Kouga Hirano and Shobunsha	Jul.-Aug.	6	Design, Print, Paper Exhibition			
Feb.	330	"Putting Finger" Masahiko Sato + Tatsuya Saito	Apr.	365	Tokyo TDC 2018 Exhibition	Aug.-Sep.	7	Vaughan Oliver Exhibition	1997		
Mar.	331	Osamu Fukushima and the Future of Design: Social Design & Poster	May-Jun.	366	wim crouwel fascinated by the grid	Oct.	8	Makoto Nakamura Solo Exhibition	Jan.-Feb.	56	João Machado Exhibition
Apr.	332	Tokyo TDC 2014 Exhibition	Jul.-Aug.	367	Harumi Yamaguchi × Yoshirotten Harumi's Summer	Oct.-Nov.	9	Michael Mabry Exhibition	Feb.-Mar.	57	K2 Osaka Exhibition: Seitaro Kuroda / Keisuke Nagatomo
May	333	phono / graph – sound, letters, graphics	Sep.-Oct.	368	Tadanori Yokoo: The Complete Drawings for "Genka" by Jakuchō Setouchi 1974-1975	Nov.-Dec.	10	Tadahito Nadamoto / Akira Uno / Makoto Wada / Harumi Yamaguchi Exhibition	Mar.-Apr.	58	Graphic Design in China
Jun.	334	Nagai Hiroaki: Graphic Jam Zukō	Dec.	369	Art Direction Japan 2018 Exhibition				Apr.-May	59	The 10th Anniversary of Tokyo TDC
Jul.	335	2014 Tokyo ADC Exhibition	Dec.-Jan.	370	Haruka Misawa – Again and Again: Ideas Coming To Mind	1993			May-Jun.	60	10 Mexican Graphic Designers
Aug.	336	Binokodu Cells: "Kodue Hibino + Nihongo de Asobo"	2019			Jan.-Feb.	11	Furoshiki by 18 Artists	Jul.	61	Cato Design Inc. : Design by Thinking
Sep.	337	So French: Michel Bouvet Posters	Feb.-Mar.	371	Paula Scher: Serious Play	Feb.-Mar.	12	Why Not Associates Exhibition	Aug.-Sep.	62	1997 Tokyo ADC Exhibition
Oct.	338	Semitransparent Design: Boring / Bored	Apr.	372	Tokyo TDC 2019 Exhibition	Mar.-Apr.	13	Allen Hori + Robert Nakata: Displaced Voices	Sep.-Oct.	63	Ralph Schraivogel: Shifted Structures
Nov.	339	Persona 1965: Exhibition of Graphic Design in Tokyo	May-Jun.	373	Tsuguya Inoue: Beginnings	Apr.-May	14	1992 Tokyo ADC Exhibition	Oct.-Nov.	64	James Victore: Post No Bills
Dec.	340	Inside the Mind of Ryoji Arai	Jul.-Aug.	374	Keiichi Tanaami Great Journey	May-Jun.	15	Russell Warren-Fisher Exhibition	Nov.-Dec.	65	Global Exhibition: Duo Posters by 33 Designers from around the World
			Aug.-Oct.	375	Sculptural Type: Kontrapunkt	Jun.-Jul.	16	The 5th Tokyo TDC Exhibition			
2015			Oct.-Nov.	376	Art Direction Japan 2019 Exhibition	Jul.-Aug.	17	Imagination of Letters	1998		
Jan.	341	Katsumi Asaba: Asaba's Typography.	Nov.-Jan.	377	What's Karl Gerstner? Thinking in Motion	Aug.-Sep.	18	Design, Print, Paper Exhibition Part II	Jan.-Feb.	66	Faydherbe / De Vringer: Looking Back into the Future
Feb.	342	Line in the sand: Paul Davis	2020			Sep.-Oct.	19	Bill Thorburn Exhibition	Feb.-Mar.	67	Jean-Benoît Lévy: Visual Activity
Mar.	343	APPLE+ Learning to Design, Designing to Learn Ken Miki	Jan.-Mar.	378	Yoichiro Kawaguchi: The Intelligence of Life	Oct.-Nov.	20	U.G. Sato's Poster Exhibition: Treedom	Mar.-Apr.	68	"Troika" 3 Dimensions of Russian Graphic Design
Apr.	344	Tokyo TDC 2015 Exhibition	Jun.-Aug.	379	Tokyo TDC 2020 Exhibition	Dec.-Jan.	21	Mitsuo Katsui: The Blessing of Light	Apr.-May	69	Philippe Apeloig: Posters in the Context of French Culture
May	345	2 Men Show: Stanley Wong × Anothermountainman	Oct.-Nov.	380	Poems of Eternal Life: The World of Kazumasa Nagai's Images and Words	Jan.-Feb.	23	Saul Bass Exhibition	Jun.	70	Tokyo TDC 1998 Exhibition
Jun.	346	Rhizomatics: The Blind Spot of Graphic Design	Dec.-Mar.	381	Survive – Eiko Ishioka	Feb.-Mar.	24	13 Pop-up Greeting	Jul.	71	Studio Dumber Exhibition
Jul.	347	2015 Tokyo ADC Exhibition				Mar.-Apr.	25	Ruedi Baur / Integral Concept Exhibition	Aug.-Sep.	72	1998 Tokyo ADC Exhibition
Aug.	348	Lars Müller BOOKS Analogue Reality	2021			Apr.-May	26	1993 Illustration 4: Mizumaru Anzai / Yosuke Kawamura / Nobuhiko Yabuki / Teruhiko Yumura	Sep.-Oct.	73	Zafryki: Piotr Młodożeniec / Marek Sobczyk
Sep.	349	Yoshiaki Irobe: Wall	Apr.-May	382	Tokyo TDC 2021 Exhibition	May-Jun.	27	Jennifer Morla Exhibition	Oct.-Nov.	74	David Tartakover: Posters No Commercial Value
Oct.	350	21st Century Rimpa Posters: Competitive Works by 10 Graphic Designers	Jun.-Jul.	383	Sports Graphic Exhibition	Jun.-Jul.	28	Kazumasa Nagai Exhibition	Nov.-Dec.	75	Taiwan 4: Yeh Kuo-Sung / Yu Ming-Lung / Shih Ling-Hung / Leslie Chan
Nov.	351	d3i d3i d3i Dainippon Type Organization	Jul.-Aug.		Special Exhibition: Olympic Language: Exploring the Look of the Games	Jul.-Aug.	29	Uwe Loesch Exhibition			
Dec.		Special Exhibition (Venue: Chiyoda City's Hihiya Library and Museum) DNP Graphic Design Archives Collection THE NIPPON POSTERS	Sep.-Oct.	384	Kasai Kaoru Exhibition: NOSTALGIA	Aug.-Sep.	30	1994 Tokyo ADC Exhibition	1999		
			Nov.	385	Art Direction Japan 2020-2021 Exhibition	Sep.-Oct.	31	Design, Print, Paper Exhibition Part III	Jan.-Feb.	76	Furoshiki Graphics by 18 Designers from around the World
			Dec.-Mar.	386	Saul Steinberg: Lines that Transform the Real World	Oct.-Nov.	32	David Carson + Gary Koepke Free-Form Typography: The New U.S. Editorial Design	Feb.-Mar.	77	Pierre Neumann: Swiss Landscape
						Dec.	33	Yusaku Kamekura New Posters	Mar.-Apr.	78	The Graphic Design of Paula Scher: Type is Image
2016			2022			1995			May-Jun.	79	Graphic Design from Hamburg: Holger Matthies + Christiane Freilinger
Jan.-Mar.		Special Exhibition (Venue: Chiyoda City's Hihiya Library and Museum) Organized by Chiyoda City's Hihiya Library and Museum / Co-organized by DNP Foundation for Cultural Promotion Shin Sobue + cozzfish BOOK DESIG	Apr.	387	Tokyo TDC 2022 Exhibition	Jan.-Feb.	34	German Montalvo Exhibition: From Sunrise to Sunset	Jun.-Jul.	80	Tokyo TDC 1999 Exhibition
			May-Jun.	388	Taku Satoh TSDO: in LIFE	Feb.-Mar.	35	Bruno Munari Exhibition	Jul.-Aug.	81	Jan Rajlich Jr.: Millhouse of the Times
			Jul.-Aug.	389	Yui Takada with ori.studio CHAOTIC ORDER	Mar.-Apr.	36	Grappa Design: from east to far east	Aug.-Sep.	82	1999 Tokyo ADC Exhibition
			Sep.-Oct.	390	Hosoya Gan – Beyond G	Apr.-May	37	The 7th Tokyo TDC Exhibition	Sep.-Oct.	83	Scott Makela: Wide Open
Apr.-May	352	ginza graphic gallery 30th Anniversary Bridge Over Troubled Water: ggg Exhibition Posters 1986-2016	Nov.	391	Art Direction Japan 2022 Exhibition	May-Jun.	38	Michel Bouvet: L'affiche, un art de la lue	Oct.-Nov.	84	The World of Chaz Maviyane-Davies
			Dec.-Jan.	392	Aquirax Uno Kaleidoscope	Jun.-Jul.	39	Ikko Tanaka: Man and Writing	Nov.-Dec.	85	2 Men from Macau: Ung Vai Meng / Victor Hugo Marreiros
Jun.	353	Tokyo TDC 2016 Exhibition				Jul.-Aug.	40	Terrelonge Exhibition			
Jul.-Sep.	354	2016 Tokyo ADC Exhibition			From the DNP Graphic Design Archives Collection	Aug.-Sep.	41	1995 Tokyo ADC Exhibition	2000		
Sep.-Oct.	355	Nosigner: Reason Behind Forms				Sep.-Oct.	42	Design, Print, Paper Exhibition Part IV	Jan.-Feb.	86	Graphic Message for Ecology
Nov.-Dec.	356	Enomoto Ryoichi Kokaiki				Oct.-Nov.	43	Peret Torrent Exhibition	Feb.-Mar.	87	Keizo Matsui Exhibition
						Nov.-Dec.	44	6 Designers in Asia Exhibition	Mar.-Apr.	88	Paul Davis Posters
2017						1996			Apr.-May	89	Osaka Pop Exhibition: "kotekote" Graphics
Jan.-Mar.	357	Masayoshi Nakajo IN & OUT				Jan.-Feb.	45	50 Years in Japanese Illustrations	May-Jun.	90	Tokyo TDC 2000 Exhibition
Apr.	358	Tokyo TDC 2017 Exhibition				Feb.-Mar.	46	Margo Chase: Digital + Organic	Jun.-Jul.	91	Anthony Beeke Posters: Body and Soul
May-Jun.	359	Roman Cieśliewicz Melting Mirage				Mar.-Apr.	47	Werner Jeker: Graphic Design	Jul.-Sep.	92	Pierre Bernard: Be Realistic, Demand the Impossible!
Jul.	360	2017 Tokyo ADC Exhibition				Apr.-May	48	Posters fro m Gunter Rambow: Comments on society	Sep.-Oct.	93	2000 Tokyo ADC Exhibition
		Special Exhibition: Farewell! Keisuke Nagatomo				May-Jun.	49	The 8th Tokyo TDC Exhibition	Oct.-Nov.	94	Italo Lupi: Not Just Graphics
Aug.-Sep.	361	Apeloiggg Tokyo Philippe Apeloig Exhibition				Jun.-Jul.	50	Kari Piippo: Simple, Strong, and Sharp			

Nov.-Dec. 95 Design Education: The Classroom Approach of Holger Matthies, Berlin University of the Arts

2001

Jan.-Feb. 96 2001 Yasuhiko Kida
Feb.-Mar. 97 Visual Identity for Danish State Institutions by Kontrapunkt, Copenhagen
Mar.-Apr. 98 Poster of Salzburg Festival
May-Jun. 99 Tokyo TDC 2001 Exhibition
Jun.-Jul. 100 Chip Kidd Exhibition
Jul.-Aug. 101 Hangul Poster Exhibition
Aug.-Sep. 102 2001 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 103 Wolfgang Weingart: My Way to Typography
Oct.-Nov. 104 "Spring has come" Shin Matsunaga, Play Together with Details
Nov.-Dec. 105 Design Education II : I, We, They. The Post-St Joost Method of Design Education

2002

Jan.-Feb. 106 Tadahito Nadamoto: Patterns from Everyday Life
Feb.-Mar. 107 Makoto Saito Exhibition
Mar.-Apr. 108 Ott + Stein: Posters from Berlin
Apr.-May 109 Studio Tapiro: Posters for the Venice Biennale
May-Jun. 110 Tokyo TDC 2002 Exhibition
Jul. 111 Posters from Vienna: The Vienna Municipal Library Archive 1883-2002
Jul.-Sep. 112 Ken Miki Exhibition
Sep.-Oct. 113 2002 Tokyo ADC Exhibition
Oct.-Nov. 114 Sadik Karamustafa: Journeys and Rituals
Nov.-Dec. 115 Contemporary Chinese Graphic Design Exhibition

2003

Jan.-Feb. 116 San-ad :The People
Feb.-Mar. 117 Ikko Tanaka: Poster and Graphic Art
Mar.-Apr. 118 Fabrica 1994 / 03: From Chaos to Order and Back
Apr.-Jun. 119 Of Ink and Chairs: The Art and Design of Kan Tai-Keung + Freeman Lau
Jun.-Jul. 120 Tokyo TDC 2003 Exhibition
Jul.-Aug. 121 Luba Lukova: From the Heart
Aug.-Sep. 122 2003 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 123 Stefan Sagmeister Exhibition
Oct.-Nov. 124 Cultural Posters from the Collection of Die Neue Sammlung München
Nov.-Dec. 125 Hajime Sorayama The Exhibition

2004

Jan.-Feb. 126 Advertising Returns!? Art Direction by Soeda Takayuki
Feb.-Mar. 127 Kazumasa Nagai Poster Exhibition
Mar.-Apr. 128 Danish Posters: Over the Past 10 Years, Selected by Danish Design Centre
Apr.-May 129 The Magazine Design Studio Cap Exhibition
May-Jun. 130 Tokyo TDC 2004 Exhibition
Jun.-Jul. 131 Pierre Mendell Exhibition
Aug.-Sep. 132 2004 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 133 The Work of Barnbrook Design: Friendly Fire

Oct.-Nov. 134 Posters from the Czech Republic: Collection 1960-2003 of the Museum of Decorative Arts in Prague
Nov.-Dec. 135 Balarinji: Ancient Culture – Contemporary Design

2005

Jan.-Feb. 136 Wind and Lighting: A Half-Century of Magazine Design by Kohei Sugiura
Feb.-Mar. 137 Cyan: 13 Years in Berlin
Mar.-Apr. 138 Kashiwa Sato: Beyond
Apr.-May 139 Mevis & Van Deursen Exhibition
May-Jun. 140 Tokyo TDC 2005 Exhibition
Jul. 141 Laboratoires CCCP = Dr. Peche + Melle. Rose
Aug.-Sep. 142 2005 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 143 Katsunori Aoki XX
Oct.-Nov. 144 German AGI Graphic Design: Perfect Form
Nov.-Dec. 145 The Graphic Design of Makoto Wada

2006

Jan.-Feb. 146 Swiss Poster Art: 100 Years of Creation
Feb.-Mar. 147 Graphic Thought Facility: GTF 50 Projects
Mar.-Apr. 148 Nagi Noda: Hanpanda Contemporary Art
Apr.-May 149 Bruno Oldani Exhibition
May-Jun. 150 Tokyo TDC 2006 Exhibition
Jun.-Jul. 151 Black and White Posters Exhibition
Aug. 152 2006 Tokyo ADC Exhibition

2007

May-Jun. 153 Exhibitions: Graphic Messages from ggg + ddd 1986-2006
Jul.-Aug. 154 Tokyo TDC 2007 Exhibition
Aug.-Sep. 155 helmut schmid: design is attitude
Oct.-Nov. 156 2007 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec. 157 Kimura Katsu Ten: Toy Box Ten

2008

Jan.-Feb. 158 Welcome to Magazine Pool: Ten Creators Crossing Boundaries for Magazine Design
Feb.-Apr. 159 Ginza Salone Osaka: Kenjiro Sano
Apr.-Jun. 160 Shinya Nakajima TV Commercial: Shinya Nakajima with 29 Art Directors
Jun.-Jul. 161 Tokyo TDC 2008 Exhibition
Aug. 162 Now Updating... Interactive Design Works by THA Ltd. / Yugo Nakamura
Sep.-Oct. 163 2008 Tokyo ADC Exhibition
Oct.-Nov. 164 Aoba Show: Masuteru Aoba One-Man Show
Nov.-Dec. 165 Graphic West: Truth And / Or Virtue: Graphic Designs by Shinnoske Sugisaki and Yoshimaru Takahashi

2009

Jan.-Feb. 166 Helvetica forever: Story of a Typeface
Mar.-Apr. 167 Brilliant Rivalry: Works by Outstanding Designers in the DNP Archives of Graphic Design
Apr.-Jun. 168 Draft: Branding and Art Directors
Jun.-Jul. 169 Tokyo TDC 2009 Exhibition
Aug.-Oct. 170 2009 Tokyo ADC Exhibition
Oct.-Dec. 171 Kijuro Yahagi: Magnetic Vision 60 / 100 New Works

2010

Jan.-Mar. 172 Graphic West 2: Sensory Boxes
Mar.-May 173 Issay Kitagawa
May-Jul. 174 Tokyo TDC 2010 Exhibition
Jul.-Sep. 175 DNP Graphic Design Archives Collection III Shigeo Fukuda's Visual Jumping
Sep.-Oct. 176 2010 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec. 177 DNP Graphic Design Archives Collection II Ikko Tanaka Posters 1953-1979

2011

Jan.-Mar. 178 Graphic West 3: phono / graph – Sound · Letters · Graphics –
Mar.-May 179 Shueitai 100
May-Jul. 180 Tokyo TDC 2011 Exhibition
Jul.-Sep. 181 Kazunari Hattori: Summer 2011 in Osaka
Sep.-Oct. 182 2011 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec. 183 100 ggg Books 100 Graphic Designers

2012

Jan.-Mar. 184 Graphic West 4: "Okumura Akio and Works" Exhibition
Mar.-May 185 DNP Graphic Design Archives Collection IV The 10th Memorial to Ikko Tanaka: Ikko Tanaka Posters 1980-2002
May-Jul. 186 Tokyo TDC 2012 Exhibition
Jul.-Sep. 187 Fumio Tachibana Exhibition
Sep.-Oct. 188 2012 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec. 189 The Posters 1983-2012: The Prize – Winning Works from The International Poster Triennial in Toyama –

2013

Jan.-Mar. 190 Graphic West 5: Type trip to Osaka typographics ti: 270
Mar.-Apr. 191 [dddg] Groovisions Exhibition
May-Jun. 192 Tokyo TDC 2013 Exhibition
Jul.-Aug. 193 DNP Graphic Design Archives Collection V LIFE – Kazumasa Nagai Poster Exhibition
Sep.-Oct. 194 2013 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec. 195 Ellie Omiya Exhibition

2014

Jan.-Mar. 196 Graphic West 6: Osaka City Museum of Modern Art Collection Modern Avant-Garde Graphics
Mar.-Apr. 197 "Putting Finger" Masahiko Sato + Tatsuya Saito
May-Jun. 198 Tokyo TDC 2014 Exhibition
Jun.-Jul. 199 Osamu Fukushima and the Future of Design: Social Design & Poster
Oct.-Dec. 200 DNP Graphic Design Archives Collection VI THE NIPPON POSTERS

2015

Jan.-Mar. 201 Nagai Hiroaki: Graphic Jam Zukō in Kyoto
Apr.-May 202 Lars Müller BOOKS Analogue Reality
Jun.-Jul. 203 Tokyo TDC 2015 Exhibition
Aug.-Oct. 204 DNP Graphic Design Archives Collection VII 20th Century Rimpa: Ikko Tanaka nippon no Nippon: helmut schmid

2016

Jan.-Mar. 206 Asaba's Assimilation: Katsumi Asaba Exhibition

Apr.-May 207 21st Century Rimpa Posters: Competitive Works by 10 Graphic Designers
May-Jul. 208 Rhizomatics: The Blind Spot of Graphic Design
Jul.-Aug. 209 Tokyo TDC 2016 Exhibition
Sep.-Oct. 210 Materiality-Immateriality Design & Innovation
Nov.-Dec. University Collaborative Exhibition: Kyoto Institute of Technology Art Manager Training Program "How Will You Go, and Where? Travel is Wonderful"
Dec. University Collaborative Exhibition: Kyoto University of Art & Design Project Center "experimental studies post past"

2017

Jan.-Mar. 211 Graphics and Music
May-Jul. 212 Masayoshi Nakajo IN & OUT
Jul.-Aug. 213 Tokyo TDC 2017 Exhibition
Sep.-Oct. 214 Kouga Hirano and Shobunsha
Nov. University Collaborative Exhibition: Seian University of Art & Design ".communication"
Dec.-Mar. 215 wim crouwel fascinated by the grid

2018

Apr.-Jun. 216 Graphic West 7: YELLOW PAGES
Jul.-Aug. 217 Tokyo TDC 2018 Exhibition
Aug.-Oct. 218 Keiichi Tanaami Dialogue
Nov.-Dec. University Collaborative Exhibition: Visual Design Lab of Kyoto City University of Arts "Learn Science through Graphics: The Story of Evolution"

2019

Jan.-Mar. 219 Typographic Composition, Yoshihisa Shirai
Mar.-Jun. 220 Tamon Yahagi / engawa: the open book veranda
Jun.-Aug. 221 Heisei Graphics
Aug.-Oct. 222 deValence – Systems as Playgrounds
Nov.-Dec. 223 Graphic West 8: Ryu Mieno Solo Exhibition 2011-2019 "Quibble"

2020

Jan.-Mar. 224 Design ZOO – Life meets design
Jun.-Oct. 225 Kontrapunkt Type
Oct.-Dec. 226 Graphic Design of Food

2021

Jan.-Mar. 227 Graphic West 9: Sulki & Min
Apr.-Jul. 228 try try try: helmut schmid typography
Jul.-Sep. 229 Takeshi Kojima: One Dream
Oct.-Dec. 230 Survive – Eiko Ishioka

2022

Jan.-Mar. 231 Osamu Torinomi Making Type: Like water, Like Air
Jul.-Sep. 232 ddd DATABASE 1991-2022
Oct.-Nov. 233 FormSWISS
Nov.-Jan. 234 GRAPHIC CUBE – FILM POSTERS From the DNP Graphic Design Archives Collection

2023

Jan.-Mar. 235 ppp groovisions

1995

- Apr.-Jul. 1 Graphic Vision Kenneth Tyler
Retrospective Exhibition: Thirty Years
of Contemporary American Prints
- Aug.-Oct. 2 Roy Lichtenstein:
Entablature → Nudes
- Nov.-Jan. 3 The Prints of Robert Motherwell

1996

- Mar.-Apr. 4 American Prints Today:
1st Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Apr.-Jul. 5 The Prints of David Hockney
- Jul.-Oct. 6 Autonomous Color: Josef Albers
- Oct.-Jan. 7 Transcending Style:
2nd Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection

1997

- Mar.-Jun. 8 The Graphics of James Rosenquist
- Jun.-Sep. 9 Printed Abstraction:
3rd Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Oct.-Nov. 10 Shinro Ohtake: Printing / Painting
- Dec.-Jan. 11 Line-Color-Image:
4th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection

1998

- Mar.-May 12 Frank Stella and Kenneth Tyler:
A Unique 30-Year Collaboration
- May-Sep. 13 Statements in Black:
5th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 14 Alan Shields: Images in Paper

1999

- Mar.-May 15 Miran Fukuda New Works: Prints
- Jun.-Sep. 16 Forms That Speak:
6th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 17 The Story of Prints

2000

- Mar.-Jun. 18 New Works 1998-1999:
7th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 19 Saburo Ota: Existence and Everyday
- Sep.-Dec. 20 DNP Archives of Graphic Design
Inaugural Exhibition:
Poster Graphics 1950-2000

2001

- Mar.-May 21 Invitation to Print Portfolios:
8th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- May-Jul. 22 Tatsumi Orimoto: 1972-2000
- Aug.-Oct. 23 Yukio Fujimoto:
Reading to Another Dimension
- Oct.-Dec. 24 2nd Exhibition of DNP Archives of
Graphic Design:
The Era of Graphic Design

2002

- Mar.-Jun. 25 Prints Leaping Into Space:
9th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 26 Kijuro Yahagi: Touching, Piercing,
and Tracing with Vision

- Sep.-Dec. 27 3rd Exhibition of DNP Archives of
Graphic Design: The Age of Individuality

2003

- Mar.-Apr. 28 Richard Gorman:
Paintings and Paper Works
- Apr.-Jun. 29 Paper as Color:
10th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 30 Frankenthaler: The Woodcuts
- Sep.-Dec. 31 11th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection

2004

- Mar.-Jun. 32 The Golden Age of Illustration
- Jun.-Sep. 33 Password:
A Danish / Japanese Dialogue
- Sep.-Dec. 34 Print Art of Today in Fukushima

2005

- Mar.-Jun. 35 The World of Contemporary American
Woodcuts:
12th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 36 Breathing Light: Shigenobu Yoshida
- Oct.-Dec. 37 decade – CCGA and Six artists

2006

- Mar.-Jun. 38 Painting on Stone:
13th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 39 Masaki Fujihata:
The Conquest of Imperfection –
New Realities Created with
Images and Media
- Sep.-Dec. 40 Tetsuya Noda: Diary

2007

- Mar.-Jun. 41 The Wonder of Intaglio:
14th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 42 Prints Given New Life:
15th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 43 Unique Impressions:
16th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2008

- Mar.-Jun. 44 Thick with Color:
17th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 45 Big Prints, Small Prints:
18th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Nov. 46 Monologues in Black:
19th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2009

- Feb.-Jun. 47 Prints and Titles:
20th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 48 Brilliant Rivalry:
Works by Outstanding Designers in
the DNP Archives of Graphic Design
- Sep.-Dec. 49 The Power of Red:
21st Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2010

- Mar.-Jun. 50 DNP Graphic Design Archives Collection II
Ikko Tanaka Posters 1953-1979
- Jun.-Sep. 51 Roy Lichtenstein:
22nd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 52 DNP Graphic Design Archives Collection III
Shigeo Fukuda's Visual Jumping

2011

- Mar. 53 The World of Geometric Abstraction:
23rd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
(Suspended because of The Great
East Japan Earthquake)
- Jun.-Sep. 54 Shueitai 100
- Sep.-Dec. 55 The World of Geometric Abstraction:
23rd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2012

- Mar.-Jun. 56 The Artists Who Express through Prints:
after 3.11
- Jun.-Sep. 57 DNP Graphic Design Archives Collection IV
Ikko Tanaka Posters 1980-2002
- Sep.-Dec. 58 The Expressive Appeal of
Copperplate Prints:
24th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2013

- Feb. The 24th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 59 THE POSTERS 1983-2012
The Prize – Winning Works from
The International Poster Triennial
in Toyama –
- Jun.-Sep. 60 Lithographs As Contemporary Prints:
25th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 61 DNP Graphic Design Archives Collection V
LIFE – Kazumasa Nagai
Poster Exhibition

2014

- Feb. The 25th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 62 Prints in Blue:
26th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jul.-Sep. 63 The Birth of Modern Design –
Osaka City Museum of Modern Art Collection
- Sep.-Dec. 64 Relief Prints:
27th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2015

- Feb. The 26th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 65 CCGA 20th Anniversary
21st Century Graphic Vision
- Jun.-Sep. 66 DNP Graphic Design Archives Collection VI
Katsumi Asaba Poster Archives
- Sep.-Dec. 67 Robert Motherwell's Lithographs:
28th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2016

- Feb. The 26th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 68 Graphics and Music
- Jun.-Sep. 69 Tadayoshi Nakabayashi:
Unknown Voyage

- Sep.-Dec. 70 Frank Stella's Imaginary Places:
29th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2017

- Feb. The 28th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 71 DNP Graphic Design Archives Collection VII
Shin Matsunaga Posters
- Jun.-Sep. 72 Kano Mitsuo:
On the Tips of Quivering Hues
- Sep.-Dec. 73 The Two Abstractions of
Josef and Anni Albers:
30th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2018

- Feb. The 29th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 74 A Select Few Colors:
From the DNP Graphic Design Archives
- Jun.-Sep. 75 Kenji Kitagawa:
Devices in Black – The Distance of Memory
- Sep.-Dec. 76 Helen Frankenthaler's Experimental
Impressions:
31st Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2019

- Mar.-Jun. 77 Heisei Graphics
- Jun.-Sep. 78 DNP Graphic Design Archives Collection VIII
Masayoshi Nakajo Posters
Freshly Picked from the Archives
- Sep.-Dec. 79 Printing through Cloth:
32nd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2020

- Mar.-Jun. 80 Graphic Design of Food
- Jul.-Sep. 81 Marks in Resonance:
Wood Engraving Today
- Sep.-Dec. 82 Words and Prints:
33rd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2021

- Mar.-Jun. 83 Ties and Bonds in Graphic Design:
DNP Graphic Design Archives Collection
- Jun.-Sep. 84 Wanderlust in Graphics
- Sep.-Dec. 85 Drawing Lines:
34th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2022

- Mar.-Jun. 86 DNP Graphic Design Archives Collection IX
KASAI KAORU POSTERS since 1973
- Jun.-Sep. 87 Physis Intaglio:
Depiction and Impression
- Sep.-Dec. 88 Masterpieces from
the Tyler Graphics Archive Collection

ギンザ・グラフィック・ギャラリー

開設 1986年3月4日
名称 ギンザ・グラフィック・ギャラリー(略称／ggg)
所在地 〒104-0061
東京都中央区銀座7丁目7番2号 DNP銀座ビル
Phone:03-3571-5206
Fax:03-3289-1389
開館時間 午前11時～午後7時
休館 日曜日、祝日
監修 永井一正

京都dddギャラリー

開設 1991年11月5日(大阪・堂島)
2007年5月24日 大阪・南堀江に移転
2014年10月9日 京都・太秦に移転
2022年7月23日 京都・四条烏丸に移転
名称 京都dddギャラリー
所在地 〒600-8411
京都府京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町620 COCON烏丸3F
Phone:075-585-5370
Fax:075-585-5369
開館時間 午前11時～午後7時(土曜・日曜・祝日は午後6時まで)
休館 月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)、
祝日の翌日(土・日にあたる場合は開館)
監修 永井一正

CCGA 現代グラフィックアートセンター

開設 1995年4月20日
名称 CCGA 現代グラフィックアートセンター
所在地 〒962-0711
福島県須賀川市塩田宮田1

企画・運営 公益財団法人DNP文化振興財団
<https://www.dnpfcp.jp/foundation>

ginza graphic gallery

Establishment: March 4, 1986
Name: ginza graphic gallery (ggg)
Location: DNP Ginza Building, 7-2 Ginza 7-chome,
Chuo-ku, Tokyo 104-0061
Phone: +81 3 3571 5206
Fax: +81 3 3289 1389
Opening Hours: 11:00am to 7:00pm
Closed on Sundays and Holidays
Adviser: Kazumasa Nagai

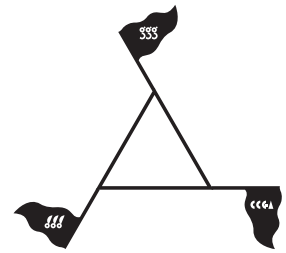
kyoto ddd gallery

Establishment: November 5, 1991 in Dojima, Osaka
Moved May 24, 2007 to Minami Horie, Osaka
Relocated October 9, 2014 to Uzumasa, Kyoto
Moved July 23, 2022 to Shijo-Karasuma, Kyoto
Name: kyoto ddd gallery (ddd)
Location: 3F COCON KARASUMA, 620 Suiginya-cho, Karasuma-dori Shijo-sagaru,
Shimogyo-ku, Kyoto City, Kyoto 600-8411
Phone: +81 75 585 5370
Fax: +81 75 585 5369
Opening Hours: 11:00am to 7:00pm (Until 6:00pm on Saturdays, Sundays and Holidays)
Closed on Mondays (Tuesday if Monday is a public holiday),
the day immediately after a public holiday (except Saturday and Sunday)
Adviser: Kazumasa Nagai

Center for Contemporary Graphic Art

Establishment: April 20, 1995
Name: Center for Contemporary Graphic Art (CCGA)
Location: Miyata 1, Shiota, Sukagawa-shi,
Fukushima 962-0711

Planning and Operation: DNP Foundation for Cultural Promotion
<https://www.dnpfcp.jp/foundation>



Graphic Art & Design Annual 2022 ggg ddd CCGA

発行	公益財団法人DNP文化振興財団 〒104-0061 東京都中央区銀座7-7-2 DNP銀座ビル Phone: 03-5568-8224
企画・編集	公益財団法人DNP文化振興財団
アートディレクション	松永 真
デザイン	松永 真次郎、清川 萌未
表紙デザイン	高田 唯
撮影	藤塚 光政 (ggg会場写真)、吉田 亮人 (ddd会場写真)
翻訳	室生寺 玲
印刷・製本	大日本印刷株式会社



公益財団法人DNP文化振興財団
DNP Foundation for Cultural Promotion

